

電子負荷機能付き高分解能多出力直流安定化電源

PDW シリーズ PDW32-6SG PDW32-3DG

PDW36-10SG PDW30-6TG PDW72-5SG PDW32-3TG

PDW36-5TG PDW60-3TG PDW32-3QG



保証について

このたびは、当社計測器をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

ご使用に際し、本器の性能を十分に発揮していただくために、本取扱説明書(以下本説明書と記します)を最後までよくお読みいただき、正しい使い方により、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。本説明書は、大切に保管してください。

お買い上げの明細書(納品書、領収書等)は保証書の代わりとなりますので、大切に保管してください。

アフターサービスに関しまして、また、商品についてご不明な点がございましたら、当社・サービスセンターまでお問い合わせください。

保 証

当社計測器は、正常な使用状態で発生した故障について、 お買い上げの日より1年間無償修理を致します。

保証期間内でも次の場合は有償修理になります。

- 1. 火災、天災、異常電圧等による故障、損傷。
- 2. 不当な修理、調整、改造がなされた場合。
- 3. 取扱いが不適当なために生じた故障、損傷。
- 4. 故障が本製品以外の原因による場合。
- 5. お買上げ明細書類のご提示がない場合。

この保証は日本国内に限り有効です。

日本国内で販売された製品が海外に持出されて故障が生じた場合、基本的には日本国内での修理対応となります。

保証期間内であっても、当社までの輸送費はご負担いただきます。

本説明書中に ①マークが記載された項目があります。この ①マークは本器を使用されるお客様の安全と本器を破壊と損傷から保護するために大切な注意項目です。よくお読みになり正しくご使用ください。

■ 商標・登録商標について

TEXIO は当社の産業用電子機器における製品ブランドです。また、本説明書に記載されている会社名および商品名は、それぞれの国と地域における各社および各団体の商標または登録商標です。

■ 取扱説明書について

本説明書の内容の一部または全部を転載する場合は、著作権者の許諾を必要とします。また、製品の仕様および本説明書の内容は改善のため予告無く変更することがありますのであらかじめご了承ください。

取扱説明書類の最新版は当社 HP (https://www.texio.co.jp/download/)に掲載されています。

当社では環境への配慮と廃棄物の削減を目的として、製品に添付している紙または CD の取説類の廃止を順次進めております。取扱説明書に付属の記述があっても添付されていない場合があります。

■ 輸出について

本器は、日本国内専用モデルです。本製品を国外に持ち出す場合または輸出する場合には、 事前に当社・各営業所または当社代理店(取扱店)にご相談ください。

■ ファームウエアバージョンについて

本書の記載内容は、PDW シリーズ本体のファームウェアが以下に記載されるバージョン以上に対応しています。

Type A: Ver1.22 PDW32-6SG, PDW32-3DG, PDW32-3TG, PDW32-3QG

Type B: Ver1.07 PDW30-6TG, PDW36-5TG, PDW60-3TG

Type C: Ver1.00 PDW36-10SG, PDW72-5SG

目次

保証について		
	ご使用いただくために	
1. 概要		5
1.1. 機能	紹介	
1.1.1.	独立出力モード、直列/並列トラッキングモード	6
1.1.2.	電子負荷機能	6
1.1.3.	定電圧(CV)動作/定電流(CC)動作	6
1.1.4.	自動トラッキングモード	
1.1.5.	表示変更機能	7
1.1.6.	出力波形機能	7
1.1.7.	フロントとリア出力機能	7
1.1.8.	リモートコントロール	7
1.1.9.	外部接点による制御	7
1.2. 特長		8
1.3. 定電	圧(CV)動作と定電流(CC)動作	9
	ル説明	
2.1. 前面	パネル	10
2.1.1.	ディスプレイ	10
2.1.2.	ファンクションキー	12
2.1.3.	10 +	13
2.1.4.	エンコーダと左右キー	13
2.1.5.	オペレーションキー	13
2.1.6.	チャンネル選択キー	13
2.1.7.	チャンネル ON/OFF キー	14
2.1.8.	全チャンネル ON/OFF キー	14
2.1.9.	USB ホストポート	14
2.1.10.	前面出力端子	15
2.1.11.	電源スイッチ	16
2.2. 背面	パネル	
2.2.1.	入力電圧切り替えスイッチ	
222	AC インレット、FUSF ホルダ	

2.2.3.	背面出力端子	17
2.2.4.	USB ポート	17
2.2.5.	LAN ポート	17
2.2.6.	RS-232C ポート	18
2.2.7.	I/O ポート	18
2.2.8.	FAN	18
	トアップ	
3.1. 電源	[一次側の確認と電源スイッチの ON	
3.2. 負荷	線の接続	
3.2.1.	前面出力端子への負荷線接続	19
3.2.2.	背面出力端子への負荷線接続	20
3.2.3.	PDW 電源に使用するケーブル	21
3.3. 前面	「と背面出力端子を選択	21
3.4. 出力	ON/OFF 操作	22
4. 基本	操作	23
4.1. ディ	スプレイの表示タイプ	23
4.1.1.	表示タイプ	23
4.1.2.	Type6 表示詳細	24
4.1.3.	表示タイプの変更方法	25
4.2. 電源	.機能	26
4.2.1.	電圧設定	27
4.2.2.	電流設定	27
4.2.3.	OVP 設定	
4.2.4.	OCP 設定	29
4.2.5.	独立出力モードでの使用方法	31
4.2.6.	直列トラッキングモードでの使用方法	33
4.2.7.	並列トラッキングモードでの使用方法	36
4.3. 電子	.負荷機能	38
4.3.1.	電子負荷機能への切り替え	39
4.3.2.	CC モード設定	39
4.3.3.	CR モード設定	
4.3.4.	CV モード設定	
_	値メモリ機能	
4.4.1.		
4.5. シー	ケンス機能	

	4.5.1.	電源または電子負荷機能の設定	45
	4.5.2.	シーケンス波形の編集方法 1	45
	4.5.3.	シーケンス波形の編集方法 2	47
	4.5.4.	シーケンス出力パラメータの設定	49
	4.5.5.	シーケンス機能の実行	50
	4.5.6.	プログラムの内部メモリへの保存と呼び出し	52
	4.5.7.	シーケンス機能のメニュー構造	54
4	.6. ディレ	·イ機能	55
	4.6.1.	電源または電子負荷機能の設定	55
	4.6.2.	ディレイ機能の Step 編集方法	56
	4.6.3.	ディレイ出力パラメータの設定	59
	4.6.4.	ディレイ停止条件パラメータの設定	61
	4.6.5.	ディレイ機能の実行	
	4.6.6.	プログラムの内部メモリへの保存と呼び出し	63
	4.6.7.	ディレイ機能のメニュー構造	65
4	.7. モニタ	ス機能	66
	4.7.1.	モニタ機能を編集するチャンネル設定	66
	4.7.2.	条件値の編集	66
	4.7.3.	使用する条件値の選択	67
	4.7.4.	比較演算子の設定	68
	4.7.5.	論理演算の設定	68
	4.7.6.	動作の設定	69
	4.7.7.	モニタ機能の実行	71
4	.8. レコー	-ダ機能	72
	4.8.1.	パラメータの設定	72
	4.8.2.	レコーダ機能の実行	75
	4.8.3.	内部メモリデータを USB メモリに保存	76
4	.9. 外部	I/O 制御機能	78
	4.9.1.	IN ポートでのパラメータ設定	78
	4.9.2.	OUT ポートでのパラメータ設定	80
	4.9.3.	I/O ポートを IN または OUT ポートに設定	81
	4.9.4.	Channel パラメータの設定	82
	4.9.5.	Type パラメータの設定	84
	4.9.6.	Response パラメータの設定	85
	4.9.7.	Condition パラメータ設定	86

4.9	9.8.	外部 I/O ポートを使用する	
4.9	9.9.	外部 I/O ポート仕様	89
4.10	. 初]期化機能	90
	10.1.	1-2	
4.	10.2.	工場出荷状態の設定内容	91
5.		ル操作	
5.1.	USB	メモリに作成できるファイル形式	92
		メモリに新規ファイルを作成	
5.3.	USB	メモリの新規ファイルにデータ保存	96
5.4.	USB	メモリデータの呼出し	98
5.5.	スクリ	ーンショット機能	100
6.	製品	システム	101
6.1.	シスラ	- ム情報	101
		- ム設定	
		シリーズで使用する USB メモリ	
6.4.	PDW	シリーズのファームウエア更新	103
7.	リモー	-卜制御	104
7.1.	インタ	フェース設定	104
7.	1.1.	インタフェース選択	104
7.	1.2.	RS-232C	
	1.3.	USB	
	1.4.	GP-IB	
	1.5.	LAN	
		バ構文	
	2.1. 2.2.	コマンド形式	
	2.2. 2.3.	記号について	
		パラメータの型	
	2.4.	コマンドの短縮型	
	2.5.	コマンドターミネータ	
		バー覧	
	3.1.	測定コマンド	
	3.2.	ディスプレイ表示関連コマンド	
	3.3.	出力コマンド 電源・電子負荷制御コマンド	
	3.4.		
	3.5.	ディレイ機能コマンド	
7.3	3.6.	モニタ機能コマンド	118

 7.3.7. 外部 I/O 機能コマンド	121124126128129130131135141
7.3.9. シーケンス機能コマンド 7.3.10. ステータスコマンド 7.3.11. システムコマンド 7.3.12. IEEE488.2 共通コマンド 7.4. コマンドの詳細	122124126129130131135141
7.3.9. シーケンス機能コマンド 7.3.10. ステータスコマンド 7.3.11. システムコマンド 7.3.12. IEEE488.2 共通コマンド 7.4. コマンドの詳細	122124126129130131135141
7.3.11. システムコマンド 7.3.12. IEEE488.2 共通コマンド 7.4. コマンドの詳細	126129130131135141
7.3.11. システムコマンド 7.3.12. IEEE488.2 共通コマンド 7.4. コマンドの詳細	126129130131135141
7.4. コマンドの詳細	129130131135141
	129 130 131 145 150
	129 130 131 145 150
/.4.1. 測止コヾノト	131 135 141
7.4.2. ディスプレイ表示関連コマンド	135 141 150
7.4.3. 出力コマンド	135 141 150
7.4.4. 電源・電子負荷制御コマンド	150
7.4.5. ディレイ機能コマンド	
7.4.6. モニタ機能コマンド	4
7.4.7. 外部 I/O 機能コマンド	155
7.4.8. レコーダ機能コマンド	
7.4.9. シーケンス機能コマンド	
7.4.10. ステータスコマンド	
7.4.11. システムコマンド	
7.4.12. IEEE488.2 共通コマンド	
7.5. SCPI ステータス レジスタ	
7.5.1. Event レジスタ	
7.5.2. Enable レジスタ	
7.5.3. Status Byte レジスタ	196
7.5.4. Standard Event レジスタ	
7.6. エラー	199
7.6.1. エラーメッセージ	
7.6.2. コマンドエラー	
8. 付録	
8.1. ヒューズの交換方法	
8.2. 製品仕様	
8.2.1. PDW32-6SG	
8.2.2. PDW36-10SG	
8.2.3. PDW72-5SG	
8.2.4. PDW32-3DG	
8.2.5. PDW30-6TG	
8.2.6. PDW32-3TG	212

8.2.7.	PDW36-5TG	214
8.2.8.	PDW60-3TG	217
8.2.9.	PDW32-3QG	219
8.2.10.	共通仕様	222
8.3. 付属	品	223
8.4. PDV	Ⅴ の寸法	224

■ はじめに

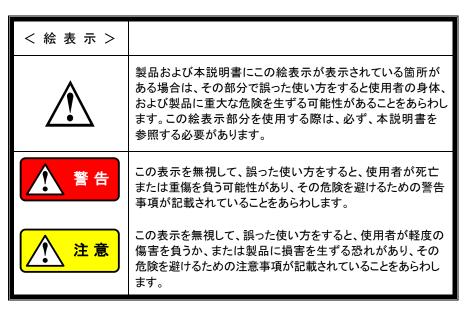
製品を安全にご使用いただくため、ご使用前に本説明書を最後までお読みください。製品の正しい使い方をご理解のうえ、ご使用ください。

本説明書をご覧になっても、使い方がよくわからない場合は、取扱説明書の末ページに記載された、当社・サービスセンターまでお問合せください。

本説明書をお読みになった後は、いつでも必要なときご覧になれるように、保管しておいてください。

■ 絵表示について

本説明書および製品には、製品を安全に使用するうえで必要な警告、および注意事項を示す、下記の絵表示が表示されています。



お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合、または、この製品の使用によって受けられた損害については、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



■ 製品のケースおよびパネルは外さないでください

製品のケースおよびパネルは、いかなる目的があっても、使用者は絶対に外さないでください。使用者の感電事故、および火災を発生する危険があります。

■ 製品を使用する際のご注意

下記に示す使用上の注意事項は、使用者の身体・生命に対する危険、および製品の損傷・ 劣化などを避けるためのものです。必ず下記の警告・注意事項を守ってご使用ください。

■ 電源に関する警告事項

■ 電源電圧について

製品の定格電源電圧は、AC100Vから AC230V または AC240Vです。

製品個々の定格電圧は製品背面と本説明書」定格」欄の表示をご確認ください。

日本国内向けおよび AC125V までの商用電源電圧地域向けモデルに付属された電源コードは定格 AC125V仕様のため、AC125Vを超えた電源電圧で使用される場合は電源コードの変更が必要になります。電源コードを AC250V 仕様のものに変更しないで使用された場合、感電・火災の危険が生じます。

製品が電源電圧切換え方式の場合、電源電圧の切換え方法は、製品個々に付属している取扱説明書の電圧切換えの章をご覧ください。

● 電源コードについて

(重要) 同梱、もしくは製品に取り付けられている電源コードは本製品以外に使用できません。

付属の電源コードが損傷した場合は、使用を中止し、当社・サービスセンターまでご連絡ください。電源コードが損傷したままご使用になると、感電・火災の原因となることがあります。

● 保護用ヒューズについて

入力保護用ヒューズが溶断した場合、製品は動作しません。

外部にヒューズホルダが配置されている製品は、ヒューズを交換することができます。交換方法は、本説明書のヒューズ交換の章をご覧ください。

交換手段のない場合は、使用者は、ヒューズを交換することができません。

ヒューズが切れた場合は、ケースを開けず、当社・サービスセンターまでご連絡ください、 当社でヒューズ交換をいたします。

使用者が間違えてヒューズを交換された場合、火災を生じる危険があります。

■ 接地に関する警告事項

製品の前面パネルまたは、背面パネルに GND 端子がある場合は、安全に使用するため、 必ず接地してからご使用ください。

■ 設置環境に関する警告事項

● 動作温度・湿度について

製品は、」定格」欄に示されている動作温度の範囲内でご使用ください。製品の通風孔をふさいだ状態や、周辺の温度が高い状態で使用すると、火災の危険があります。

製品は、」定格」欄に示されている動作湿度の範囲内でご使用ください。湿度差のある部屋への移動時など、急激な湿度変化による結露にご注意ください。また、濡れた手で製品を操作しないでください。感電および火災の危険があります。

● ガス中での使用について

可燃性ガス、爆発性ガスまたは蒸気が発生あるいは貯蔵されている場所、およびその周辺での使用は、爆発および火災の危険があります。このような環境下では、製品を動作させないでください。

また、腐食性ガスが発生または充満している場所、およびその周辺で使用すると製品に重大な損傷を与えますので、このような環境でのご使用はお止めください。

● 設置場所について

傾いた場所や振動がある場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして破損や怪 我の原因になります。

■ 異物を入れないこと

通風孔から製品内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、水をこぼしたりしないでください。

■ 使用中の異常に関する警告事項

製品を使用中に、製品より」発煙」、」発火」、」異臭」、」異音」などの異常を生じた場合は、ただちに使用を中止してください。電源スイッチを切り、電源コードのプラグをコンセントから抜くなどして、電源供給を遮断した後、当社・サービスセンターまで、ご連絡ください。

■ 入出力端子について

入力端子には、製品を破損しないために最大入力の仕様が決められています。 本説明書の」定格」欄に記載された仕様を超えた入力は供給しないでください。 また、出力端子へは外部より電力を供給しないでください。製品故障の原因になります。

■ 校正について

製品は工場出荷時、厳正な品質管理のもと性能・仕様の確認を実施していますが、部品などの経年変化などにより、その性能・仕様に多少の変化が生じることがあります。製品の性能・仕様を安定した状態でお使いいただくため、定期的な校正をお勧めいたします。製品校正についてのご相談は、当社・サービスセンターへご連絡ください。

■ 日常のお手入れについて

製品のケース、パネル、つまみなどの汚れを清掃する際は、シンナーやベンジンなどの溶剤は避けてください。

塗装がはがれ、樹脂面が侵されることがあります。

ケース、パネル、つまみなどを拭くときは、中性洗剤を含ませた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

また、清掃のときは製品の中に水、洗剤、その他の異物などが入らないようご注意ください。製品の中に液体、金属などが入ると、感電および火災の原因となります。

清掃のときは電源コードのプラグをコンセントから抜くなどして、電源供給を遮断してからおこなってください。

以上の警告事項および注意事項を守り、正しく安全にご使用ください。

また、本説明書には個々の項目でも、注意事項が記載されていますので、使用時にはそれらの注意事項を守り正しくご使用ください。

本説明書の内容でご不明な点、またはお気付きの点がありましたら、当社・サービスセンターまで ご連絡いただきますよう、併せてお願いいたします。

1. 概要

PDW シリーズは、軽量で多機能な電子負荷機能付きの直流安定化電源装置です。

PDW シリーズは、複数の電圧・電流が必要となる回路に使用することができ、また、トラッキングモードを使用することで、正負両方の出力が必要なアプリケーションにも使用することが可能です。

PDW32-6SG/ PDW36-10SG/PDW72-5SG は、リモートセンシング機能付きの 1 出力モデルです。

モデル名	電源定格出力	負荷定格入力
PDW32-6SG	32V ,6A	32V ,6A ,100W
PDW36-10SG	36V ,10A	36V ,10A ,100W
PDW72-5SG	72V ,5A	72V ,5A ,100W

PDW32-3DG は、2 出力モデルです。

モデル名	CH1/CH2 電源定格出力	CH1/CH2 負荷定格入力
PDW32-3DG	32V ,3A	32V ,3A ,50W

PDW30-6TG/PDW32-3TG/PDW36-5TG/PDW60-3TG は、3 出力モデルです。CH3 は、1.8V/2.5V/3.3V/5V の固定電圧切替え式の CV 動作のみの出力となります。

モデル名	CH1/CH2 電源定格出力	CH1/CH2 負荷定格入力	CH3 電源定格出力
PDW30-6TG	30V ,6A	30V ,6A ,50W	
PDW32-3TG	32V ,3A	32V ,3A ,50W	4 0/2 E/2 2/E\/ EA
PDW36-5TG	36V ,5A	36V ,5A ,50W	1.8/2.5/3.3/5V ,5A
PDW60-3TG	60V ,3A	60V ,3A ,50W	

PDW32-3QG は 4 出力モデルです。

モデル名	CH1/CH2	CH3 電源	CH4 電源	CH1/CH2
	電源定格出力	定格出力	定格出力	負荷定格入力
PDW32-3QG	32V ,3A	5V ,1A	15V ,1A	32V ,3A ,50W

1.1. 機能紹介

1.1.1. 独立出力モード、直列/並列トラッキングモード

PDW シリーズは、独立出力モード・直列トラッキング出力モード・並列トラッキング出力モードの3つの出力モードがあり、前面パネルのキー操作で切替えることが可能です。

独立出力モードでは、出力電圧・電流はチャンネル個別に設定します。出力端子~シャーシ間 および 出力端子~出力端子間の耐電圧は 500V です。

トラッキング出力モードでは、CH1 と CH2 が自動的に直列接続 または 並列接続されます。ケーブルによる接続は不要です。

直列トラッキングモードでは出力電圧が 2 倍になり、並列トラッキングモードでは出力電流が 2 倍になります。

1.1.2. 電子負荷機能

PDW シリーズは電子負荷機能を搭載しており、CH1, CH2 の 2 つのチャンネル(PDW32-6SG/PDW36-10SG/PDW72-5SG は、CH1 のみ)について、定電流(CC)モード・定抵抗(CR)モード・定電圧(CV)モードの 3 つの放電モードで動作させることができます。いずれの動作モードも、前面パネルのキー操作により選択することが可能です。設定電流値・設定抵抗値・設定電圧値は、それぞれの動作モードで設定が可能です。

1.1.3. 定電圧(CV)動作/定電流(CC)動作

各出力は定電圧(CV)動作、また、定電流(CC)動作します。定格最大の電流を 出力している場合でも、出力電圧の設定をすることができます。抵抗値が高い 負荷に対しては定電圧源として動作し、抵抗値が低い負荷に対しては定電流 源として動作します。

独立出カモード、または、トラッキングモードで定電圧(CV)動作している場合、 出力電流の上限値を前面パネルの操作で設定できます。独立出カモードで定 電流(CC)動作している場合の出力電圧の上限値も、前面パネルの操作で設定 できます。

出力電流が増加して電流設定値に達した場合、本機は定電圧(CV)動作から定電流(CC)動作に自動的に切替わります。逆に、出力電圧が増加して電圧設定値に達した場合には、本機は定電流(CC)動作から定電圧(CV)動作に自動的に切替わります。

定電圧動作と定電流動作の詳細については、9 ページを参照してください。

1.1.4. 自動トラッキングモード

前面パネルディスプレイ(多出力の PDW シリーズ)の CH1, CH2 には、出力電圧・出力電流が表示されます。トラッキングモードで動作している場合には、CH1 と CH2 が自動的に接続されます。

1.1.5. 表示変更機能

PDW シリーズには、LCD の表示モードが 7 種類あり、設定により切替えることができます。機種により、表示モードの種類が異なります。

詳細は 23 ページを参照してください。

1.1.6. 出力波形機能

PDW シリーズを電源として使用している場合、シーケンス機能を使って、出力電圧・電流を変化させ、電子負荷として使用している場合には、負荷の変動をさせることができます。設定変化は 1 秒のため周波数 1Hz 以下に限定されます。

詳細は 44 ページを参照してください。

1.1.7. フロントとリア出力機能

PDW シリーズはパネルメニューまたはリモートコマンドにより、入出力端子を前面パネル端子または背面パネル端子に切り替えることができます。機種によっては、背面パネルが無い機種もあります。

詳細は 21 ページを参照してください。

1.1.8. リモートコントロール

PDW シリーズは USB、GP-IB、LAN、RS-232C リモートコントロールによる制御が可能です。

詳細は 104 ページを参照してください。

1.1.9. 外部接点による制御

PDW シリーズは外部接点による制御が可能です。

詳細は、78ページを参照してください。

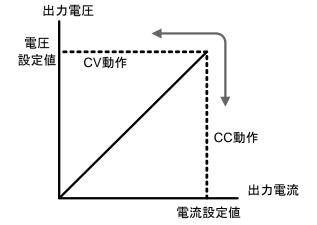
1.2. 特長

1.2. 171文		
特長		多チャンネル出力
		チャンネル数はモデルにより異なります。
		定電圧・定電流動作(CV/CC)
		小型軽量
		ハーフラックサイズで高さは 3U となり、標準ラックに
		格納可能
	•	4.3 インチの TFT ディスプレイを搭載
操作	٠	パネルからのデジタル制御
	•	出力(入力)ON/OFF 切替え、各チャンネルで個別に 制御
	•	前面パネルのキー および エンコーダによる、電圧/ 電流の設定
	•	設定状態の保存/読み出し(10 個) 電源投入時の状態設定(2 個)
		シーケンス動作の保存/読み出し(10個)
		ディレイ設定の保存/読み出し(10 個) レコード機能の保存/読み出し(10 個)
		CH1, CH2 は電子負荷として動作可能
		最大7種類の表示モードを使用可能
		最大4種類の数値表示モードと2種類の波形表示モード
		表示モードの種類は、モデルにより異なります
		外部制御用の入出力ポートを搭載
		アラーム時にブザー音を発生
		キーロック機能を搭載
		フロントとリア出力機能
		モデルにより、リア出力はありません。
保護機能	•	過電圧保護(OVP)と過電流保護(OCP)を搭載
		過熱保護(OTP)を搭載
		逆接続に対する保護を搭載
		電子負荷動作時の過電力保護(OPP)を搭載
インターフェース		RS-232C, USB, GP-IB, LAN を搭載

1.3. 定電圧(CV)動作と定電流(CC)動作

概要	本機は、負荷の変化に伴って、定電圧(CV)動作と定電流 (CC)動作が自動的に切替わります。
定電圧(CV) モード	出力電流が設定電流値よりも小さい場合、本機は定電圧 (CV)動作をします。負荷の大きさに応じて出力電流は変化しますが、設定された電圧値での出力を続けます。 定電圧(CV)動作をしている際には、前面パネルの LCD に「CV」の表示が出ます。
定電流(CC) モード	出力電流が増大して、出力電流設定値に達すると、本機は 定電流(CC)動作に切替わり、前面パネルの LCD も「CC」 の表示に切替わります。 定電流(CC)動作時には、本機は設定された出力電流値で の出力を続け、負荷の大きさに応じて出力電圧が変化する 動作をします。 出力電流が出力電流設定値を下回ると、本機は定電圧 (CV)動作に戻ります

動作範囲図



2. パネル説明

2.1. 前面パネル



2.1.1. ディスプレイ

表示例 PDW32-3QG の表示例です



チャンネルの 表示色 各チャンネルの表示内容は、チャンネルごとに次の色で表示されます。

CH1: 黄色 CH2: 青色 CH3: ピンク CH4: 緑色 トラッキング動作時には CH1 がマスターとなり、CH2 は 黄色の表示に変わります。

チャンネル毎の 表示内容



チャンネル番号 チャンネル番号も、チャンネルごとに上記の表示色で表示されます。

ただし、電圧・電流などの設定時には色が変化し、各チャンネルの表示色とオレンジ色との点滅表示となります。

CH1 の場合: ① ①

チャンネル

チャンネル番号の動作状態を表示します。

動作状態

電源モードでの動作時には、CH1/CH2/CH3/CH4 は、定 電圧(CV)動作時には緑色で CV表示となり、定電流(CC)

動作時には赤色でCC表示します。

電子負荷モードでの動作時には、CH1/CH2 について、オレンジ色で CC CR CV の表示をします。

雷圧モニタ

電圧モニタは、最大6桁表示されます。単位は[V]です。

各チャンネルの表示例: 00.0000

3 出カタイプ CH3 の表示例: 1.8 ∨

電流モニタ

電流モニタは、最大5桁表示されます。単位は[A]です。

各チャンネルの表示例: **0.0000**A

電力モニタ

電力モニタは、最大 5 桁表示されます。単位は[W]です。

設定電圧値 設定電流値

電圧と電流の設定値を表示します。

各チャンネルの表示例: Iset 1,0000

Vset 00.000

3 出力タイプ CH3 の表示例: Vset 1.8

3 出力タイプ CH3 は、設定電流値を表示しません。

設定 OVP 値 設定 OCP 値 過電圧保護(OVP)と過電流保護(OCP)の設定値を表示し ます。

各チャンネルの表示例:

OVP 34.0 00P 3.30

3 出力タイプ CH3 の表示例: 0VP 0CP(USBPort)

3 出力タイプ CH3 の OVP 設定は約 5.5V の固定値で、動 作の ON/OFF の切替えのみ可能です。

また、USB 給電ポート出力についてのみ、約3.1A で動作 する OCP が使用できます。

雷源動作状態

電源動作状態は、ディスプレイの上部に表示されます。

OTP ← USB ===

表示内容は、以下の項目です。

CHI: 設定状態が有効となっているチャンネルを表示

OTP: 加熱保護(OTP)状態であることを表示

└──: USB メモリが挿されていることを示す表示

■■: USB による通信が無効なことを示す表示

USB: USB による通信が有効なことを示す表示

■ : 外部アナログ制御が有効なことを示す表示 その他に、

トラッキングモードで動作している際には、SER(直列 時)/PAR(並列時)の表示がされます。

シーケンス動作/ディレイ動作/モニタ動作/レコーダ動作が 有効な場合には、それぞれ、SEQ/DLY/MON/REC の表示 がされます。

2.1.2. ファンクションキー

F1~F6 key

ファンクションキー(F1~F6 kev)には、PDW シリーズの各 種機能が割り当てられています。 割り当てられた機能は、 ディスプレイの下部に表示されます。



2.1.3. 10 キー



数値パラメータを入力する際に使用します。Enter key を押 して、数値パラメータを確定します。

2.1.4. エンコーダと左右キー



エンコーダはパラメータ設定の際に使用し、左右キーはパ ラメータ設定・メニュー項目の選択・電圧/電流の細かい設 定に使用します。

2.1.5. オペレーションキー



ブザー音やLCDのバックライトの設定、通信インターフェー ス等の設定に使用します。

詳細は、101ページを参照してください。



シーケンス動作やディレイ機能・モニタ機能・レコード機能 等の設定に使用します。



設定したパラメータの保存や読み出しの際などに使用しま す。

詳細は、92ページを参照してください。



前面パネルのキー操作を無効にする際に使用します。 ただし、キー操作無効状態でも、チャンネル ON/OFF キー

Unlock

は使用できます。 キー操作無効状態で F6(Unlock) kev を押すと、キー操作 無効状態が解除できます。

2.1.6. チャンネル選択キー



チャンネルの各種設定をする場合、設定を行うチャンネル 選択キー(CH1~CH4 kev)を押します。

1 出力タイプの機種には、チャンネル選択キーはありませ ん。

2出力タイプの機種には、CH3とCH4 kev はありません。

3 出力タイプの機種には、CH4 kev はありません。

2.1.7. チャンネル ON/OFF キー



チャンネルごとに出力 ON/OFF 操作をする場合、そのチャンネルの ON/OFF key を押します。

チャンネルの出力が ON になると、そのチャンネルの ON/OFF key が点灯します。

OFF:

On/Off

1 出力タイプの機種には、チャンネル ON/OFF キーはありません。

2 出力タイプの機種には、CH3 と CH4 のチャンネル ON/OFF キーはありません。

3出力タイプの機種には、CH4のチャンネルON/OFFキーはありません。

2.1.8. 全チャンネル ON/OFF キー



全てのチャンネルの出力 ON/OFF 操作をする場合、全チャンネル ON/OFF キー(ALL ON/OFF key)を押します。

全チャンネルの出力が ON になると、ALL ON/OFF key が 点灯します。

OFF:



ON-

1 出力タイプの機種は、"ALL ON/OFF"では無く、 "ON/OFF"の key になります。

2.1.9. USB ホストポート



USB メモリを装着できます。

内部メモリに保存された設定値、プログラムおよびデータを、USBメモリに保存したり USBメモリから呼び出したりする事ができます。

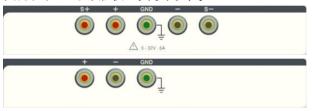
詳細は、92ページを参照してください。

2.1.10. 前面出力端子

PDW シリーズは、出力タイプにより形状が異なります。

1 出力タイプ PDW32-6SG

PDW36-10SG PDW72-5SG



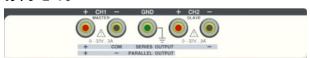
+端子と-端子は、入出力端子です。電源モード時には出力端子となり、電子負荷モード時には入力端子となります。 S+端子と S-端子は、センシング端子です。リモートセンシング機能を使用する場合、センシング線を接続します。

リモートセンシング機能を使用しない場合、+端子と S+端子、-端子と S-端子をそれぞれショートバーで接続して使用して下さい。

リモートセンシング機能を使用する場合、+端子とS+端子、 -端子とS-端子を接続しているショートバーを外して使用して下さい。

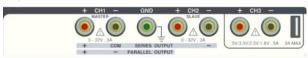
PDW36-10SG と PDW72-5SG には、S+端子と S-端子はありません。

2出カタイプ



CH1+端子とCH1-端子はCH1の入出力端子、CH2+端子とCH2-端子はCH2の入出力端子です。電源モード時には出力端子となり、電子負荷モード時には入力端子となります。

3 出力タイプ



CH1±端子と CH2±端子は、2 出力タイプと同じです。 CH3+端子と CH3-端子は CH3 の出力端子です。 CH3 は USB 給電ポートからも電力出力ができます。

/ 注意

CH3の±端子とUSB供給ポートは、PDW電源内部で並列に接続されています。2つの端子からの出力電流の合計を5A以下になる様に使用して下さい。

4 出力タイプ



CH1±端子と CH2±端子は、2 出力タイプと同じです。 CH3+端子と CH3-端子は CH3 の出力端子、CH4+端子と CH4-端子は CH4 の出力端子です。

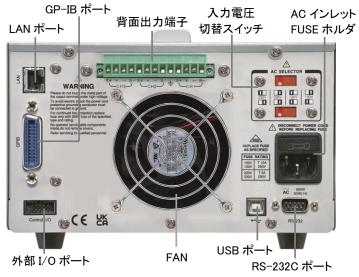
2.1.11. 電源スイッチ



電源の ON/OFF を切り替えます。

ON: OFF:

2.2. 背面パネル



上記イラストは、背面出力端子があるタイプの物です。

2.2.1. 入力電圧切り替えスイッチ



AC 入力電圧を切り換えるスイッチです。 入力電圧は、100V/120V/220V/230V±10%、周波数は 50Hz または 60Hz です。

2.2.2. AC インレット、FUSE ホルダ



AC 100V/120V/220V/230V、 周波数 50/60Hz を入力しま

使用するヒューズは、入力電圧に応じて、スローブロー型 の以下のものです。

PDW32-6SG, PDW32-3DG, PDW32-3TG,

PDW32-3QG:

100V/120V: T6.3A/250V, 220V/230V: T3.15A/250V

PDW36-10SG, PDW72-5SG, PDW30-6TG.

PDW36-5TG, PDW60-3TG:

100V/120V: T12A/250V, 220V/230V: T6.3A/250V ヒューズ交換方法は 202 ページを参照してください。

2.2.3. 背面出力端子

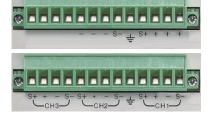
PDW32-6SG, PDW32-3DG, PDW32-3TG, PDW32-3QG の機種は、背面出 力端子がありません。

PDW36-10SG, PDW72-5SG は 1 出力タイプ、

PDW30-6TG, PDW36-5TG, PDW60-3TG については3 出力タイプになります。

動作と接続モードについては、19,31,33,36ページを参 照してください。

1 出力タイプ



左記の2種類のイ ラストは、背面出力 端子用コネクタを取 り付けた時の物で す。

3 出力タイプ

2.2.4. USB ポート



リモート制御に使用する USB 機器を接続します。 詳細は 105 ページを参照してください。

2.2.5. LAN ポート

リモートコントロール用の LAN ポート。 LAN の設定と操作の詳細については、107ページを参照 してください。

2.2.6. RS-232C ポート



リモート制御用の RS-232C ポートです。 D-sub9 ピンオス、 インチネジ使用。

詳細は 104 ページを参照してください。

2.2.7. 1/0 ポート



入出力の制御信号が使用できます。 MIL 規格準拠 10 ピンコネクタです。

使用方法等の詳細は 78 ページを参照してください。

2.2.8. FAN

ファンの開口部の近くに物を置いて、開口部を塞がないようにしてください。

3. セットアップ

3.1. 電源一次側の確認と電源スイッチの ON

電源電圧の 電源スイッチを ON にする前に、入力 AC 電圧と入力電圧 チェック 切り替えスイッチの電圧が合致していることを確認してくだ

めり合え入イッテの电圧が

背面パネルの入力電圧切り替えスイッチで、入力を 100V/120V/220V/230V のいずれかに切替えられます。

FUSE の確認 一次側の FUSE は、スローブロー型のものを使用します。

FUSE 容量は、AC インレット左に記載されています。

AC ケーブルの 取り付け 付属の AC ケーブルを AC インレットに取り付けます。 付属の AC ケーブルのアース端子をコンセント側のアース に接続すると、PDW シリーズの筐体はアースに接続(接

地)されます。



漏電時の危険を回避するため、PDW シリーズの筐体を接地してご使用ください。

電源スイッチの ON と OFF 上記事項を確認後に、電源スイッチを ON にして下さい。 電源スイッチを押すと本器は ON になり、ディスプレイが点 灯します。

電源 ON 状態にて電源スイッチを押すと、本器は OFF になります。

3.2. 負荷線の接続

3.2.1. 前面出力端子への負荷線接続

前面出力端子に使用する負荷線については、付属のケーブル(GTL-104A、GTL-105A)を使用して下さい。各ケーブルはツイスト状態での使用を推奨します。

全モデルの CH1 と CH2 端子 GTL-104A(10A 定格) 3 出力タイプの CH3 端子 GTL-104A(10A 定格) 4 出力タイプの CH3 と CH4 端子 GTL-105A(3A 定格) 1 出力タイプの S+と S-端子 GTL-105A(3A 定格)

3 出力タイプの CH3 USB 給電ポート 本出力に接続するケーブルについて は、付属品やオプション品はありませ ん。定格電流が 4A 以上の USB コネク タ(A タイプ)を接続して下さい。

3.2.2. 背面出力端子への負荷線接続

背面出力端子は、PDW36-10SG, PDW72-5SG(1 出力タイプの 2 モデル)、PDW30-6TG, PDW36-5TG, PDW60-3TG(3 出力タイプの 3 モデル)に装備されています。

背面出力端子 用コネクタの取

背面出力端子用コネクタを PSW 電源の背面出力端子部 に差し込み、背面出力端子用コネクタの左右取り付けネジ を回して固定します。

ケーブル固定 ネジ

り付け

ケーブル固定ネジは、各ケーブル取り付け部の上面にあります。

ケーブル取り付け前に、ネジを反時計回りに回しケーブル 取り付け部の口を開きます。

ケーブル取り付け後、ネジを時計回りに回しケーブルを固定します。

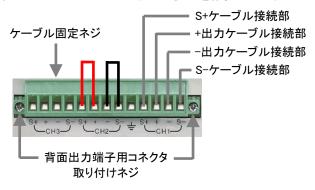
出力とセンシン グケーブルの取 り付け センシング機能を使用する場合

下記イラストの CH1 部の様に、各ケーブルを背面出力端 子用コネクタに接続します。

センシング機能を使用しない場合

下記イラストの CH2 部の様に、±出力ケーブル接続部とS±ケーブル接続部を接続します。線材にて接続する場合は、AWG20 より太い線材にて接続します。

各ケーブルはツイスト状態での使用を推奨します。



3.2.3. PDW 電源に使用するケーブル

使用する ケーブル径 前面出力端子に使用する負荷線を付属ケーブル以外のものとする場合や、背面出力端子用コネクタに接続するケーブルについては、付属品やオプション品はありません。 以下の表を参考にして、各ケーブルを用意して下さい。

ケーブル径(AWG)	許容最大電流 (A)
20	2.5
18	4
16	6
14	10
12	16

PDW シリーズと負荷とを接続するケーブルは、電流容量の十分なものを選び、ケーブルによる電圧降下やインピーダンスが小さい物を使用して下さい。

ケーブルによる電圧降下が 0.5V を超えないように、ご使用下さい。

3.3. 前面と背面出力端子を選択

PDW36-10SG, PDW72-5SG(1 出力タイプの 2 モデル)、 PDW30-6TG, PDW36-5TG, PDW60-3TG(3 出力タイプの 3 モデル)には、前面と背面出力端子装備されています。前面と背面出力端子の何れかを選択し、 PDW シリーズを使用します。 その他のモデルは、出力端子選択はできません。

手順 説明

1 System key を 2 回押します。



2 F1(Front) key を押すと前面出力端子、F2(Rear) key を押すと背面 出力端子が選択されます。選択は、Output Panel に表示されま す。



3 F6(Return) key を押すと、手順 1 の前に戻ります。



前面と背面出力端子の選択は、全てのチャンネルに適応されます。チャンネルによる選択はできません。

3.4. 出力 ON/OFF 操作

多出力タイプの機種は、チャンネルごとに出力 ON/OFF 操作ができ、全出力同時の出力 ON/OFF 操作もできます。

また、幾つかの条件下では全チャンネルが出力 OFF(強制 OFF)になります。

チャンネルごとの ON/OFF 操作

いる ON/OFF key を押すと、 該当チャンネルの出力 ON/OFF 操作ができます。 出力 ON 中は、key が点灯します。

チャンネルごとに設けられて



1出力モデルには、チャンネルごとの ON/OFF key はありません。

全チャンネル ON/OFF 操作 ALL ON/OFF key を押すと、 全チャンネルの ON/OFF 操

作ができます。

全出力 ON 中は、key が点灯 します。 出力 OFF 出力 ON

ALL
ON/OFF

ALL
ON/OFF

1出力モデルには、ON/OFF key になります。

強制 OFF の条件

電源モードと電子負荷モードとを切替えた場合

独立出力モード/直列トラッキングモード/並列トラッキング

モードを切替えた場合

メモリに保存されている設定を読み出した場合 過電圧保護(OVP)/過電流保護(OCP)/過電力保護

(OPP)/過熱保護(OTP)が動作した場合

シーケンス動作/ディレイ動作/モニタ動作/外部 I/O の動

作が、設定された条件を満たした場合

<u>!</u>注意

出力ON操作をする前に、PDWシリーズの各種設定をして下さい。

4. 基本操作

4.1. ディスプレイの表示タイプ

PDW シリーズは、目的に応じて表示タイプ(7 種類)切替えることができます。 表示タイプにより、表示される内容が異なります。

4.1.1. 表示タイプ

表示タイプ 1 出力モデル 2 出力モデル 3 出力モデル 4 出力モデル

setting

CH1

CH1

CH1

CH2

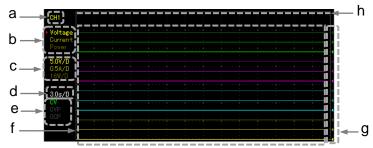


"X"は、その表示タイプはありません。

設定値が表示されるのは、Type 1, Type 4(Type 1), Type 7(Type 4)のみです。

Normal 表示: Type 1, Type 2, Type 3, Type 4(Type 1), Type 5(Type 2) Waveform 表示: Type 6(Type 3), Type 7(Type 4) ()内は、PDW36-10SG 及び PDW72-5SG の Type です。

4.1.2. Type6 表示詳細



画面は、4 出力モデルの物です。1 出力モデルは CH1 のみの表示、2 出力 モデルは CH1 と CH2 の表示、3 出力モデルは CH1、CH2、CH3 の表示に なります。

- a グラフ編集チャンネルを表示します。 グラフ編集チャンネルは、チャンネル選択キーで選択します。 CH3 はグラフ編集チャンネルを選択できません。
- b グラフ表示項目(電圧/電流/電力)を表示します。 CH 色表示となっている項目はグラフ表示されており、灰色表示の項目はグラフ表示されていません。 左右キーで項目選択します。選択項目は左に"▶"マークが表示されます。項目選択後に、Enter キーを押し表示・非表示を切替えます。
- C 選択チャンネルのグラフ表示項目で、縦軸方向のスケールを表示します。スケールは固定で、可変することはできません。
- d グラフ表示の水平軸(時間軸)スケールを表示します。スケールは固定で、可変することはできません。
- e 選択チャンネルの出力動作状態(CV/CC)と、OVP と OCP の ON(白 色表示)/OFF(灰色表示)状態を表します。
- f グラフ表示項目を CH 色でグラフ表示します。 グラフ表示項目により、CH 色の明るさに違いがあります。色の明る さは、上記「b」の表示色と同じです。
- g グラフ表示項目のゼロレベルを CH 色◀マークで表示します。 ゼロレベルは、エンコーダを使って設定できます。
- h グラフ表示上限。グラフ表示項目がグラフ表示上限を超えない様に 使用して下さい。 グラフ表示が表示上限を超えると、ゼロレベルより小さな値がグラフ 表示されます。

4.1.3. 表示タイプの変更方法

手順 説明

1 Advance key を押します。 ファンクションキーの名称が変わります。



- 2 F1(Display) key を押します。 F1(Normal) key、F2(Waveform) key になります。
- F1 key
- 3 Type 1, Type 2, Type 3, Type 4, Type 5 表示にする場合は、 F1(Normal) key を押します。 Type 6, Type 7 表示にする場合は、F2(Waveform) key を押します。
- 4 F1(Type1/Type6), F2(Type2/Type7), F3(Type3), F4(Type4), F5(Type5) key の何れかを押すと、ディスプレイの表示タイプが変更されます。
 - ファンクションキー(F1~F5キー)に表示される Type 番号はモデルによって異なります。

4.2. 電源機能



概要 PDW シリーズの各チャンネルは、電源として動作させることが可能です。チャンネルごとに電圧・電流の設定値・読み取り値を表示させることが可能で、出力状態の表示も可能です。

電圧 Vset 選択されているチャンネルの出力電圧を設定します。

設定方法は、27ページをご覧ください。

電流 Iset 選択されているチャンネルの出力電流を設定します。

設定方法は、27ページをご覧ください。

Protect OVP 過電圧保護(OVP)の動作電圧を設定します。

設定方法は、28ページをご覧ください。

OCP 過電流保護(OCP)の動作電流を設定します。

設定方法は、29ページをご覧ください。

4.2.1. 電圧設定

3 出力モデルの CH3 以外の場合

手順 項目 説明

1 チャンネル 電圧設定するチャンネル選択キーを

> 選択 押します。

> > 1出力モデルは、チャンネル選択キー

がありません。

2 F1(Voltage) key を押すと、ディスプレ 電圧選択

イに表示されている Vset 値が赤く表

示されます。

3 10 キーを使用: 電圧値

> 設定 1 10 キーで数値を入力し、ENTER

> > key、F1(V) key または F2(mV) key を

押します。

雷圧値 エンコーダと左右キーを使用:

左右キーを押すと、Vset 数値の下線 設定 2

が移動します。エンコーダを回し、その 桁の数値を増減させて設定します。

3 出力モデルの CH3 の場合

手順 項目 説明

1 チャンネル チャンネル選択キーCH3 を押します。

選択

2 雷圧値 設定したい電圧のファンクションキー

を押します。 設定

F1: 5.5V

F2: 3.3V

F3: 2.5V F4: 1.8V

4.2.2. 雷流設定

3 出力モデルの CH3 以外の場合

手順 項目 説明

チャンネル 1 電流設定するチャンネル選択キーを

> 選択 押します。

> > 1出カモデルは、チャンネル選択キー

がありません。



F1 key

Vset 00.000

1.5V 設定例 1.5→ENTE

R

1.5→F1 1500→F2





2	電流選択	F2(Current) key を押すと、ディスプレイに表示されている Iset 値が赤く表示されます。	F2 key lset 0,00 <u>0</u> 0
3	電流値 設定 1	10 キーを使用: 10 キーで数値を入力し、ENTER key、F1(A) key または F2(mA) key を 押します。	1.5A 設定例 1.5→ENTE R 1.5→F1 1500→F2
	電流値 設定 2	エンコーダと左右キーを使用: 左右キーを押すと、Iset 数値の下線が 移動します。エンコーダを回し、その桁 の数値を増減させて設定します。	

3 出力モデルの CH3 は、電流設定機能がありません。

4.2.3. OVP 設定

3 出力モデルの CH3 以外の場合				
手順	項目	説明		
1	チャンネル 選択	OVP 設定するチャンネル選択キーを押します。 1 出力モデルは、チャンネル選択キーがありません。	CH1	
2	Protect 選択	F3(Protect) key を押します。 ファンクションキーの名称が変わりま す。	F3 key	
3	OVP 選択	F1(OVP) key を押すと、ディスプレイ に表示されている OVP 値が赤く表示 されます。	F1 key 0VP 34.0	
4	OVP 値 設定 1	10 キーを使用: 10 キーで数値を入力し、ENTER key、F1(V) key または F2(mV) key を 押します。	5.5V 設定例 5.5→ENTE R 5.5→F1 0.9V 設定例 900→F2	

OVP 値 エンコーダと左右キーを使用:

左右キーを押すと、OVP 数値の下線 設定 2

が移動します。エンコーダを回し、その 桁の数値を増減させて設定します。



CH₁

5 F5(Return) key を押します。

ファンクションキーの名称が変わります。

F3(OVP ON/OFF) key を押すたび 6 OVP 機能 F3 key ON/OFF に、OVP 値の表示色が白色(ON)と灰

設定 色(OFF)に切替ります。

3 出力モデルの CH3 の場合

手順 項目 説明

1 チャンネル チャンネル選択キーCH3を押します。

選択

F5(OVP ON/OFF)キーを押すたびに、OVP の表示 2 OVP 機能 ON/OFF 色が白色(ON)と灰色(OFF)に切替ります。

設定 OVP 設定は、機能の ON/OFF のみです。

OVP が動作した場合には、OVP が赤色で表示され、出力 OFF し ます。

4.2.4. OCP 設定

3 出力モデルの CH3 以外の場合

手順 項目 説明

OCP 設定するチャンネル選択キーを 1 チャンネル

選択 押します。

1出カモデルは、チャンネル選択キー

がありません。

F3(Protect) key を押します。 Protect F3 key 2 選択 ファンクションキーの名称が変わりま

す。

F2(OCP) key を押すと、ディスプレイ OCP 選択 3

F2 key 00P 3.30 に表示されている OCP 値が赤く表示

されます。

4 OCP 値 10 キーを使用:

> 設定 1 10 キーで数値を入力し、ENTER

> > key、F1(A) key または F2(mA) key を

押します。

1.5→ENTE R 1.5→F1 1500→F2

1.5A 設定例

OCP 値 エンコーダと左右キーを使用:

設定 2 左右キーを押すと、OCP 数値の下線

が移動します。エンコーダを回し、その

桁の数値を増減させて設定します。



F4 key

5 F5(Return) key を押します。

ファンクションキーの名称が変わります。

F4(OCP ON/OFF) key を押すたび 6 OCP 機

> に、OVP 値の表示色が白色(ON)と灰 能

ON/OFF 色(OFF)に切替ります。

設定

OCP が動作した場合には、OCP が赤色で表示され、出力 OFF し ます。

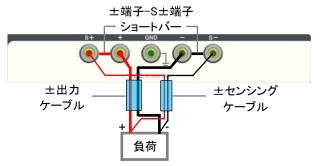
3 出力モデルの CH3 の場合、OCP 設定は ON 固定です。

4.2.5. 独立出力モードでの使用方法

PDW シリーズ各モデルの各チャンネルは互いに独立しており、チャンネル個別で設定や出力切替えなどが可能です。

前面出力端子での負荷接続

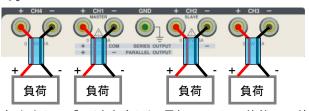
1 出力モデル PDW32-6SG にて説明



各ケーブル(水色部)は、最短でツイスト状態での使用を推奨します。

センシング機能を使用する場合、±端子-S±端子ショートバー(2 個)を外し、±センシングケーブルを配線します。 センシング機能を使用しない場合、±端子-S±端子ショートバー(2 個)を取り付け、±センシングケーブルは使用しません。

多出力モデル PDW32-3QG にて説明



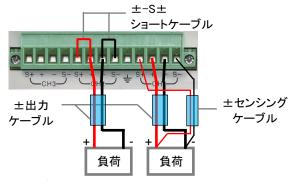
各出力ケーブル(水色部)は、最短でツイスト状態での使用 を推奨します。



前面出力端子の配列や機能は、モデルにより異なります。

背面出力端子での負荷接続

右イラストは、 3 出力タイプ の物です。



各ケーブル(水色部)は、最短でツイスト状態での使用を推奨します。

センシング機能を使用する場合(CH1 部参照)、±センシングケーブルを配線します。

センシング機能を使用しない場合(CH2 部参照)、±端子部と S±端子部にショートケーブル(2 個)を配線します。



背面出力端子の配列や機能は、モデルにより異なります。

4.2.6. 直列トラッキングモードでの使用方法

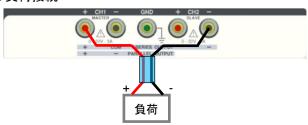
PDW シリーズ多出力モデルの CH1 と CH2 は、直列トラッキングモードで使用できます。

単出力

CH1 はマスター機として、CV および CC モードで動作します。CH2 はスレーブ機として CV モードで動作します。CH2 の出力電圧は、CH1 電圧と同じ電圧になる様に動作します。

前面出力端子での負荷接続

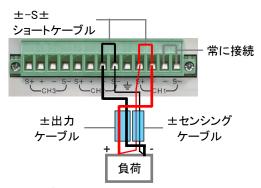
右イラストは、 2 出カタイプ の物です。



出力ケーブル(水色部)は、最短でツイスト状態での使用を 推奨します。

背面出力端子での負荷接続

右イラストは、 3 出カタイプ の物です。



各ケーブル(水色部)は、最短でツイスト状態での使用を推奨します。

センシング機能を使用する場合、±センシングケーブルを配線し、±端子部と S±端子部にショートケーブル(2 本: 赤、黒)は使用しません。

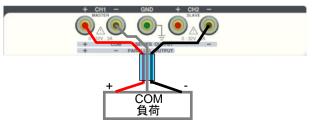
センシング機能を使用しない場合、±端子部と S±端子部に ショートケーブル(2 本:赤、黒)を配線し、±センシングケーブ ルは使用しません。

±出力

CH1 は正出力、CH2 は負出力として CV モードの電源として使用できます。 また、±出力の COM は、CH1 の-出力端子になります。

前面出力端子での負荷接続

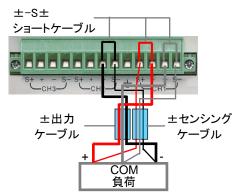
右イラストは、 2 出力タイプ の物です。



出力ケーブル(水色部)は、最短でツイスト状態での使用を 推奨します。

背面出力端子での負荷接続

右イラストは、 3 出力タイプ の物です。



各ケーブル(水色部)は、最短でツイスト状態での使用を推奨します。

センシング機能を使用する場合、±センシングケーブルを配線し、±端子部と S±端子部にショートケーブル(2 本: 赤、黒)は使用しません。

センシング機能を使用しない場合、±端子部と S±端子部に ショートケーブル(3 本: 赤、黒、灰)を配線し、±センシング ケーブルは使用しません。

設定方法

手順	項目	説明
1	モード設定	ディスプレイに"Series"表示されている F4 または F5 key を押して、直列トラッキングモードにします。 ディスプレイ上部に"SER"が黄色で表示されます。
2	CH1 設定	CH1 key を押して、CH1 の電圧値と電流値を設定します。
3	CH2 設定	CH2 key を押して、CH2 の電流値を設定します。 CH2 の電流値は、CH1 より大きく設定します。
4	出力 ON/OFF	CH1 または CH2 の ON/OFF key を押すと、直列トラッキングモードの CH1/CH2 は出力 ON/OFF が切替わります。また、All ON/OFF key によって出力 ON/OFF させることも可能です。
		電圧や電流設定の詳細については、27ページを参照 してください。
	<u>!</u> 注意	CH1 が CC モードになり CH1 出力電圧が低下すると、CH2 の出力電圧も低下します。

4.2.7. 並列トラッキングモードでの使用方法

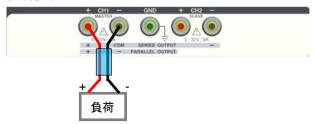
PDW シリーズ多出力モデルの CH1 と CH2 は、並列トラッキングモードで使用できます。

並列トラッキング機能は、内部で CH1(マスター)と CH2(スレーブ)とを並列接続させて1つの出力とすることで、定格電流の倍の電流を出力させることができる機能です。 CH1 を設定することで、合算される出力電流の設定が可能です。

CH1 の出力端子を、CV または CC モードの電源として使用できます。

前面出力端子での負荷接続

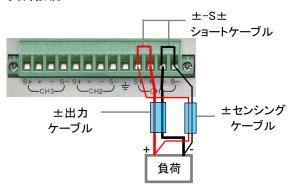
右イラストは、 2 出力タイプ の物です。



出カケーブル(水色部)は、最短でツイスト状態での使用を 推奨します。

背面出力端子での負荷接続

右イラストは、 3 出力タイプ の物です。



各ケーブル(水色部)は、最短でツイスト状態での使用を推奨します。

センシング機能を使用する場合、±センシングケーブルを配線し、±端子部と S±端子部にショートケーブル(2 本: 赤、黒)は使用しません。

センシング機能を使用しない場合、±端子部と S±端子部に ショートケーブル(2 本: 赤、黒)を配線し、±センシングケー ブルは使用しません。

設定方法

手順	項目	説明
1	モード設定	ディスプレイに"Parallel" 表示されている F4 または F5 key を押して、並列トラッキングモードにします。 ディスプレイ上部に"PAR"が黄色で表示されます。
2	CH1 設定	CH1 key を押して、CH1 の電圧値と電流値を設定します。
3	出力 ON/OFF	CH1 または CH2 の ON/OFF key を押すと、直列トラッキングモードの CH1/CH2 は出力 ON/OFF が切替わります。また、All ON/OFF key によって出力ON/OFF させることも可能です。
		電圧や電流設定の詳細については、27ページを参照 してください。

4.3. 電子負荷機能

概要

PDW シリーズ多出力モデルの CH1 と CH2 は、電子負荷として動作させることができます。



電子負荷機能の使用時には、直列トラッキング機能と並列トラッキング機能は使用できません。

小参考

LOAD OFF 時、端子に印加されている電圧が 1V 以上の場合には電圧値が表示され、1V 未満の場合には"--.--"と表示されます。



通信コマンドを使うと電圧値の変更が可能です。

モードを切り替える場合は対象のチャンネルの端子電圧が 1V 未満であることが必要です。端子に電圧がかかっている場合 や、電位が残っている場合には切り替えができません。

電子負荷機能では、背面出力端子の電圧リモートセンス機能が使用できません。

電圧 Vset

選択されているチャンネルの CV モードの電圧値 を設定します。設定方法は、40 ページをご覧くだ

さい。

雷流 Iset

選択されているチャンネルの CC モードの電流 値を設定します。設定方法は、39 ページをご覧く ださい。 抵抗 Rset 選択されているチャンネルの CR モードの抵抗

値を設定します。設定方法は、40ページをご覧く

ださい。

Protect OVP 過電圧保護(OVP)の動作電圧を設定します。

> OCP 過電流保護(OCP)の動作電流を設定します。

電子負荷機能時の Protect 設定は、電源機能と同じです。詳

細は、28,29ページをご覧ください。

4.3.1. 電子負荷機能への切り替え

手順 項目 説明

1 チャンネル 電子負荷機能にするチャンネルが電

> 源機能の時、チャンネル選択キー 選択

> > (CH1 または CH2)を押します。

F6(Load Mode) key を押します。 2 機能 ファンクションキーの名称が変わります。 切り替え

3 モード選択 電子負荷機能の放電モード(CV, CC,

CR)を選択します。放電モードはファン

ディスプレイには緑色の"LOAD"文字

クションキー(F1~F3)を押します。

が表示されます。CH 番号右に放電モ ード(CV, CC, CR)が表示されます。

4 モード変更 ファンクションキー(F4, F5)に現在設定されていない

放電モードが表示されています。

F4 または F5 key を押すと、放電モードが変わりま す。

電子負荷機能を電源機能に切り替える時は、F6(PWR. Mode) key を押します。

4.3.2. CC モード設定

手順 項目 説明

1 チャンネル 放電モードが CC 設定されているチャ 選択 ンネル選択キー(CH1 または CH2)を

押します。

2 F1(Iset) key を押すと、ディスプレイに

表示されている Iset 値が赤く表示され

ます。



F1: CV

F2: CC

F3: CR

LOAD



3 電流値 テンキーを使った設定:

設定 1 テンキーで数値を入力し、ENTER

key、F1(A) key または F2(mA) key を

押します。

電流値 左右キーとエンコーダ:

設定 2 左右の矢印キーを押すと、Iset 数値の

下線が移動します。エンコーダを回し、その桁の数値を増減させて設定し

ます。



1.5A 設定例

1.5→ENTER 1.5→F1

1500→F2

4.3.3. CR モード設定

手順 項目 説明

1 チャンネル 放電モードが CR 設定されているチャ 選択 ンネル選択キー(CH1 または CH2)を

押します。

2 F1(Rset) key を押すと、ディスプレイに表示されている Rset 値が赤く表示

されます。

3 抵抗値 テンキーを使った設定:

設定 1 テンキーで数値を入力し、ENTER

keyまたはF1(OHM) keyを押します。

抵抗値 左右キーとエンコーダ:

設定 2 左右の矢印キーを押すと、Rset 数値

の下線が移動します。エンコーダを回 し、その桁の数値を増減させて設定し

ます。



Rset 0000

15Ω 設定例 15→ENTER 15→F1



4.3.4. CV モード設定

手順 項目 説明

1 チャンネル 放電モードが CV 設定されているチャ 選択 ンネル選択キー(CH1 または CH2)を

押します。

2 F1(Vset) key を押すと、ディスプレイ

に表示されている Vset 値が赤く表示

されます。



Vset 00.00

3 電圧値 テンキーを使った設定:

設定 1 テンキーで数値を入力し、ENTER

key、F1(V) key または F2(mV) key を

押します。

電圧値 左右キーとエンコーダ:

設定 2 左右の矢印キーを押すと、Vset 数値

の下線が移動します。エンコーダを回 し、その桁の数値を増減させて設定し

ます。

5V 設定例 5→ENTER 5→F1 5000→F2



4.4. 設定値メモリ機能

概要

PDW シリーズは、パラメータ(CH key を押して F1-F5 key 操作にて設定できる各入出力設定値)を、内部メモリ(最大 10 種類)および USB メモリに保存する事ができます。また、保存したパラメータを呼び出す事ができます。

パラメータは、内部メモリおよび USB メモリに保存し、呼び出しする事ができます。ここでは、内部メモリへの保存と呼び出しについて説明しています。 USB メモリへの保存と呼び出しについては、"ファイル操作: 92 ページ"をご覧ください。



4.4.1. 入出力設定値を内部メモリに保存と呼び出し

設定パラメータを、内部メモリ(最大 10 種類)への保存し、その各設定値を呼び出す事ができます。

手順	項目	説明	
1	チャンネル 選択	設定するチャンネルのチャンネル選択 キーを押します。	CH1-4 key
2	入出力値 の設定	F1-F5 key を押し設定するパラメータ を選択し、パラメータ設定をします。	F1-F5 key
3	Memory 画面選択	Memory key を押し、ディスプレイをパラメータの保存と呼び出し画面にします。	Memory key
4	保存先 選択	エンコーダと左右キーにて、LCD 左列"Men"を選択後に、LCD 右列内部メモリ(STATE01- STATE09)を選択します。 選択されている内部メモリは、黒白反転表示になっています。	

5	保存	F3(Save) key を押すと、本操作の手 F3: Save 順 2 で設定されたパラメータが、選択 内部メモリ(STATE01- STATE09)に 保存されます。
6	呼び出し 先選択	パラメータを呼び出したい内部メモリ(STATE01~ STATE09)を選択します。
7	呼び出し	F4(Recall) key を押すと、選択された F4: Recall 内部メモリ(STATE01- STATE09)か らパラメータが呼び出されます。
8	Return	F6(Return) key を押すと、ひとつ前の動作に戻ります。
	/!注意	内部メモリ(STATE01- STATE09)に設定パラメータ が保存されていない場合、F4(Recall) key 操作はで きません。

4.5. シーケンス機能

概要

シーケンス機能は、設定された電源または電子負荷機能で Stepの電圧および電流値を Step 実行時間に合わせて実行し ます。

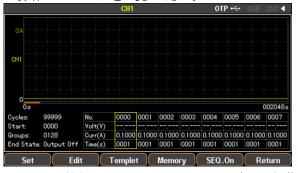
シーケンス機能は、CH1 と CH2 に最大 2048 個 (No.0000 ~ 2047) の異なる Step を設定できます。

各 Step には、電圧値、電流値、および Step 実行時間が設定できます。

シーケンス機能は、設定されたシーケンス出力パラメータを実行します。シーケンス出力パラメータは、開始 Step No.(Start), 実行 Step 数(Groupe), シーケンス繰り返し回数(Cycles)を設定します。

例: Start 0009, Groups 0040, Cycles 00001 の場合 Step No.0009 → No.0010 → No.0011 →・・・→No.0048 → No.0049 を 1 回実行します。

シーケンス出カパラメータはシーケンスプログラムとして、内部メモリおよび USB メモリに保存し、呼び出しする事ができます。ここでは、内部メモリへの保存と呼び出しについて説明しています。USB メモリへの保存と呼び出しについては、"ファイル操作: 92 ページ"をご覧ください。



!\注意

シーケンス機能は、CH1, CH2 の電源及び電子負荷機能で使用可能です。電子負荷機能では CV、CC モードのみとなります。

4.5.1. 電源または電子負荷機能の設定

CH1 および CH2 の機能(電源または電子負荷)を設定してから、シーケンス機能の各パラメータを設定し、シーケンスプログラムを作成します。

手順 項目 説明

1 出力 OFF 全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。

確認 また、F6 keyが"Return"表示されている場合、F6 key

を何回か押して"Return"表示しない状態にします。

CH₁

2 チャンネル シーケンス機能を使用するチャンネル

選択 選択キー(CH1 または CH2 key)を押

します。

動作機能 シーケンス機能を電源機能で使用す 39 ページ

選択
るか電子負荷で使用するかを選択し

ます。電子負荷機能で使用する場合は、放電モードも選択します。

注音

3

電子負荷機能での使用

放電モード CV 設定:

電圧値設定が可能で、電流値設定はできません。

放電モード CC 設定:

電流値設定が可能で、電圧値設定はできません。

放電モード CR 設定:

シーケンス機能が使用できません。

4.5.2. シーケンス波形の編集方法 1

シーケンス波形の編集方法は、"Step No. "を設定してから各 Step のパラメータ (Voltage, Current, Time)を設定します。

手順 項目 説明

1 出力 OFF 全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。

確認 また、F6 keyが"Return"表示されている場合、F6 key

を何回か押して"Return"表示しない状態にします。

2 シーケンス Advance→F2(Sequense)の順で、Keyを押します。

機能設定

3 編集選択 F2(Edit) key を押すと、F1-F4 key がシーケンスの各

Step パラメータ表示になります。

4 Step No. の設定

F1(No.) key を押すと、ディスプレイに表示されている Step No.値が赤く表示されます。設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、F1(Done)または Enter keyを押します。

No. 0000 Step No. 設定範囲: 0000-2047

F4(Page Up) key や F5(Page Down) key を押すと、次の 8 Step または 前の 8 Step を設定できます。

"Step No." が設定されたパラメータは、黄色または 青色の四角表示になります。

5 電圧値の 設定 F3(Voltage) key を押すと、ディスプレイに表示されている Volt(V)値が赤く表示されます。設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、F1(V), F2(mV)またはEnter key を押します。

Volt(V) 05.000 Voltage 設定範囲: 定格雷圧

電流値の 設定 F4(Current) key を押すと、ディスプレイに表示されている Curr(A)値が赤く表示されます。設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、F1(A), F2(mA)またはEnter key を押します。

Curr(A) 01000 Current 設定範囲: 定格電流

!注意

シーケンス機能を電子負荷機能で使用する場合、電圧値または電流値のみの何れかの設定になります。

Step 継続 時間の設 定 F2(Time) key を押すと、ディスプレイに表示されている Time(s)値が赤く表示されます。設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、F1(Second)、または Enter key を押します。

Time(s) 0001 Time 設定範囲: 1s-300s

パラメータ(Voltage, Current, Time)値設定中に、 F4(Last) key や F5(Next) key を押すと、前 Step また は次 Step のパラメータ値設定ができます。

6 Return

F6(Return) key を押すと、ひとつ前の動作に戻ります。

4.5.3. シーケンス波形の編集方法 2

シーケンス波形の編集方法は、本機に搭載されているひな形波形を使用して、 シーケンス波形を編集することもできます。

本器搭載のひな形波形は、Sine, Pulse, Ramp, Stair Up, Stair Dn, Stair UpDn, Exp Rise, EXP Fall の 8 種類です。

シーケンス波形の編集方法は、本編集方法とシーケンス波形の編集方法 1 を併用する事ができます。本編集方法で作成されるひな形波形を連続して、シーケンス波形として作成できます。

2711121122211111222			
手順	項目	説明	
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF にまた、F6 key が"Return"表示されているを何回か押して"Return"表示しない状態	場合、F6 key
2	シーケンス 機能設定	Advance→F2(Sequense)の順で、Key	を押します。
3	編集選択	F3(Templet) key を押すと、F1-F5 key 波形編集パラメータ表示になります。	がシーケンス
4	電圧/電流 編集の設 定	F1(Object) keyを押すと、ディスプレイに表示されている Object 右文字 Voltage/Current が切り替わります。	©ject Voltage 電圧波形を 編集 ©ject Gurrent 電流波形を 編集
	注意	シーケンス機能を電子負荷機能で使用 圧値または電流値のみの何れかの設定 F1(Object) key 操作はできません。	
5	ひな形波 形の選択	F2(Type) key を押すと、F1-F4 key に ひな形波形が表示されます。	F1: Sine F2: Pulse F3: Ramp F4: Stair Up
		F5(More) key を押すと、F1-F4 key に表示されるひな形波形が変わります。 F1-F4 key を押しひな形波形を選択します。	F1: Stair Dn F2: Stair UpDn F3: Exp Rise F4: Exp Fall
6		ひな形波形を選択すると、LCD 下側に の設定パラメータが表示されます。 F5(Return) key を押して前画面に戻りる	

7 波形高低 F3(Max Value/High Level) key および F4(Mni 値設定 Value/ Low Level) key を押すと、波形の高低値を設定できます。 設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、F1(V/A), F2(mV/mA)または Enter key を押します。

8 共通 波形高低値設定後に、F5(Return) key を押して前画 パラメータ 面に戻ります。

設定 F5(More) keyを押すと、その他のパラメータが設定できます。

Start | 1920

設定範囲:

0000-2037
Points 0123

設定範囲:

10-2047 Interval 005

Interval

1s-300s

設定範囲:

Start

Point

開始 F1(Start) key を押すと、選択した波形 Step No. が開始される Step No.を設定できま設定 す。

波形 F2(Point) keyを押すと、選択した波形 Step 数 を何 Step 使って変化させるのかを設 設定 定できます。

1 Step F3(Interval) keyを押すと、選択した波 実行時間 形の 1 Step 当たりの時間を設定でき の設定 ます。

パラメータ値(Start, Point, Interval) 設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。設定後に、F1(Done), または Enter keyを押します。数値設定後に F5(Return) key を押して前画面に戻ります。

9 その他の 選択されたひな形波形により、設定するパラメータ数 パラメータ が異なります。

設定 F4(More) keyを押すと、その他のパラメータ設定ができます。

10 編集波形 FX(Construct) key を押すと、選択されたひな形波形 の適用 のパラメータが有効になります。 Construct key を押さないと、ひな形波形のパラメー

11 Return F6(Return) key を押すと、ひとつ前の動作に戻ります。

タが有効になりません。

4.5.4. シーケンス出力パラメータの設定

シーケンス開始 Step No.(Start), 実行シーケンス Step (Gropes), シーケンス 繰り返し回数(Cycles), シーケンス終了状態(End State)を設定します。

繰り返し回数(Cycles),		シーケンス終了状態(End State)を設定し	<i>が</i> よす。
手順	項目	説明	
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF にしまた、F6 keyが"Return"表示されているを何回か押して"Return"表示しない状態	場合、F6 key
2	シーケンス 機能設定	Advance→F2(Sequense)の順で、Key	を押します。
3	Step No. パラメータ 確認	シーケンス機能を使用するチャンネルの パラメータ(Volt, Curr, Time)が設定され 認します。	•
4		F1(Set) key を押すと、F1-F5 key が シーケンス出力パラメータ表示になり ます。	F1: Set
5	シーケンス 繰り返し 回数設定	F1(Cycles) key を押すと、LCD に表示されている Cycle 値が赤く表示され、シーケンス繰り返し回数が設定できます。設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、F1(Done)または Enter key を押します。 F5(Infinite) key を押すと、シーケンス繰り返し回数を無限大に設定できます。	Cycles 9999 Cycles 設定範囲: 00001 -99999, Infinite
	シーケンス 開始 Step 設定	F2(Start) keyを押すと、LCDに表示されている Start 値が赤く表示され、シーケンス開始 Step No.が設定できます。設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、	Start: 2047 Start 設定範囲: 0000-2047

F1(Done)または Enter key を押しま

す。

実行シーF3(Gropes) key を押すと、LCD に表ケンスたされている Gropes 値が赤く表示さいます。設定はテンキー、左右キーとエ

Groups: 0001 Gropes 値 設定範囲: 0001-2047

End State:

Output

Off/Last

ンコーダを使用します。数値設定後 に、F1(Done)または Enter key を押し ます。

<u>!</u>注意

Start と Gropes 値は、以下の関係になる様に設定し

Start 値 + Gropes 値 ≦ 2048

シーケンス F4(End Sta 終了状態 ンス終了時 の設定 Output Off I

F4(End State) key を押すと、シーケンス終了時の動作を設定できます。

Output Off は、Output(Load) Off になります。

Last は、シーケンス最後の Step 状態で、Output(Load) On になります。

6 Return F6(Return) key を押すと、ひとつ前の動作に戻ります。

4.5.5. シーケンス機能の実行

シーケンス機能は、CH1 と CH2 を別々に実行させることも、CH1 と CH2 を同時に実行させることもできます。

手順 項目 説明

1 出力 OFF 全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。 確認 また、F6 keyが"Return"表示されている場合、F6 key を何回か押して"Return"表示しない状態にします。

2 シーケンス Advance→F2(Sequense)の順で、Key を押します。 機能設定

3 Step No.と シーケンス機能を使用するチャンネルの Step No.のシーケンス パラメータ(Volt, Curr, Time)とシーケンス出力パラメ出力のパ ータ(Start, Gropes, Cycles, End State)が設定されラメータ確 ている事を確認します。 認

4 指定チャン ネルの実 行 シーケンス機能を実行するチャンネル 選択キー(CH1 または CH2)を押し、 F5(SEQ. On) key を押すと、選択した

チャンネルのシーケンス機能が実行されます。

この時、ON/OFF key が点灯します。



F5: SEQ. On

/ 注意 消灯中の CH On/Off key を押すと、key が点灯します。そのチャンネルはシーケンス機能を実行せずに、電源または電子負荷として On 状態になります。

CH1、 CH2 同時 実行 ALL ON/OFF key を押すと、CH1 と CH2 が同時にシーケンス機能を実行 します。

ALL ON/OFF

この時、CH1とCH2のON/OFF keyとALL ON/OFF keyが点灯します。

<u>!</u>注意

ALL ON/OFF key を使用しシーケンス機能を実行すると、他のチャンネルも Output On になります。

5 選択チャンネルの再実行

シーケンス機能実行中に F1(Restart) F1: Restart key を押すと、選択したチャンネルの シーケンス機能を Start Step から再実 行します。

CH1、 CH2 同時 再実行 CH1 と CH2 がシーケンス機能実行中 F2: Sync に F2(Sync) key を押すと、CH1 と CH2 のシーケンス機能を Start Step から再実行します。

F2(Sync) key を押し CH1 と CH2 が Start Step から再実行されると、LCD の左側に"Sync"文字が表示されます。

CH1 と CH2 を再度 Start Step から再実行させる場合、F2(Sync) key を押し"Sync"文字を消して下さい。

6 シーケンス 機能停止 シーケンス機能実行中に F4(SEQ. Off) key または指定チャンネルの On/Off key を押すと、選択したチャンネルのシーケンス機能が停止します。

CH1 と CH2 がシーケンス機能実行中 に All On/Off key を押すと、CH1 と CH2 のシーケンス機能が停止します。 F4: SEQ. Off





4.5.6. プログラムの内部メモリへの保存と呼び出し

本器は、シーケンスプログラムを内部メモリに保存と呼び出しができます。 内部メモリには、CH1 と CH2 を 1 組として最大 10 個のシーケンスプログラム (SEQUENCE00~09) を保存できます。また、保存されたシーケンスプログラムから任意のプログラムを CH1 と CH2 を 1 組として呼び出す事ができます。

手順 項目 説明

1 出力 OFF 全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。
確認 また、F6 key が"Return"表示されている場合、F6 key を何回か押して"Return"表示しない状態にします。

2 シーケンス Advance→F2(Sequense)の順で、Key を押します。

3 F4(Memory) key を押すと、ディスプレイと F1-F5 key がシーケンスプログラムの保存と呼び出し表示になります。選択されているパラメータは、黒白反転表示になっています。



4 内部メモリ 選択

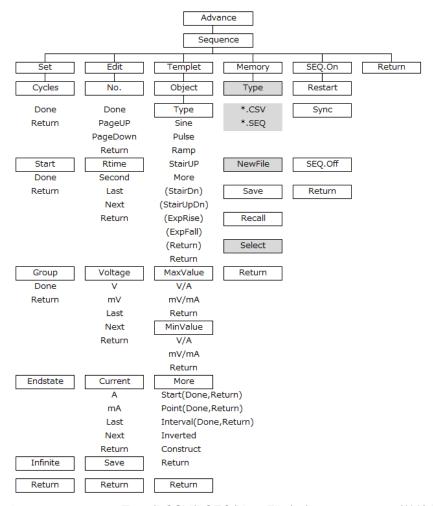
機能設定

エンコーダで"Mem"を選択し、左右 key(右 key)を押しエンコーダで SECUENCE00-09 を選択します。下図では、SECUENCE00 が選択状態です。



5 保存 F3(SAVE) key を押すと、手順3で選 F3: SAVE 択された SECUENCExx に、現在設 定されているシーケンスプログラムが 保存されます。 保存されるシーケンスプログラムは、本操作の手順 1 で設定されているシーケンスプログラムです。 F4(Recall) key を押すと、手順 4 で選 F4: Recall 呼び出し 6 択された SECUENCExx から、シーケ ンスプログラムが呼び出されます。 Return F6(Return) key を押すと、ひとつ前の動作に戻りま 7 呼び出される内部メモリにシーケンスプログラムが保 存されていない場合、呼び出し操作はできません。

4.5.7. シーケンス機能のメニュー構造



注: メモリ メニューで、Type/*.CSV/*.SEQ/New File/選択は、USB メモリが接続されている場合にのみ表示されます。

4.6. ディレイ機能

概要

ディレイ機能は、設定された電源または電子負荷機能で電圧、電流および抵抗値を一定状態で Output(または Load) On/Off を Step 実行時間に合わせて実行します。

ディレイ機能は、CH1とCH2 に最大 2048 個 (No.0000 ~ 2047) の異なる Step を設定できます。

ディレイ機能の各 Step には、Output または Load On/Off および Step 実行時間が設定できます。

ディレイ機能は、設定されたディレイ出力パラメータを実行します。ディレイ出力パラメータは、開始 Step No.(Start), 実行 Step 数(Groupe), シーケンス繰り返し回数(Cycles)を設定します。また、停止条件(Stop Con)も設定できます。

例: Start 0009, Groups 0040, Cycles 00001 の場合 Step No.0009 → No.0010 → No.0011 →・・・→No.0048 → No.0049 を 1 回実行します。

ディレイ出カパラメータはディレイプログラムとして、内部メモリおよび USB メモリに保存し、呼び出しする事ができます。ここでは、内部メモリへの保存と呼び出しについて説明しています。USB メモリへの保存と呼び出しについては、"ファイル操作: 92 ページ"をご覧ください。



4.6.1. 電源または電子負荷機能の設定

CH1 および CH2 の機能(電源または電子負荷)を設定してから、ディレイ機能の各パラメータを設定し、ディレイプログラムを作成します。

手順 項目 説明

1 チャンネル ディレイ機能を使用するチャンネル選 選択 択 key(CH1 または CH2)を押します。



2 動作機能 ディレイ機能を電源機能で使用するか 39 ページ 選択 電子負荷で使用するかを選択します。 電子負荷機能で使用する場合は、放 電モードも選択します。

4.6.2. ディレイ機能の Step 編集方法

手順	項目	説明
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。 また、F5 keyが"Return"表示されている場合、F5 key を何回か押して"Return"表示しない状態にします。
2	ディレイ 機能設定	Advance→F3(Delay)の順で、Key を押します。
3		F2(Edit) key を押すと、F1-F4 key がシーケンスの各 Step パラメータ表示になります。
4	Step No. の設定	F1(No.) key を押すと、LCD に表示されている Step No.値が赤く表示されます。設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、F1(Done)または Enter key を押します。
		F4(Page Up) key や F5(Page Down) key を押すと、 次の 8 Step または 前の 8 Step を設定できます。 "Step No." が設定されたパラメータは、黄色または 青色の四角表示になります。 F1(Done), F6(Return) key を押すと、本操作手順 2 に戻ります。
5	Step の On/Off 設定	本操作手順 3 の状態にて F2(State) key を押すと、Step の Output(または Load) On/Off を State に設定できま す。 F1(On) key を押すと State は On、 F2(Off) key を押すと State は Off に設定されます。 F3(Inverted) key を押すと、State は Off→On または On→Off になります。 F6(Return) key を押すと、本操作手順 3 に戻ります。

6 Step 継続 時間の設 定 本操作手順3の状態にてF3(Time) keyを押すと、LCDに表示されている Delay(s)値が赤く表示されます。設定 はテンキー、左右キーとエンコーダを Delay(s) 設定範囲: 1s-300s

数値設定後に、F1(Second), または Enter key を押します。

使用します。

F1(Second), F6(Return) key を押すと、本操作手順3に戻ります。

パラメータ(State, Time)値設定中に、F4(Last) key やF5(Next) key を押すと、前 Step または次 Step のパラメータ値設定ができます。

7 Step の On/Off 自動設定 F4(Pattern) key を押すと、Start Step から Groups で設定された STEP まで の Step の On/Off を自動的に設定し F1: 01 Patt F2: 10 Patt

ます。 F1(01 Patt)および F2(10 Patt) key を 押して、Step の On/Off パターンを設 定します。

設定例

Start 0000, Groups 0004 の場合

Patt 設定 01 Patt 10 Patt
 No.
 0000
 0001
 0002
 0003

 State
 Off
 On
 Off
 On

 State
 On
 Off
 On
 Off

F6(Return) key を押すと、本操作手順3に戻ります。

8 Step 継続時間 自動設定 F5(Time set) key を押すと、Start Step から Groups で設定された Step までの Step 継続時間(Delay)を自動 的に設定できます。

F1: Model Fix TIME / Increase / Decline

時間の自動設定は、以下の3種類があり、F1(Model) keyを押して選択します。自動設定の種類は、Time Gen表示右に表示(Fix TIME/ Increase/Decline)されます。

1: Fix TIME

On Delay & Off Delay

2: Increase

Base Val と Step(増加)

3: Decline

Base Val と Step(減少)

Fix TIME

この設定は、State が On に設定された全て Step の Step 継続時間と State が Off に設定された全て Step の Step 継続時間を自動的に設定します。 On または Off の Step 継続時間は、それぞれ同じに設定されます。

Fix TIME を選択すると、F2(On Dlay) key、F3(Off Dlay) key になります。

F2(On Dlay) key を押して On 状態の F2: On Dlay Step、F3(Off Dlay) key を押して Off 状態の Step の Step 継続時間を設定します。

設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、F1(Second), または Enter keyを押します。

Fix TIME 設定例 Start 0000, Groups 0004,

On Dlay 010s, Off Dlay 020s の場合

No.	0000	0001	0002	0003
State	Off	On	Off	On
Delay(s)	020	010	020	010

Increase

この設定は、Start Step の Step 継続時間を基本時間 (Base time)とし、次の Step の Step 継続時間を前 Step 継続時間+Step(s)に設定します。

Fix TIME を選択すると、F2(Base time) key、F2(Stap) key になります

F3(Step) key になります。

F2(Base time) key を押して基本時 F2: 間、F3(Step) key を押して増加時間を Base time 設定します。 F3: Step

設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、F1(Second), または Enter keyを押します。

Increase 設定例 Start 0000, Groups 0004,

Base time 010s, Step 005s の場合

No.	0000	0001	0002	0003
State	Off	On	Off	On
Delay(s)	010	015	020	025

Decline

この設定は、Start Step の Step 継続時間を基本時間 (Base time)とし、次の Step の Step 継続時間を前 Step 継続時間-Step(s)に設定します。

Fix TIME を選択すると、F2(Base time) key、

F3(Step) key になります。

F2(Base time) key を押して基本時 F2:

Base time 間、F3(Step) key を押して減少時間を F3: Step 設定します。

設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用しま す。数値設定後に、F1(Second)、またはEnter keyを

押します。

Decline

Start 0000, Groups 0004,

設定例 Base time 020s, Step 005s の場合

> No. 0000 0001 0002 0003 State Off On Off On Delay(s) 020 015 010 005

Return

F6(Return) key を押すと、ひとつ前の動作に戻りま す。



操作 7(Step の On/Off 自動設定)と操作 8(Step 継続 時間の自動設定)は、ディレイ開始 Step No.(Start)、と 実行ディレイ Step (Gropes)を前もって設定する必要 があります。

4.6.3. ディレイ出力パラメータの設定

ディレイ開始 Step No.(Start)、実行ディレイ Step (Gropes)、ディレイ繰り返し 回数(Cycles)、ディレイ終了状態(End State)を設定します。

, -	•	· ·
手順	項目	説明
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。 また、F6 keyが"Return"表示されている場合、F6 key を何回か押して"Return"表示しない状態にします。
2	ディレイ 機能設定	Advance→F3(Delay)の順で、Key を押します。
3	Step No. のパラメー タ確認	ディレイ機能を使用するチャンネルの Step No.のパラメータ(State, Time)が設定されている事を確認します。

4

F1(Set) key を押すと、F1-F5 key が ディレイ出力パラメータ表示になりま す。 F1: Set

5 ディレイ 繰り返し 回数設定 F1(Cycles) key を押すと、LCD に表示されている Cycle 値が赤く表示され、ディレイ繰り返し回数が設定できます。設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、F1(Done)または Enter key を押します。

Cycles: 99998 Cycles 設定範囲: 00001-99999, Infinite

F5(Infinite) key を押すと、シーケンス 繰り返し回数を無限大に設定できま す。

ディレイ 開始 Step 設定 F2(Start) keyを押すと、LCDに表示されている Start 値が赤く表示され、ディレイ開始 Step No.が設定できます。設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、F1(Done)または Enter key を押します。

Start: 2047 Start 設定範囲: 0000-2047

実行ディレ イ Step の 設定 F3(Gropes) key を押すと、LCD に表示されている Gropes 値が赤く表示され、実行ディレイ Step が設定できます。

Groups: 0001 Gropes 値 設定範囲: 0001-2047

設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、 F1(Done)または Enter key を押します。

<u>!</u>注意

Start と Gropes 値は、以下の関係になる様に設定します。

Start 値 + Gropes 値 ≦ 2048

ディレイ 終了状態 設定 F4(End State) key を押すと、ディレイ終了時の動作を設定できます。

End State: Output On Output Off Last Output Off は、Output(Load) Off になります。 Output On は、Output(Load) On になります。 Last は、ディレイ最後の State 状態で、Output(Load) On/Off になります。

6 Return F6(Return) key を押すと、ひとつ前の動作に戻ります。

4.6.4. ディレイ停止条件パラメータの設定

ディレイ停止条件(Stop Con)を設定します。

1- 113		001.1/CHX/C00170		
手順	項目	説明		
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。 また、F6 key が"Return"表示されている場合、F6 key を何回か押して"Return"表示しない状態にします。		
2	ディレイ 機能設定	Advance→F3(Delay)の順で、Key を押します。		
3	Step No. のパラメー タ確認	ディレイ機能を使用するチャンネルの Step No.のパラメータ(State, Time) とディレイ出力パラメータ(Start, Gropes, Cycles, End State)が設定されている事を確認します。		
4		F3(Stop) key を押すと、F1-F4 key が ディレイ停止条件表示になります。	F3: Stop	
5	停止条件 無し設定	F1(None) key を押すと、"Stop Con: "の右表示が"None"となり、ディレイ停 止条件は設定されません。	F1: None	
6	停止条件 の選択	ディレイ機能の停止条件は、電圧、電流、電力から選択できます。 F2-F4 key を押し、停止条件を選択します。	F2: Voltage F3: Current F4: Power	
7	停止条件 値の設定	停止条件を選択すると、LCD に表示されている"Step Con"の右横の数値が赤く表示されます。 値の設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。 数値設定後に、F4(V/A/W), F5(mV/mA/mW)または Enter key を押します。		

- 8 比較演算 F1(Defune) key を押すと、"Step F1: Defune 子の設定 Con"と赤表示数値間の比較演算子 =, >, < (=, >, <)が設定できます。
- Return F6(Return) key を押すと、ひとつ前の動作に戻りま 9 す。

	ディレイ機能		
	機能は、CH1 テさせることもで	と CH2 を別々に実行させることも、CH ^r rsキます	1 と CH2 を同
手順	項目	.C.より。 説明	
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF にまた、F6 keyが"Return"表示されている を何回か押して"Return"表示しない状態	5場合、F6 key
2	ディレイ 機能設定	Advance→F3(Delay)の順で、Key を押します。	
3	Step No.と ディレイ出 カのパラメ ータ確認	ディレイ機能を使用するチャンネルの Step No.のパラメータ(State, Dlay)とディレイ出力パラメータ(Start, Gropes, Cycles, End State)が設定されている事を確認します。	
4	指定チャン ネルの実 行	ディレイ機能を実行するチャンネル選択キー(CH1 または CH2)を押し、F5(Delay On) key を押すと、選択したチャンネルのディレイ機能が実行されます。 この時、Step が On 設定で ON/OFF key が点灯し、Step が Off 設定で ON/OFF key が消灯します。	F5: Delay On
	/!注意	ALL ON/OFF key を使用しディレイ機能を実行すると、他のチャンネルも Output On になります。	
5	選択チャン ネルの再 実行	ディレイ機能実行中に F1(Restart) key を押すと、選択したチャンネルのディレイ機能を Start Step から再実行します。	F1: Restart
	CH1、 CH2 同時 再実行	CH1 と CH2 がディレイ機能実行中に F2(Sync) key を押すと、CH1 と CH2 のディレイ機能を Start Step から再実 行します。	F2: Sync

F2(Sync) key を押し CH1 と CH2 が Start Step から再実行されると、LCD の左側に"Sync"文字が表示されます。

CH1 と CH2 を再度 Start Step から再実行させる場合、F2(Sync) key を押し"Sync"文字を消して下さい。

6 ディレイ機能停止

ディレイ機能実行中に F4(SEQ. Off) key または指定チャンネルの On/Off key を押すと、選択したチャンネルのディレイ機能が停止します。

SEQ. Off

F4:

CH1 と CH2 がディレイ機能実行中に All On/Off key を押すと、CH1 と CH2 のディレイ機能が停止します。



4.6.6. プログラムの内部メモリへの保存と呼び出し

本器は、ディレイプログラムを内部メモリに保存と呼び出しができます。 内部メモリには、CH1 と CH2 を 1 組として最大 10 個のディレイプログラム (DELAY00~09) を保存できます。また、保存されたディレイプログラムから任 意のプログラムを CH1 と CH2 を 1 組として呼び出す事ができます。

手順 項目 説明

- 1 出力 OFF 全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。 確認 また、F6 keyが"Return"表示されている場合、F6 key を何回か押して"Return"表示しない状態にします。
- 2 ディレイ Advance→F3(Delay)の順で、Key を押します。 機能設定

3 F4(Memory) key を押すと、ディスプレイと F1-F5 key がディレイプログラムの保存と呼び出し表示になります。選択されているパラメータは、黒白反転表示になっています。



4 内部メモリ エンコーダで"Mem"を選択し、左右 key(右 key)を押し選択 エンコーダで DELAY00-09 を選択します。下図では、DELAY00 が選択状態です。



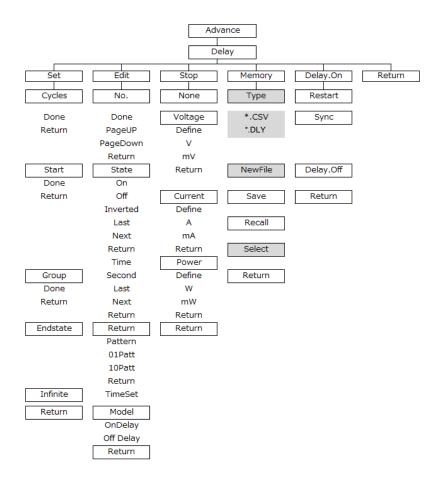
5 保存 F3(SAVE) key を押すと、手順 3 で選択された DELAYxx に、現在設定されているディレイプログラム が保存されます。

保存されるディレイプログラムは、本操作の手順 1 で設定されているディレイプログラムです。

6 呼び出し F4(Recall) key を押すと、手順 3 で選択された DELAYxx から、ディレイプログラムが呼び出されます。

呼び出される内部メモリにディレイプログラムが保存されていない場合、呼び出し操作はできません。

4.6.7. ディレイ機能のメニュー構造



注: メモリ メニューで、Type/*.CSV/*.DLY/New File/選択は、USB メモリ が接続されている場合にのみ表示されます。

4.7. モニタ機能

概要

PDW シリーズは、本器各チャンネルの入出力状態(電圧値、 電流値、電力値)をモニタする機能を持っています。3 出力モデ ルの CH3 には、モニタする機能はありません。

モニタ機能は、チャンネルが電源機能でも電子負荷機能でも 使用できます。

モニタ機能を有効(Mon. On)時、入出力状態が任意設定の条 件値(電圧、電流、電力値)を満たすと、本器は3種類の動作を 実行します。

動作は Output(Load) Off、Alarm 表示、ブザー音発生の何れ か一つ以上を実行します。



4.7.1. モニタ機能を編集するチャンネル設定

手順 項目 説明

1 選択

チャンネル モニタ機能を編集するチャンネル選択 key(CH1, CH2, CH3, CH4)を押しま す。



モニタ機能を編集するチャンネル選択は、モニタ機能 編集中でも可能です。



3 出力モデルの CH3 は、モニタ機能はありません。

4.7.2. 条件値の編集

チャンネルごとに電圧、電流、電力の3種類の条件値を任意に設定できます。

手順 項目 説明

1 出力 OFF 確認

全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。

また、F6 keyが"Return"表示されている場合、F6 key を何回か押して"Return"表示しない状態にします。

2	モニタ 機能設定	Advance→F4(Monitor)の順で、Key を	押します。
3	条件値の 選択	設定したい条件値(電圧、電流、電力) を選択します。 F1-F3 key の何れかを押します。	F1: Voltage F2: Current F3: Power
4	条件値の 設定	条件値選択後に、F1(Set) keyを押すと、ディスプレイに表示されている選択中の条件値が赤く表示されます。	F1: Set
		設定はテンキー、左右キーとエンコーダー す。数値設定後に、F1(V/A/W), F2(mV, たは Enter key を押します。	
5	Return	F6(Return) key を押すと、ひとつ前の動す。	か作に戻りま

4.7.3. 使用する条件値の選択

モニタ機能で使用する条件値は、3 種類の条件値から選択できます。使用する条件値は、3 種類の条件値から少なくとも 1 種類選択する必要があります。

手順	項目	説明		
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。 また、F6 keyが"Return"表示されている場合、F6 key を何回か押して"Return"表示しない状態にします。		
2	モニタ 機能設定	Advance→F4(Monitor)の順で、Key を	押します。	
3	条件値の 選択	設定したい条件値(電圧、電流、電力) を選択します。 F1-F3 key の何れかを押します。	F1: Voltage F2: Current F3: Power	
4	使用の 設定	条件値の有効と無効を設定します。 F3(Select) keyを押すと、LCDに表示されている選択中の条件値の色が灰色と白色に変化します。	F3: Select 灰色: 無効 白色: 有効	
5	Return	F6(Return) key を押すと、ひとつ前の重す。	か作に戻りま	

4.7.4. 比較演算子の設定

入出力状態と条件値を比較演算子で関連付けることができます。条件値に対して入出力状態が比較演算子で関連付けされた状態になると、本器は別途に設定された3種類の動作を実行します。

手順	項目	説明	
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF に また、F6 keyが"Return"表示されている を何回か押して"Return"表示しない状態	场場合、F6 key
2	モニタ 機能設定	Advance→F4(Monitor)の順で、Keyを	押します。
3	条件値の 選択	設定したい条件値(電圧、電流、電力) を選択します。 F1-F3 key の何れかを押します。	F1: Voltage F2: Current F3: Power
4	比較演算 子の設定	F4(Defune) key を押すと、条件値前 に表示されている比較演算子(=,<,>) が設定できます。	F4: Defune =, <, >
5	Return	F6(Return) key を押すと、ひとつ前の重	め作に戻りま

4.7.5. 論理演算の設定

本器は、条件値と入出力状態の比較結果を論理演算(AND と OR)設定する事ができます。

手順	項目	説明	
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF にしまた、F6 key が"Return"表示されているを何回か押して"Return"表示しない状態	場合、F6 key
2	モニタ 機能設定	Advance→F4(Monitor)の順で、Key を	押します。
3	条件値の 選択	設定したい条件値(電圧、電流、電力) を選択します。 F1-F3 key の何れかを押します。	F1: Voltage F2: Current F3: Power

4 Voltage と Current の 論理演算 設定

手順3で Voltage を選択(F1 key)し、 F4(Logic) key を押すと、電圧条件値 と電流条件値間の文字(&と |)が交

互に表示されます。

"&"に設定すると、電圧と電流比較 結果は、論理積(AND)に設定されま す。

電流条件が無効の場合、Voltage と Power の論理演算設定になります。

5 Current と Power の 論理演算 手順 3 で Current を選択(F2 key)し、 F4(Logic) key を押すと、電流条件値 と電力条件値間の文字(&と 1)が交

&: AND I : OR

F4: Logic

F4: Logic

&: AND

I:OR

論理演算 設定

互に表示されます。"&"に設定すると、電流と電力比較結果は、論理積(AND)に設定されます。

/ 注意

手順3でPowerを選択(F3 key)した場合、論理演算設定はできません。

手順4と5で、両方ともに論理演算をANDに設定すると、電圧、電流および電力比較結果は、論理積(AND)に設定されます。

"Voltage AND Current OR Power"を設定した場合、 動作は"(Voltage AND Current) OR Power"になりま す。

"Voltage OR Current AND Power"を設定した場合、動作は"Voltage OR (Current AND Power)"になります。

6 Return

F6(Return) key を押すと、ひとつ前の動作に戻ります。

4.7.6. 動作の設定

モニタ機能有効時に入出力状態が任意設定の条件値を満たした場合に動作する3種類の動作を選択できます。

動作は Output(Load) Off、Alarm 表示、ブザー音発生の何れか一つ以上が選択できます。

手順	項目	説明	
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF にまた、F6 key が"Return"表示されている を何回か押して"Return"表示しない状態	場合、F6 key
2	モニタ 機能設定	Advance→F4(Monitor)の順で、Key を	押します。
3		F4(Stop Type) key を押すと、F1-F3 key は動作選択パラメータ表示になり ます。	F4: Stop Type
4	Output Off 動作設定	Output(Load) Off 動作の有効と無効を設定します。 F1(Output Off) key を押すと、LCD に表示されている Stop Mode 右の"Output Off"文字が灰色と白色に交互に表示されます。	F1: Output Off 灰色:無効 白色:有効
5	Alarm 表示設定	Alarm 表示動作の有効と無効を設定します。 F2(Alarm) key を押すと、LCD に表示されている Stop Mode 右の"Alarm"文字が灰色と白色に交互に表示されます。	F2: Alarm 灰色: 無効 白色: 有効
6	Beeper 設定	ブザー音発生動作の有効と無効を設定します。 F3(Beeper) key を押すと、LCD に表示されている Stop Mode 右の"Beeper"文字が灰色と白色に交互に表示されます。	F2: Beeper 灰色: 無効 白色: 有効
	!注意	システム設定でブザー音設定が OFF と合は、Beeper 設定を有効にしてもブザせん。 Output Off、Alarm および Beeper の全定できません。何れか一つ以上の設定ででいい。	一音は鳴りま てを無効に設
7	Return	F6(Return) key を押すと、ひとつ前の動す。	か作に戻りま

4.7.7. モニタ機能の実行

PDW シリーズは、各チャンネルでモニタ機能を使用できます。

手順	項目	説明	
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF にまた、F6 keyが"Return"表示されているを何回か押して"Return"表示しない状態	場合、F6 key
2	モニタ 機能設定	Advance→F4(Monitor)の順で、Key を	押します。
3	モニタ機能 On 設定	F5(MON. ON) key を押すと、選択チャンネルのモニタ機能が On に設定されます。 LCD に表示されている Monitor 文字右の" CHx" が灰色と CH 色に交互に表示されます。	F5: MON. ON 灰色: Off CH 色: ON
4	モニタ機能 Off 設定	モニタ機能が On 設定中に、F5(MON. Off) key を押すと、モニタ機能が Off に設定されます。	F5: MON. Off
5	Return	F6(Return) key を押すと、ひとつ前の動す。	作に戻りま

4.8. レコーダ機能

概要

PDW シリーズは、本器各チャンネルの入出力状態(電圧値、電流値、電力値)を記憶するレコーダ機能を持っています。3出力モデルの CH3 には、レコーダ機能はありません。

レコーダ機能は、チャンネルが電源機能でも電子負荷機能でも使用できます。

記録データは、レコーダ機能実行中に内部メモリおよび USB メモリに保存する事ができます。

内部メモリを USB メモリに保存する方法は、"ファイル操作: 92ページ"をご覧ください。



4.8.1. パラメータの設定

レコーダ機能を使用するチャンネル (REC Channel)、入出力状態を記録する 周期(REC Period)、記録するデータ数(REC Groups)、記録データの保存先 (REC Path)を設定します。

•	,		
手順	項目	説明	
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF に また、F6 keyが"Return"表示されている を何回か押して"Return"表示しない状態	b場合、F6 key
2	レコーダ 機能設定	Advance→F5(Recorder)の順で、Key	を押します。
3	チャンネル の機能 有効無効 設定	F3(Channel) key を押すと、F1-F4 key に CH1-CH4 が割り振られます。 F1-F4 key の何れかを押し、チャンネルのレコーダ機能の有効または無効を設定します。この時、ディスプレイの REC Channel 右の CHx 文字色が変わります。	F1-F4 灰色: 機能無効 CH 色: 機能有効

Return

チャンネルのレコーダ機能有効または無効を設定 後、F6(Return) key を押し、手順 2 の動作に戻しま す。

/!注意

全てのチャンネルを機能無効には設定できません。何れかのチャンネルを機能有効に設定して下さい。

4 記録周期 設定

何れかのチャンネルを機能有効に設定して下さい。 F1(Period) key を押すと、LCD の F1: Period

REC Period 右の周期設定表示が赤に変わり、記録周期が設定できます。

設定範囲: 1s-300s

設定はテンキー、左右キーとエンコー ダを使用します。数値設定後に、

F1(s)または Enter key を押します。

Return

記録周期設定後、F6(Return) key を押し、手順2の

動作に戻します。

5 記録データ数設定

F1(Groups) key を押すと、LCD の REC Groups 右の記録データ数表示 F1: Groups 設定範囲:

1-2048

が赤に変わり、データ数が設定できます。

9 。

USB メモリに記録データを保存する場合、設定範囲は 1-204800 になります。

設定はテンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、F1(Done)または Enter keyを押します。

Return

記録データ数設定後、F6(Return) key を押し、手順 2の動作に戻します。

6 データ 保存先 選択 F4(Memory) key を押すと、記録デー F4: Memory タの保存先を設定できます。

保存先は、内部メモリまたは USB メモ

リを選択できます。

左右キーやエンコーダで、保存先を選択します。選択されている保存先は、

黒白反転表示になっています。

保存先選択後に、F3(Save) key を押 F3: Save すと、記録データのデータ保存先が決定します。

73

保存先 Mem: RECORD00-09 の何れかを選択します。下図 内部メモリ では、RECORD00 が選択されています。



<u>/!\</u>注意

本操作(データ存先の選択)前に、Recall 操作をした場合、F3(Save) key を押すと"Save Succeed!"が表示されます。この場合は、もう一度、F3(Save) key を押してください。

保存先 USB: USB に保存されている新規ファイル(*.CSV まUSBメモリ たは*.REC, *は任意名)を選択します。

ファイル選択の前に F1(Type)→F1(*.CSV)または F4(*.REC) key 操作にて、ファイル形式を選んで下さ い。

ファイルがフォルダ内に有る場合は、そのフォルダを 選択し、F5(Select) key を押します。

新規ファイルを USB メモリに作成する方法は、"ファイル操作: 92 ページ"をご覧ください。

下図では RCD.REC が選択されていますが、記録データの編集や確認を行う場合、"*.CSV"形式ファイルの選択をお勧めします。



/ 注意

選択先のファイルに既に記録データが書かれている場合、F3(Save) key を押すと"File size is not zero! Please reselect the File."と表示されます。記録データが保存されているファイルを、データ保存先にはできません。

/!\注意

本操作(データ存先の選択)前に、Recall 操作をした場合、F3(Save) key を押すと選択新規ファイルにRecall された記録データが書き込まれます。この場合、また新たな新規ファイルを作成して下さい。Recall→Save 操作後に保存先を USB メモリにする場合、必ず一旦保存先を内部メモリ(RECORD00-09の何れか)にしてください。保存先の内部メモリの記録データは、クリア(無くなる)になります。

7 Return 各パラメータ設定後、F6(Return) key を押すと、ひと つ前の動作に戻ります。

4.8.2. レコーダ機能の実行

パラメータに設定された条件にて、各チャンネルの記録データ(電圧値、電流値、電力値)を、選択された保存場所に保存します。

手順	項目	説明		
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。 また、F6 key が"Return"表示されている場合、F6 key を何回か押して"Return"表示しない状態にします。		
2	レコーダ 機能設定	Advance→F5(Recorder)の順で、Key	を押します。	
3	パラメータ の確認	パラメータ(REC Channel, REC Period Groups, REC Path)が設定されている事 す。		
4	機能の 実行	F5(REC. On) key を押すと、レコーダ機能が実行されます。	F5: REC. On	
		レコーダ機能実行中は、LCD の中央上表示され、F5 key は "REC. Off"になり	• • •	
5	機能の 中止	レコーダ機能実行中に、F5(REC. Off) keyを押すと、レコーダ機能が中止さ れます。	F5: REC. Off	

<u>!</u>注意

レコーダ機能を中止した場合、記録データは保存されません。

6 機能の 終了 レコーダ機能が終了すると、LCDに"Save Success!" が表示されます。REC Path(内部メモリまたは USB メモリ) には記録データが保存されます。

F5 key は "REC. On" になります。

7 機能の 再実行 レコーダ機能の再実行は、記録データ保存先を変えて、F5(REC. On) kev を押します。

<u>!</u>注意

記録データ保存先を内部メモリにしている場合、レコーダ機能を再実行すると、選択されている内部メモリに記録データが上書きされます。

記録データ保存先を USB メモリのファイルにしている場合、レコーダ機能を再実行すると、レコーダ機能を再実行しますが、選択されているファイルは記録データを上書きしません。

4.8.3. 内部メモリデータを USB メモリに保存

PDW シリーズは、内部メモリ(RECORD00-09)に保存された記録データを USB メモリ上のファイルに保存することができます。

保存される記録データのファイル形式は、2種類(*.REC と*.CSV)が選択できます。USB メモリに作成できるファイル形式については、"USB メモリに作成できるファイル形式: 92 ページ"をご覧ください。

手順 項目 説明

3

1 出力 OFF 全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。 確認 また、F6 key が"Return"表示されている場合、F6 key を何回か押して"Return"表示しない状態にします。

2 USB メモリ 前面パネルの USB ホストポートに 装着 USB メモリを装着します。 LCD 右上に 右図が表示されます。



USB メモリには、予め記録データの保存されていない 新規ファイルを保存してください。

新規ファイルについては、"94ページ: USB メモリに新

規ファイルを作成"を参照して下さい。

Advance キー → F5(Recorder) key→F4(Memory) key の順番でキーを押します。

4 内部メモリ 記録データが保存されている内部メモリ の記録デ (RECORD00-09 の何れか)を左右キーやエンコーダ 一タ選択 で選択します。選択されている内部メモリは、黒白反 転表示になっています。

5 記録デー 内部メモリ(RECORD00-09)の選択 F4: Recall タの呼び 後、F4(Recall) key を押すと、選択さ 出し れた記録データが呼び出されます。 ディスプレイには、"Load OK!" が表示されます。

6 選択ファイ 左右キーやエンコーダで USB を選択 F1: Type ル形式選 し F1(Type) key を押すと、F1 key 択 が"*.CSV"と F4 key が"*.REC"表示に なります。

F1(*.CSV) key または F4(*.REC) key F1: *.CSV を押して、ファイル形式を選択します。 F4: *.REC

7 USB メモリ USB メモリに保存されている新規ファイルを左右キー のファイル やエンコーダで選択します。選択されているファイル 選択 は、黒白反転表示になっています。

8 記録デー F3(Save) key を押すと、USB メモリの F3: Save タの保存 ファイルに、本手順 5 で呼び出された 記録データが保存されます。

記録データが保存できる USB メモリ上のファイルは、 何も保存されていない新規ファイルのみです。ファイルの上書きはできません。

9 Return 記録データを USB メモリのファイルに保存後、 F6(Return) key を押すと、ひとつ前の動作に戻ります。

10 再操作 別の内部メモリに保存されている記録データをUSBメモリのファイルに保存する場合は、本操作の手順 3-8を行います。

本操作(Recall→Save 操作)後に、パラメータの設定 (72 ページ)の"手順 6: データ保存先の選択"を行う場合、データ保存先を内部メモリに設定して下さい。データ保存先を USB メモリのファイルに設定すると、ファイルには REC Period と REC Groups 情報のみが書き込まれ、書き込み済のファイルになります。

4.9. 外部 I/O 制御機能

概要

PDW シリーズは、背面に 5 個の I/O ポート(D0-D4)を備えています。各 I/O ポートは、IN ポートまたは OUT ポートとして使用できます。

I/O ポートを IN ポートとして使用し IN ポートに信号を入力すると、本器の Output(Load) On/Off や、本器を電源機能および電子負荷機能に切り替える事ができます。

I/O ポートを OUT ポートとして使用すると、本器の入出力状態が任意設定の条件値を満たすと、OUT ポートから信号を出力します。条件値は Output(Load) On/Off 状態または電圧、電流、電力値です。

4.9.1. IN ポートでのパラメータ設定

I/O ポートを IN ポートとして使用する場合、"Control Mode: "を"Control Input" に設定します。その後に、4 種類のパラメータ(Controled Source, Control Type, Response, Sensitivity)を設定します。



手順 項目 説明

1 出力 OFF 全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。 確認 また、F6 keyが"Return"表示されている場合、F6 key

を何回か押して"Return"表示しない状態にします。

2 外部 I/O System key→F1(Interface) key→F5(Control I/O) 制御選択 key の順番でキーを押します。

F1-F5 key が外部 I/O 制御機能パラメータ表示になります。

3 IN ポート 使用する I/O ポートを選択し、選択された I/O ポートを INポートに設定します。 設定 選択と設定方法は、81 ページ(I/O ポートを IN または OUT ポートに設定)を参照して下さい。 IN ポートを設定する場合、"Enable: NO"に設定して 下さい。 "Enable: YES"の場合、パラメータ設定ができませ ん。 4 F4(Channel) key を押すと、手順3で選択されたIN チャンネル 選択 ポートに信号が入力された時に、パラメータ (Response)で設定された動作するチャンネルを選択 できます。 チャンネル選択については、82ページ(Channel パラ メータの設定)を参照して下さい。 5 他のパラメ F5(More) keyを押すと、INポート専用 F5 key More 一タ表示 パラメータ表示になります。 F1(Type) key を押すと、手順3で選択されたINポー 6 信号タイプ 選択 ト信号検出する信号タイプを選択できます。 信号タイプ選択については、84 ページ(Type パラメー タの設定)をご覧ください。 7 F2(Response) key を押すと、手順3で選択されたIN 動作選択 ポートが信号検出した時、手順4で選択したチャンネ ルの動作を選択できます。 チャンネル動作選択は、85ページ(Response パラメ 一タの設定) をご覧ください。 8 INポートが信号検出する感度を3種 F3 key 信号検出 Sensitivity 感度選択 類の感度から選択します。 High/Low F3(Sensitvity) key を押すたびに、検 /Middle 出信号感度が High/Low/Middle で切 り替わります。

検出信号感度は、ディスプレイの"Sensitvity;"右に表示されます。

9 Return パラメータ設定後、F6(Return) key を 2 回押すと、手順 2 に戻ります。

4.9.2. OUT ポートでのパラメータ設定

I/O ポートを OUT ポートとして使用する場合、"Control Mode: "を"Control Output"に設定します。その後に、4 種類のパラメータ(Control Source, Control Condition, Polarity, States Output)を設定します。



Data Line	Enable	Input Mode	Channel	More	Return	
Condition	Polarity			States Out.	Return	_
手順	項目	説	明			
1	出力 OF 確認	また	た、F6 k	eyが"Re	eturn"表示	id) OFF にします。 らされている場合、F6 key らしない状態にします。
2	外部 I/C 制御選打	沢 ke	y の順番 -F5 key	でキー	を押しまず	key→F5(Control I/O) ·。 幾能パラメータ表示になり
3	OUT ポ ト設定	Ol 選	丌 ポー 択と設定	トに設定 『方法は	します。	、選択された I/O ポートを ジ(I/O ポートを IN または て下さい。
	<u>!</u> 注意	ま て	下さい。 nable: Y			"Enable: NO"に設定し メータ設定ができませ

4 チャンネル F4(Channel) key を押すし、チャンネルを選択できま選択 す。選択されたチャンネルは Condition パラメータで設定された条件値を満たすと、OUTポートから信号を出力します。
チャンネル選択については、82ページ(Channel パラメータの設定)を参照して下さい。

5	他のパラメ ータ表示	F5(More) key を押すと、OUT ポート 専用パラメータ表示になります。	F5 key More
6	条件値 設定	F1(Condition) keyを押すと、手順4で選 ンネルの入出力状態と比較する条件値 す。 条件値設定については、86ページ(Con ータの設定)をご覧ください。	を設定できま
7	OUT ポー ト 出力論理 設定	OUT ポートから出力される信号の論理を設定します。 F2(Polarity) key を押すたびに、出力信号論理が Positive と Negative に切り替わります。	F2 key Polarity Positive /Negative
		OUT ポート出力論理は、ディスプレイの に表示されます。	" Polarity;"右
8	OUT ポー ト有効無効 設定	OUT ポート状態を有効にするか無効 にするかを設定します。 F5(State Out.) key を押すたびに、 OUT ポート状態の YES (有効)と NO (無効)が切り替わります。	F5 key State Out. YES/NO
		OUT ポート出力状態は、ディスプレイの Output;"右に表示されます。	" States
9	Return	パラメータ設定後、F6(Return) key を 2順 2 に戻ります。	回押すと、手

4.9.3. I/O ポートを IN または OUT ポートに設定

5 つの I/O ポート(D0-D4)の中から使用するポートを一つ選択し、IN またはOUT ポートに設定します。

手順	項目	説明
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。 また、F6 key が"Return"表示されている場合、F6 key を何回か押して"Return"表示しない状態にします。
2	外部 I/O 制御選択	System key → F1(Interface) key→ F5(Control I/O) key の順番でキーを押します。 F1-F5 key が外部 I/O 制御機能パラメータ表示になります。

3	I/O ポート 選択	F1(Data Line) key を押すと、F1-F5 key に D0-D4 が割り振られます。	F1 key Data Line
		F1(D0)-F5(D4) key の何れかを押し、 使用する I/O ポートを選択します。 I/O ポートが選択されると、自動的に 手順 2 に戻ります。	F1-F5 key D0-D4
4	Enable 設定	F1(Enable/Disable) key を押すと、ディスプレイの"Enable"表記が"YES とNO"に切り替わります。 "Enable: NO"に設定します。	F1 key Enable /Disable
	<u>!</u> 注意	"Enable: YES"の場合、パラメータ設定がん。	ができませ
5	IN または OUT ポー ト設定	F3(Output/Input Mode) key を押すと、ディスプレイの"Control Mode"表記が"Control Output と Control Input"に切り替わります。	F3 key Output /Input Mode
		Control Output に設定すると、手順 3 でI/O ポートが、OUT ポートに設定されまてOntrol Input に設定すると、手順 3 で選ポートが、IN ポートに設定されます。	す。
6	他のI/Oポ	その他のI/Oポートも手順3-5操作をし、	ポート設定を

4.9.4. Channel パラメータの設定

ート設定 します。

Channel パラメータは、I/O ポートが IN ポートと OUT ポートで操作が異なります。

IN ポートでは、一つ以上のチャンネルが選択できます。選択されたチャンネルは IN ポートで信号検出されると、Response パラメータで設定された動作を実行します。

手順	項目	説明	
1	IN ポート 設定	"4.9.3. I/O ポートを IN または OUT ポートに設定"の手順 5 で、"Control Mode: Control Input"にします。	F3 key: Output /Input Mode
2	チャンネル 選択	F4(Channel) key を押すと、F1-F4 key は、CH1-CH4 に割り振られます。	F4 key: Channel

3 F1(CH1)-F4(CH4) key を押し、選択 Fx: CHx チャンネルを選択します。

選択チャンネルは、ディスプレイの"Controled Source:"横に表示されます。選択されたチャンネルは CH 色で表示され、未選択チャンネルは灰色表示になります。

4 Return F6(Return) key を押すと、手順1に戻ります。

全てのチャンネルを選択する事はできますが、全てのチャンネルを未選択にはできません。何れか一つ以上のチャンネルを選択して下さい。

OUT ポートでは、何れかのチャンネルを選択します。選択されたチャンネルは Condition パラメータで設定された条件値を満たすと、OUT ポートから信号を出力します。

71007	0			
手順	項目	説明		
1	OUT ポー ト 設定	"4.9.3. I/O ポートを IN または OUT ポートに設定"の手順 5 で、"Control Mode: Control Output"にします。	F3 key: Output /Input Mode	
2	チャンネル 選択	F4(Channel) key を押すと、F1-F4 key は、CH1-CH4 に割り振られます。	F4 key: Channel	
3		F1(CH1)-F4(CH4) key の何れかを押 し、選択チャンネルを選択します。	Fx: CHx	
		選択チャンネルは、ディスプレイの"Con Source:"横に表示されます。選択されたCH 色で表示され、未選択チャンネルはります。チャンネルが選択されると、自動に戻ります。	選択されたチャンネルは ャンネルは灰色表示にな	
	注意	OUT ポートで選択できるチャンネルは、 のチャンネルです。 3 出力モデルの CH3 は、チャンネルを		
		せん。		

4.9.5. Type パラメータの設定

Type パラメータは、IN ポート専用のパラメータです。
IN ポートで検出する信号の種類を、5 種類から選択します。

手順 項目 説明

1 IN ポート "4.9.1.IN ポートでのパラメータ設定"の手順 5 の状態 パラメータ にします。

設定 F1: Type key, F2: Response key, F3: Sensitvity

2 信号タイプ F1(Type) key を押すと、F1-F5 key に F1: Type

選択 Type パラメータが表示されます。

5種類の信号は以下になります。

Rise Edge 入力信号の立ち上がりエッジで信号 F1 key

検出を行います。

Fall Edge 入力信号の立下りエッジで信号検出 F2 key

を行います。

High 入力信号が High レベルになると信号 F3 key

Level 検出を行います。

Low Level 入力信号が Low レベルになると信号 F4 key

検出を行います。

States 入力信号が $H \rightarrow L$ または $L \rightarrow H$ になる F5 key

Input と信号検出を行います。

信号タイプを" States Input"選択の場合、Response パラメータは"Output"のみしか設定できません。

3 F1-F5 key の何れかを押し、信号タイ F1-F5

プを選択します。

選択された信号タイプは、ディスプレイの"Control

Type;"右に表示されます。

4 Return 信号タイプ選択後、F6(Return) key を押し、本操作の

手順1に戻します。

4.9.6. Response パラメータの設定

Response パラメータは、IN ポート専用のパラメータです。

IN ポートが信号検出した時、選択チャンネルが実行する動作を設定します。

手順	項目	説明

1 IN ポート "4.9.1.IN ポートでのパラメータ設定"の手順 5 の状態 パラメータ にします。

設定 F1: Type key, F2: Response key, F3: Sensitvity

2 F2(Response) key を押すと、F1-F4 動作選択 F2:

> Response key に Response パラメータが表示さ

れます。

4種類の動作は以下になります。

Output F1(Output) key を押すと、選択チャン

ネルを Output(load)動作に設定でき

ます。

また、F1 key を押す事で、Output

Off→On→Toggle→Off…の3種類の 動作を設定できます。

信号タイプを" States Input"選択の場合、Response パラメータは"Output On/Off"のみしか設定できませ

ん。また、"Output Toggle"やその他の Mode も設定

できません。

POW. F2(POW. Mode) key を押すと、選択 F2 key Power Mode チャンネルを電源機能動作に設定で

きます。

Mode F3 key

F3(Load Mode) key を押すと、選択チ Load Mode ャンネルを電子負荷機能動作に設定

できます。

また、F5 key を押す事で、Load (CC→CR→CV→CC...) Mode Ø 3

種類のモードを設定できます。

Load CC Mode Load CR Mode Load CV

Mode

F1 key **Output Off**

Output

Toggle

Output On

チャンネルパラメータ設定で、CH1 または CH2 以外 のチャンネルが選択されている場合、F2(POW.

Mode) key と F3(Load Mode) key 操作はできませ ん。

Track Mode

F4(Track Mode) key を押して、選択 チャンネルを電源機能トラッキングモ

ード動作に設定します。

また、F4 key を押す事で、

Independent→Series→Parallel→In dependent...の3種類のモードを設定

できます。

チャンネルパラメータ設定で、CH1 と CH2 組み合わ せ以外のチャンネルが選択されている場合、

F4 kev

Series

Parallel

t

Independen

F4(Track Mode) key 操作はできません。また、CH1 とCH2共に電源機能動作に設定されている必要があ

ります。

3 F1-F4 key の何れかを押し、動作を選 F1-F4

択します。

選択された実行される動作は、ディスプレイ

の"Response;"右に表示されます。

4 Return Response 選択後、F6(Return) keyを押し、本操作の 手順1に戻します。

4.9.7. Condition パラメータ設定

Condition パラメータは、OUT ポート専用のパラメータです。

このパラメータは、条件値を設定します。選択チャンネルの入出力状態が条件 値を満たすと、OUTポートから信号を出力します。

手順 項目 説明

1 "4.9.2.OUT ポートでのパラメータ設定"の手順 5 の状 IN ポート パラメータ 態にします。

F1: Condition key, F2: Polarity key

設定 2 動作選択

F1(Condition) key を押すと、F1-F5 F1: Condition keyに Condition パラメータが表示さ

れます。

5種類の条件(値)は以下になります。

Output F1(Output) key を押すと、F1 key が"Output Off"、F2 key が"Output

> On"になります。F1またはF2 keyを押 して、条件値(Output/Load On または

Off 状態)を設定します。

Output On

Output Off/

F1 key

F1:

F2:

Output の条件値設定を終了するには、F6(Return) key を押します。

Voltage Current Power F2(Voltage)、F3(Current)、F4(Power) key の何れかを押すと、Fanction key が以下に割り振られます。 F1 Define key, F4: V/A/W key, F5: mV/mA/mW key

また、LCD の"Control Condition:"右 V、A または W 値が赤表示になります。

V、A または W 値の設定は、テンキー、左右キーとエンコーダを使用します。数値設定後に、F4, F5 またはEnter key を押します。

F1(Defune) key を押すと、V、A また F1: Defune は W 値左に表示されている比較演算 =, <, > 子(=→<→>→=→…)が設定できます。

Voltage/Current/Power の条件値設定を終了するには、F6(Return) key を押します。

Auto

F5(Auto) key を押すと、F2-F4 key を F5 押して設定された V、A または W 値が 条件値: 条件値になります。 V or A or W

3 F1-F5 key の何れかを押し、条件値を F1-F5 選択します。

4 Return

条件値設定後、F6(Return) key を押し、本操作の手順 1 に戻します。

4.9.8. 外部 I/O ポートを使用する

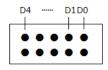
外部 I/O ポートを使用するには、各種パラメータ設定を完了した後に、外部 I/O ポートを有効に設定します。外部 I/O ポートを有効にすると、外部 I/O ポートが使用できます。

また、外部 I/O ポートを有効に設定していても、本器電源を再投入すると、外部 I/O ポートは無効(Enable: NO)になります。本器電源投入して外部 I/O ポートを使用する場合、本操作を行い I/O ポートを有効(Enable: YES)にして下さい。

手順	項目	説明		
1	外部I/O制 御選択	System key → F1(Interface) key→ F5(Control I/O) key の順番でキーを 押します。 F1-F5 key が外部 I/O 制御機能パラメ ータ表示になります。	System F1: Interface F5: Control I/O	
2	I/O ポート 選択	使用する I/O ポートを、"Data Line: D0-D4"の中から選択します。	F1 key Data Line	
3	Enable 設定	"Enable: YES"に設定します。 "Enable: YES"に設定すると、手順 2 で選択された I/O ポートが有効になります。	F2 key Enable/ Disable	
4	Return	F6(Return) key を押すと、本操作の手順す。	F順1に戻しま	
	! 注意	外部 I/Oポートの有効/無効設定は、各 I に設定する必要があります。	Data Lineごと	

4.9.9. 外部 I/O ポート仕様

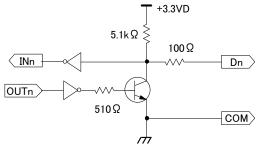
外部 I/O ポートは、MIL-DTL-83503 規格準拠の 2.54mm ピッチ 10 ピン 2 列角型コネクタです。



左図は、I/O ポートを本器背面から見た時の Pin アサインです。

I/O ポートは、右上の Pin が D0、その左 Pin が D1、...、左上の Pin が D4 になります。 下側の 5 つの Pin は、D0-D4 の COM です。

右図は、各 I/Oポート(D0-D4)と COM の回路を示してい ます。



+3.3V は本器内部電圧、COM は本器筐体に接続されています。

電気的仕様

IN ポート時

LOW レベル DC 入力電圧: 0.3V 以下

HIGH レベル DC 入力電圧: 2V 以上 3.3V 以下

OUT ポート時

LOW レベル DC 出力電圧: 0.3V 以下

HIGH レベル DC 出力電圧: 2V 以上 3.3V 以下

DC 出力電流: 0.6mA 以下

4.10. 初期化機能

初期化機能を実行すると、本器の設定は工場出荷状態に設定されます。 ここでは、本器設定を工場出荷状態に設定する初期化の方法と、工場出荷状 態になる設定内容を説明しています。

4.10.1. 初期化操作

本器設定を工場出荷状態する操作方法は、2種類あります。

一つ目の方法は、"Power On パラメータ"を"Default"に設定する方法です。二つ目は、Preset key を操作する方法です。

手順	項目	説明	
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。 また、F6 keyが"Return"表示されている場合、F6 key を何回か押して"Return"表示しない状態にします。	
2	System メニュー	System key を押すと、ディスプレイは System メニュー表示になります。	System key
		F2 keyは"Power On"、F5 keyは"Preseります。	et"が表示にな
3	初期化 操作 1	F2(Power On) keyを押すとLCDに表示されている" Power On:"が"Default"と"Last"に切り替わります。	F2: Power On Default/ Last
	Default	本器の電源を再投入すると、本器の設定は工場出荷 状態に設定されます。	
	Last	本器の電源を再投入すると、本器の設定 した時の状態に設定されます。	定は電源 Off
4	初期化 操作 2	F5(Preset) keyを押すと、本器の設定 は工場出荷状態に設定されます。	F4: Last
5	Return	F6(Return) key を押すと、本操作の手』 す。	頂 1 に戻しま
	注意	Preset key を操作する初期化は、Key 7 に初期化が実行されます。F5(Preset) k は十分ご注意ください。	

4.10.2. 工場出荷状態の設定内容

電源および電子負荷機能

項目 設定内容 項目 設定内容

電圧 0V 電流 0A

5V: 3 出力タイプ CH3

1.5V(電子負荷モード) OA(電子負荷モード)

OVP 最大設定 OCP 最大設定

表示タイプ 1 出力モデル: Type4 抵抗 50Ω

多出力モデル: Type1

モード 電源機能 トラッキン 独立出力モード

グ設定 (多出力モデルのみ)

システム設定

項目 設定内容 項目 設定内容

ブザー音 ON 出力端子 前面

バックライ High サブネット 255.255.0.0

ト輝度マスク

電源 ON Default ホスト GPP

時設定 ネーム

5. ファイル操作

5.1. USB メモリに作成できるファイル形式

本機は各機能で内部メモリに保存されたデータを、以下のファイル形式にて USB メモリに作成できます。

設定値メモリ機能の設定パラメータ: *.SET

シーケンス機能のシーケンスプログラム: *.SEQ と*.CSV

ディレイ機能のディレイプログラム: *DLY と*.CSV

レコーダ機能の記録データ: *.REC と*.CSV

("*"はファイル名を意味しています。)

CSV ファイル(*.CSV) は、CSV ファイル編集が可能なアプリケーションにて編集ができます。

設定値メモリ機能の設定パラメータ

*.SET 保存内容は、内部メモリに保存可能な"STATE01-09"と同じです。

シーケンス機能のシーケンスプログラム

*.SEQ CH1 と CH2 のシーケンスプログラムの全てのパラメータが保存されます。保存内容は、内部メモリに保存可能な"SECUENCExx"と同じです。

*.CSV ディスプレイの中央上部に表示されている現在選択中のチャンネルのシーケンスプログラムのパラメータが保存されます。保存されるパラメータは、Start と Groups で指定された Stepの Volt(V), Curr(A), Time(s)のみです。呼び出されるパラメータは、選択チャンネルの Step No. 0000から Groups で指定された Stepの Volt(V), Curr(A), Time(s)です。Step No.を指定しての呼び出しはできません。また、呼び出される Step 以外の Stepのパラメータは、現在設定されている物(呼び出し前の物)になります。

CSV Function:, Sequence,

ファイル例 Groups:,3

Voltage, Current, Time, 10.000, 2.0000, 0.0001, 20.000, 1.0000, 0.0001, 10.000, 1.0000, 0.0001,

ディレイ機能のディレイプログラム

*.DLY CH1とCH2のディレイプログラムの全てのパラメータが保存されます。保存内容は、内部メモリに保存可能な"DELAYxx"と同じです。

*.CSV ディスプレイの中央上部に表示されている現在選択中のチャンネルのディレイプログラムのパラメータが保存されます。保存されるパラメータは、Start と Groups で指定された Step の State, Delay(s)のみです。

呼び出されるパラメータは、選択チャンネルの Step No. 0000 から Groups で指定された Step の State, Delay(s)です。 Step No.を指定しての呼び出しはできません。 また、呼び出される Step 以外の Step のパラメータは、現在設定されている物(呼び出し前の物)になります。

CSV Function:, Delay,

ファイル例 Groups:,4,

State: State, Time,

0: Off, 0,5, 1: On 1,4,

0,3, 1,2,

レコーダ機能の記録データ

*.REC/ CH1 または CH2 および CH1 と CH2 の測定データが保存で *.CSV きます。ファイル形式が違っても、保存されるデータは同じで

す。

CSV Function:, Recorder,

ファイル例 Period:,10, Groups:,3,

CH1.

Voltage (V), Current (A), Power (W),

10.001,0.0021,0.02 10.001,0.0021,0.02 10.001,0.0021,0.02

CH2.

Voltage (V), Current (A), Power (W),

10.001,0.0021,0.02 10.001,0.0021,0.02 10.001,0.0021,0.02

5.2. USB メモリに新規ファイルを作成

USB メモリに作成できる新規ファイルは、機能別にファイル形式(拡張子)を変えて作成します。作成する新規ファイルには、英数字の8文字以下の任意名をつける事ができます。

USB メモリ内のファイル名やフォルダ名は、ロングファイル名に対応しておりません。また本器は時計機能が無いためファイルに日付・時間が付与されません。

0 0		
手順	項目	説明
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。 また、F6 key が"Return"表示されている場合、F6 key を何回か押して"Return"表示しない状態にします。
2	USB メモリ の装着	前面パネルの USB ホストポートに USBメモリを装着します。ディレイ右上 に右図が表示されます。
3	機能選択	以下の手順で、4 種類の機能の何れかを選択します。 設定値メモリ機能: Memory key を押します。 シーケンス機能: Advance→F2(Sequence)→F4(Memory)の順で key を押します。 ディレイ機能: Advance→F3(Delay)→F4(Memory)の順で key を押 します。 レコーダ機能: Advance→F5(Recorder)→F4(Memory) の順でkey を押します。
4	USB 選択	エンコーダと左右 key を使用し、ディスプレイ左列の"USB"を選択します。 "USB"を選択すると、F1 key に"Type"が表示されます。
5	ファイル形 式選択	機能別に USB メモリに作成されるファ F1: Type イル形式を選択します。 F1(Type) key を押すと、F1-F4 key に ファイル形式が表示されます。 シーケンス機能: F1(*.CSV), F2(*.SEQ) key ディレイ機能: F1(*.CSV), F3(*.DLY) key

レコーダ機能: F1(*.CSV), F4(*.REC) key F1-F4 key の何れかを押し、新規作成 F1-F4 するファイル形式を選択します。

<u>!</u>注意

設定値メモリ機能はデータを保存するファイル形式は"*.STA"のみなので、本手順のファイル形式選択はできません。

6 ファイル 作成場所 選択 ファイル作成場所を選択します。選択は、エンコーダ と左右 key を使用します。

ディスプレイ右列の新規ファイル作成場所を選択します。

選択されているファイル作成場所は、黒白反転表示になっています。

USB メモリ内のフォルダを選択する場 F5: Select 合、フォルダ選択後に F5(Select) key を押します。

7 新規ファイ ル作成開 始 作成場所選択後に F2(New File) key を押すと、LCD にキーボードが表示されます。

F2: New File

8 ファイル名 設定 エンコーダで文字を選択し、F1(Enter Char) key を押して文字を決定します。

F1: Enter Char F2:

文字を削除する場合は、F2(Back Space) key を押します。

Back Space

ファイル名は、英数字の8文字以下です。ファイル名は、パソコン等で変更できます。

9 新規ファイ ル作成 F5(Save) key を押すと、新規ファイル F5: Save が作成場所に作成されます。

10 Return

各パラメータ設定後、F6(Return) key を押すと、ひと つ前の動作に戻ります。

5.3. USB メモリの新規ファイルにデータ保存

設定値メモリ機能の設定パラメータ、シーケンス機能のシーケンスプログラムおよびディレイ機能のディレイプログラムは、現在設定されているパラメータやプログラムデータを USB メモリの新規ファイルに保存できます。内部メモリに保存されている設定パラメータ、シーケンスまたはディレイプログラムを新規ファイルに保存する場合は、そのプログラムを呼び出してください(Recall 操作)。

レコーダ機能の記録データを新規ファイルに保存する場合は、内部メモリに保存されている記録データを呼び出し(Recall)後に、USBメモリの新規ファイルに保存できます。操作方法は、"4.8.3.内部メモリデータを USBメモリに保存: 76ページ"をご覧ください。

各データは、本器の操作によって作成された新規ファイルのみに保存ができます。また、ファイルの上書き保存はできません。

手順	項目	説明	
1	出力 OFF 確認	全チャンネルを、Output(Load) OFF に また、F6 keyが"Return"表示されている を何回か押して"Return"表示しない状態	る場合、F6 key
2	各機能の パラメータ 設定確認	各機能(設定値メモリ、シーケンスおよびディレイ)のパラメータが設定されている事を確認します。 各機能の内部メモリデータを USB メモリのファイルに 保存する場合は、そのデータを呼び出します。データ の呼び出しは、以下を参照して下さい。	
		設定値メモリデータ シーケンスプログラムのパラメータ	42 ページ 52 ページ
		ディレイプログラムのパラメータ	52 ページ 63 ページ
3	USB メモリ の装着	新規ファイルを作成した USB メモリ を前面パネルの USB ホスト ポート に挿入します。 ディスプレイ右上に右図が表示されま	•

す。

4 機能選択 以下の手順で、3 種類の機能の何れかを選択します。

設定値メモリ機能: Memory key を押します。

シーケンス機能:

Advance→F2(Sequence)→F4(Memory)の順で key を押します。

ディレイ機能:

Advance→F3(Delay)→F4(Memory)の順でkeyを押します。

5 USB 選択 エンコーダと左右 key を使用し、ディスプレイ左列 の"USB"を選択します。

"USB"を選択すると、F1 key に"Type"が表示されます。

6 ファイル形 機能別に USB メモリに作成されるファ F1: Type 式選択 イル形式を選択します。

F1(Type) key を押すと、F1-F4 key にファイル形式が表示されます。

シーケンス機能: F1(*.CSV), F2(*.SEQ) key ディレイ機能: F1(*.CSV), F3(*.DLY) key F1-F3 key の何れかを押し、データ保 F1-F3

存するファイル形式を選択します。

<u>!</u>注意

選択

設定値メモリ機能はデータを保存するファイル形式は"*.STA"のみなので、本手順のファイル形式選択はできません。

7 ファイル ファイル保存場所を選択します。選択は、エンコーダ 保存場所 と左右 key を使用します。

ディスプレイ右列の新規ファイル保存場所を選択します。

選択されているファイル保存場所は、黒白反転表示になっています。

USB メモリ内のフォルダを選択する場 F5: Select 合、フォルダ選択後に F5(Select) key を押します。

8 新規ファイ 各機能の内部メモリデータを保存する USB 上のファ ル選択 イルを、選択します。 選択されているファイルは、黒白反転表示になってい

ます。

9 データ USB 上のファイルを選択後に、 F3: Save 保存 F3(Save) key を押すとデータが保存 されます。

10 各パラメータ設定後、F6(Return) key を押すと、ひと Return つ前の動作に戻ります。

5.4. USB メモリデータの呼出し

USBメモリに保存されている各機能のデータ(設定値メモリ機能の設定パラメー タ、シーケンス機能のシーケンスプログラムおよびディレイ機能のディレイプロ グラム)は、呼び出す事ができます。呼び出されたデータにより、本器の各機能 (設定値メモリ機能、シーケンス機能、ディレイ機能)のパラメータが設定されま す。

レコーダ機能の記録データを USB メモリから呼び出した場合、本器のレコーダ 機能のパラメータは変わりません。呼び出したデータは、レコーダ機能の内部メ モリに保存する事ができます(Save 操作)。

項目 手順 説明

1 出力 OFF 全チャンネルを、Output(Load) OFF にします。 確認 また、F6 keyが"Return"表示されている場合、F6 key を何回か押して"Return"表示しない状態にします。

2 USB メモリ 各機能のデータが保存されている の装着 USB メモリを前面パネルの USB ホス



トポートに挿入します。 ディスプレイ右上に右図が表示されま

3 以下の手順で、4種類の機能の何れかを選択しま 機能選択 す。

> 設定値メモリ機能: Memory key を押します。 シーケンス機能:

Advance→F2(Sequence)→F4(Memory)の順でkey を押します。

ディレイ機能:

Advance→F3(Delay)→F4(Memory)の順でkeyを押 します。

レコーダ機能:

Advance→F5(Recorder)→F4(Memory) の順でkey を押します。

4 USB 選択 エンコーダと左右 key を使用し、LCD 左列の"USB"を 選択します。 "USB"を選択すると、F1 key に"Type"が表示されま す。

5 ファイル 機能別に USB メモリに保存されてい F1: Type 形式選択 るファイル形式を選択します。 F1(Type) key を押すと、F1-F4 key に ファイル形式が表示されます。 シーケンス機能: F1(*.CSV), F2(*.SEQ) key ディレイ機能: F1(*.CSV), F3(*.DLY) key レコーダ機能: F1(*.CSV), F4(*.REC) key F1-F4 key の何れかを押し、USB メモ F1-F4 リに保存されているファイル形式を選

択します。

注意 設定値メモリ機能はデータを保存するファイル形式 は"*.STA"のみなので、本手順のファイル形式選択は できません。

6 ファイル ファイル保存場所を選択します。選択は、エンコーダ 保存場所 と左右 key を使用します。 選択 ディスプレイ右列のファイル保存場所を選択します。 選択されているファイル保存場所は、黒白反転表示 になっています。

USB メモリ内のフォルダを選択する場 F5: Select 合、フォルダ選択後に F5(Select) key を押します。

ファイル 各機能のデータが保存されている USB 上のファイル 選択 を、選択します。選択されているファイルは、黒白反転表示になっています。

8 データ USB 上のファイルを選択後に、 F5: Select 呼び出し F5(Select) key を押すとデータが呼び 出されます。

9 Return 各パラメータ設定後、F6(Return) key を押すと、ひと つ前の動作に戻ります。

5.5. スクリーンショット機能

本器はディスプレイの表示画面を、USBメモリに保存できます。

スクリーンショットとして保存される LCD 表示画面は、"*.BMP"のファイル形式で、USB メモリのルートディレクトリに保存されます。

ファイル"*,BMP"の"*"はファイル名で、USB メモリに保存の際に自動的に設定されます。

ディスプレイに表示されるポップアップは、LCD 表示画面として保存できません。

<i>,</i> 0 °		
手順	項目	説明
1	USB メモリ の装着	USB メモリを前面パネルの USB ホストポートに挿入します。 ディスプレイ右上に右図が表示されます。
2	画面設定	本器を操作し、ディスプレイ画面を USB メモリに保存 したい状態にします。
3	画面コピー	System key→F3(Setting) key→F5(Hardcopy)key の順序で押します。
4	画面選択	エンコーダを操作すると、LCD 画面が エンコーダ 変わります。 手順 2 の LCD 画面を LCD に表示さ せます。
5	画面保存	Enter key を押すと、手順 4 で選択さ Enter key れたディスプレイ画面が USB メモリに 保存されます。
		Enter keyを押した後、ディスプレイが手順3の画面に変われば保存完了です。

6. 製品システム

6.1. システム情報

System key を押すと、下記のシステム情報画面が表示されます。

System key を押した後に、続けて F4(Version) key を押します。

システムバージョンを表示するポップアップ画面が5秒程度表示されます。

システムバージョン情報内容

モデル名: PDW-xxxx

ファームウエアバージョン: Vx.xx, M, D, Y, Time

シリアルナンバー: xxxxxxxxxx

ブートキャンプバージョン: Ver: x.xx

ハードバージョン: Ver: x

6.2. システム設定

PDW シリーズのシステムに関わるパラメータが設定できます。

設定パラメータ 説明

Interface 選択されているリモートインタフェースが表示されていま

す。

System メニューで F1(Interface) key を押し、設定する

インターフェースを選択します。

詳細は、104ページをご参照ください。

Power On 電源 ON 直後の動作状態の設定です。

System メニューで F2(Power On) key を押し、前回の電源 OFF 時の設定を呼び戻す「Last」を選択するか、工場出荷時状態を呼び出す「Default」を選択します。詳細は、"初期化機能: 90 ページ"をご参照ください。

Language ディスプレイに表示される言語の設定です。

System メニューで F3(Setting) key を押したあと、続けて F1(Language) key を押し、F1(English) key 英語表示または F2(Chinese) key 中国語表示を押すことで選

択します。

BackLight ディスプレイのバックライトの明るさを調整します。

System メニューで F3(Setting) key を押したあと、続け

て F2(Back Light) key を押し、F1(Low) key、

F2(Middle) key、F3(High) key の3段階の中から選択

します。

Beep ブザー音の ON/OFF の設定です

System メニューで F3(Setting) key を押したあと、続けてもう一度 F3(Setting) key を押すことで設定します。

F3 key を押すたびに、On/Off が切替わります。

Upgrade ファームウェアのアップグレード時に使用します。

詳細は、103ページをご覧ください。

Hardcopy ディスプレイのスクリーンショットを取る際に使用しま

す。

System メニューで F3(Setting) key を押したあと、続いて F5(Hardcopy) key を選択してスクリーンショット操作

に進みます。詳細は、100 ページをご覧ください。

Preset 工場出荷時設定に戻します。

システムメニューで F5(Preset) key を押すことで、設定

が工場出荷時状態に戻ります。 詳細は、90ページをご覧ください。

Front/Rear フロントまたはリア出力を選択します。

System key をダブルクリックし、F1(Front) key または F2(Rear) key を押して、前面または背面の入出力端子を選択します。詳細は、21 ページをご覧ください。

6.3. PDW シリーズで使用する USB メモリ

ファームウェアのアップグレード、スクリーンショット、ファイルの入出力に USB メモリを使用します。

本機で使用できるのは、FAT32 フォーマットをした USB2.0 以上対応の USB メモリで、16GB までの容量が保証されます。ただし、フォルダ・ファイルの名前に日本語がある USB メモリは使用できません。

メディアリーダーなどの変換器や USB ハブでは動作しない場合があります。また、暗号化などの機能が付いた USB メモリや USB-SSD も使用できません。 16Gbyte 以下のメモリが用意できない場合は PC で USB メモリに 16Gbyte のパーテーションを作成すると利用可能になる USB メモリがあります。

6.4. PDW シリーズのファームウエア更新

USB メモリのルートフォルダに更新用ファイルをコピーして、PDW シリーズのファームウエア更新を行います。

— <u> </u>	上ノ史初でコリ	, ' ム り 。
手順	項目	説明
1	USB メモリ の装着	ファームウエア更新用のファイルが保存された USB メモリを前面パネルのUSB ホスト ポートに挿入します。
		LCD 右上に右図が表示されます。
2		System key \rightarrow F3(Setting) key \rightarrow F4(Upgrade) key の順番でキーを押します。
3	ファイル 選択	エンコーダを回して、ファームウエア更新用ファイルを 選択します。
4	更新の 実行	F4(Recall) key を押すと、ファームウ F4: Recall エア更新が始まります。
		ファームウエア更新が終わると、ディスプレイにメッセ ージが表示されます。
5	電源 再投入	本器の電源を OFF して、再び電源を ON してください。
<u>!</u> 注意	违	PDW シリーズは、以下の 3 種類のファームウエアがあります。ファームウエアはモデルにより異なります。
		Type A PDW32-6SG, PDW32-3DG, PDW32-3TG, PDW32-3QG
		Type B PDW30-6TG, PDW36-5TG, PDW60-3TG
		Type C PDW36-10SG, PDW72-5SG

7. リモート制御

7.1. インタフェース設定

PDW シリーズは、標準で 4 種類のインターフェース(RS-232C、USB、GP-IB、LAN)を使用できます。

PDW シリーズでは、複数のインターフェースを同時に使用することはできません。そのため、リモート制御をする前に、使用するインターフェースを設定する必要があります。

7.1.1. インタフェース選択

インターフェース 選択操作 System key を押した後に F1(Interface) key を押し、使用するインターフェースを F1(RS-232) key、F2(USB) key、F3(GPIB) key、F4(LAN) key の中から選択します。

選択されたインターフェースが、ディスプレイに以下 の様に表示されます。

Interface : USB : インターフェースが USB の時

選択インターフェース 表示

選択されているインターフェースは、ステータスバー 右に灰色表示で表示されます。

リモートコマンドによる通信が行われると、この表示 が白色表示に変わります。

7.1.2. RS-232C

概要 PDW シリーズでは、RS-232C によるリモート制御が可能

です。

EIA-232D 準拠、D-Sub9 ピン:オス

コネクタ 背面パネルに、RS-232C の

コネクタがあります。

ケーブル 3 線接続のクロスケーブル RxD,TxD,GND の 3 線を GTL-232 を使用します。 使用します。

接続 電源 OFF の状態で RS-232C のケーブルを接続したあとで、使用するインタフェースとして RS232 を選択します。 初め、ステータスバーには灰色で「RS232」の表示が出ますが、リモートコマンドによる通信を行うと白色表示に変わ

ります。

なお、リモートコマンドによる通信がされた段階で、本機は 自動的にキー操作がロックされます。

パラメータ設

定

System key を押したあとに、F1(Interface) key を押し、も

う一度 F1(RS-232) key を押して選択します。

続いて、通信ボーレートの設定を、F1~F5 key を使って行います。

設定の表示

RS-232C に関する設定は、下記のように LCD に表示され

ます。

RS232 Baud : 115200 8.N.1.N

8: データビットが 8bit 設定

N: パリティビット無し

1: ストップビットが 1bit の設定

N:フロー制御無し

動作の確認
動作の確認は汎用のターミナルアプリを利用します。

*IDN? クエリを実行すると、本機は、メーカー名、モデル名、シリアルナンバーとソフトウェアのバージョンを返しま

す。

応答例:

TEXIO, PDW32-3QG, SN: xxxxxxxx, Vx.xx

リモート制御の停止

制御 PC より、コマンド「LOCAL」を送ります。 前面パネルの F6 キー(unlock)を長押しします。

<u>!</u> 注意 RS-232C はホットプラグに対応していません。そのため、

→^{圧息} 電源 OFF の状態で接続をしてください。

7.1.3. USB

概要 GPP シリーズの USB は、仮想 COM による通信となりま

す。仮想 COM では通信ボーレートの設定が必要です。

USB2.0 Type-B、仮想 COM(CH341)

コネクタ 背面パネルに、USB 通信用のコネクタが

あります。



USBドライバ

ഗ

PC が PDW シリーズを COM ポートとして認識しない場合

は、USBドライバをPCにインストールします。

インストール USBドライバは弊社 HP からダウンロード・解凍してご利用

ください。

デバイスマネージャのドライバの更新でドライバを指定してください。

USB ケーブルを接続した後で、本機で使用するインタフェースとして USB を選択します。

認識後は、ステータスバーに灰色で「USB」表示が出ますが、リモートコマンドで通信がされた段階で白色表示に変わります。

PC が本器を認識すると COM ポートに仮想ポートを形成します。ボーレートの設定を本器と合わせてください。

なお、リモートコマンドによる通信がされた段階で、本機は 自動的にキー操作がロックされます。

パラメータ設 定 System key を押したあとに、続けて F1(Interface) key を押し、さらに F2(USB) key を押して選択します。

続いて、通信ボーレートの設定を、F1~F5key を使って行います。

設定の表示

USB に関わる設定情報は、下記のように LCD に表示されます。

USB Baud : 115200

115200----> 通信ボーレート

動作の確認 動作の確認は汎用のターミナルアプリを利用します。

*IDN? クエリを実行すると、本機はメーカー名、モデル名、 シリアルナンバーとソフトウェアのバージョンを返します。

応答例:

TEXIO, PDW32-3QG, SN: xxxxxxxxx, Vx.xx

リモート制御の停止

制御 PC からコマンド「LOCAL」を送ります。 前面パネルの F6 キー(unlock)を長押しします。

背面パネルから USB ケーブルを抜き去ります。



USB はホットプラグです。COM ポートを開いていない場合はケーブルを抜き去っても問題はありません。

7.1.4. GP-IB

概要 GP-IB 通信を始める前に、GP-IB アドレスの設定をする必要があります。

IEEE488.1 準拠

コネクタ 背面パネルに、GP-IB コネクタがあり

ます。

接続 GP-IB ケーブルを挿してから、使用するインタフェースを

GPIB に設定します。

初め、ステータスバーには灰色で GPIB 表示がされますが、リモートコマンドによる通信が行われると、白色表示に

変化します。

なお、リモートコマンドによる通信がされた段階で、本機は

自動的にキー操作がロックされます。

パラメータ 設定 System key を押したあとに、続けて F1(Interface) key を押し、さらに F3(GPIB) key を押して選択します。続いて、GP-IBアドレスの設定を行います。赤色で表示されるアドレ

スを設定し、F1(Enter) key を押して確定します。

設定の表示 GP-IBアドレスの設定情報は、下記のように LCD に表示さ

れます。

GPIB Addr : 11

動作の確認 動作の確認は GP-IB の通信アプリを利用します。*IDN?

クエリを実行すると、本機はメーカー名、モデル名、シリアルナンバーとソフトウェアのバージョンを返します。

応答例:

TEXIO, PDW32-3QG, SN: xxxxxxxxx, Vx.xx

リモート制御の停止

制御 PC からリモートコマンド「LOCAL」を送ります。 前面パネルの F6(unlock) key を長押しします。

7.1.5. LAN

概要 LAN 通信はソケット接続および HTTP 接続により、リモート

制御とモニタリングを行うことができます。

IEEE802.3 準拠、100Base-TX、IPv4、 DHCP/AutoIP/固定 IP、Auto-MDIX HTTP ポート:80、Socket ポート 1026

接続 LAN ケーブルを挿した後で、使用するインタフェースを LAN

に設定します。ステータスバーに LAN の表示が灰色でされますが、リモートコマンドによる通信が行われた段階で、白

色表示に変わります。

なお、リモートコマンドによる通信がされた段階で、本機は

自動的にキー操作がロックされます。

インターフェー System key を押したあと、F1(Interface) key を押、続けて F4(LAN) key を押して、使用するインターフェースを LAN に スの設定

設定します。

LAN パラメー タ設定

F1(Config) key を押すと、F1-F4 key は LAN パラメータが表 示されます。IP Address, Net Mask, Gate Way の各パラメー タを設定します。

その他の 表示パラメー 上記のパラメータ以外に、固有の値としてのパラメータが 表示されています。

タ

Mac Address:

Host Name: 本器の固有の値です。

VISA Resource name には、IP Address と SOCKET ポート 番号(1026::SOCKET)が表時されています。

Host Name O 編集

F4(Host Name) kev を押して、ホスト名を手動で入力しま す。

入力する領域がアクティブになり、設定した文字から赤色 表示されます。

初めに表示される文字は「A」で、ロータリーエンコーダを時 計回りに回すとA. B...Z. a. b...zという順序で文字が変化しま す。F1(Enter) key 押すことで、入力中の文字が確定され、 自動的に次の文字の入力に移ります。数字・記号を入れる ことができないのでご注意ください。ホスト名の入力が終わ るまで、この操作を続けます。

設定終了後、F6(Return) kev を押し、LAN パラメータ設定画 面に戻します。

IP モード

LAN パラメータ設定画面から設定操作をします。

パラメータ設 IP アドレスは、F1(DHCP) key、F2(Auto IP) key または 定

F3(Manual) kev を押して設定します。

Manual IP 設定

手順 項目 説明

System \rightarrow F1(Interface) \rightarrow F4(LAN) \rightarrow F1(Config) \rightarrow 1 Manual IP

設定選択 F3(Manual)の順に Kev を押します。

F1(IP addr) key, F2(Net Mask) key, F3(Gate Way) key

表示になります。

2 IP Address

F1(IP addr) kev を押して、

F1: IP addr

設定

"IP Address:"パラメータ(赤字表示)を

設定します。

設定範囲

1.0.0.0~223.255.255.255 (127.nnn.nnn.nnn 以外)

3 Net Mask F2(Net Mask) key を押して、 F2: 設定 "Net Mask:"パラメータ(赤字表示)を設 Net Mask

定します。

設定範囲 1.0.0.0~255.255.255.255

4 Gate Way F3(Gate Way) key を押して、 F3: 設定 "Net Mask:"パラメータ(赤字表示)を設 Gate Way 定します。

設定範囲 1.0.0.0~223.255.255.255 (127.nnn.nnn.nnn 以外)

5 決定 IP Address, Net Mask, Gate Way の各 F1:
パラメータはテンキーで設定します。 Done
設定後、F1(Done) key を押すと、各パ
ラメータが設定されます。

F5(Clear) key を押すと、設定途中のパラメータがクリアされ、再設定ができます。

DHCP 設定

手順 項目 説明

1 DHCP System→F1(Interface)→F4(LAN)→F1(Config)→ 設定選択 F1(DHCP)の順に Key を押します。

IP Address, Net Mask, Gate Way の各パラメータが、DHCP サーバーから割り当てられます。 パラメータ設定後、LAN パラメータ設定画面に戻りま

-

/ 注意

ネットワーク内にDHCPサーバーが無い場合に正しい値が設定されません。

Auto IP 設定

1 Auto IP System→F1(Interface)→F4(LAN)→F1(Config)→ 設定選択 F2(Auto IP)の順に Key を押します。

Gate Way が"255.255.0.0"、IP Address が" 169.254.x.x"が競合しないように自動的に設定されます、コントローラ側も同じ設定にして下さい。

Auto IP 設定は本器と PC 等のコントローラが 1 対 1 で接続する場合の簡易モードとなります。接続時にア

で接続する場合の簡易モードとなります。接続時にア ドレスが変更になる可能性が高いので、利用時に毎 回アドレスを確認してからご利用ください。

複数以上の接続の場合は固定 IP または DHCP をご

利用ください。

コントローラ(PC)操作: HTTP アクセス方法

Web ブラウザに IP アドレスを入力すると、機器情報が表示される画面が現れます。

Web ブラウザを介して、PDW シリーズをコントロールする事ができます。

リモート制御の停止

手順 説明

- 1 制御 PC からリモートコマンド「LOCAL」を送ります。
- 2 前面パネルの F6(unlock) key を長押しします。
- 3 LAN ケーブルを背面パネルから抜き去ります。 LAN の HTTP 接続はホットプラグです、ケーブルを抜き去っても問題はありません。

7.2. コマンド構文

PDW シリーズで使用するリモートコマンドは、IEEE488.2、SCPI-1999 に適合しています。一部他機種との互換性のためのコマンドは適合しておりません。

7.2.1. コマンド形式

SCPI は計測機器向けに設計された ASCII ベースのコマンド言語です。SCPI コマンドは階層構造を持ち、異なるサブシステムに分割されています。各々のサブシステムは、異なるキーワードにて定義されています。各コマンドは、ルートレベルのキーワードと、コロン(:)で切り分けられる 1 つ以上の階層的なキーワードで構成されており、それらのキーワードに続けてパラメータが記述されます。キーワードとパラメータの間には、1 文字分のスペースが常に必要となります。クエスチョンマーク(?) が付くコマンドは、すべてが問い合わせのためのコマンド(クエリ)です。

例:

:SYSTem:BEEPer:STATe {0|1|OFF|ON}

:SYSTem:BEEPer:STATe?

「SYSTem」はルートレベルのキーワードであり、「BEEPer」や「STATe」はそれぞれ第2、第3の階層のキーワードです。階層ごとのキーワードの区切りに、コロン":"が必ず使われます。中括弧"{}"で囲まれているものは、パラメータです。コマンド「SYSTem:BEEPer:STATe」は、パラメータ {0|1|OFF|ON} を持ち、コマンドとパラメータはスペース1文字分で区切られます。

「SYSTem:BEEPer:STATe?」は、このコマンドが問い合わせ(クエリ)であることを示しています。

また、カンマ "," で区切られた複数のパラメータが必要なコマンドも存在します (例::STATus:QUEue:ENABle (-110:-222,-220)。

7.2.2. 記号について

SCPI コマンドには、慣習的に用いられる記号があります。これらの記号はコマンドではありませんが、コマンドのパラメータの説明に使われます。

1. 波括弧 "{ }"

波括弧は、コマンド文字列中のパラメータを囲みます。

例: {OFF|ON}

2. 棒線"|"

縦線は、1つ以上の複数のパラメータを区切るために使用します。 実際のコマンドでは、区切られた複数のパラメータの中から1つのみを使用 します。

パラメータが {ON|OFF} の場合、ON または OFF を選択します。

3. 角括弧 "[]"

角括弧で囲まれたキーワードやパラメータは、コマンドを実行する際には省略可能であることを示しています。

例::OUTPut[:STATe] {ON|OFF} では、[:STATe] を省略可能

4. 山括弧 "< >"

山括弧で囲まれたパラメータは、適切なパラメータに置き換える必要があります。

例: DISPlay:CONTrast <bri>dhtness>

では、<bri>
くbrightness>を数値に置き換える必要があります。

→ DISPlay:CONTrast 1

7.2.3. パラメータの型

パラメータの型は1つのみではなく、コマンドによって異なる型のパラメータが必要となります。

1. 論理型 (Boolean)

"OFF" または "ON" の状態がパラメータとなります。

例: DISPay:FOCUs {ON|OFF}

2. 整数型

連続した整数値がパラメータとなります。

例: DISPay:CONTrast

が入ります。

3. 実数型

連続した実数値がパラメータとなります。設定範囲や設定確度範囲内での 実数値を適用できます。

例: CURRent {<current>|MINimum|MAXimum}

動作チャンネルの電流値を設定するコマンドですが、<current>には、設定範囲内であればどのような数値でも適用可能です。

4. 離散型

離散値がパラメータとなります。使用例で、リスト化された数値のみ使用できます。

例: *RCL {0|1|2|3| ... |9}

パラメータとして、0, 1, 2, 3, ...,9 のみが使用できます。

5. 文字列型

ASCII 文字をパラメータとする必要があります。

例: MODE <name>

パラメータ<name>には、ASCII 文字列を入れる必要があります。

7.2.4. コマンドの短縮型

SCPI コマンドは、アルファベットの大文字・小文字が混在した形となっていますが、大文字の部分は、そのコマンドの短縮形を表しています。

コマンドには大文字と小文字の区別はありません。しかし、短縮形を使う場合には、大文字部分のみを使用する必要があります。それ以外の省略はできません。

例: :MEASure:CURRent? は、:MEAS:CURR? と省略可能です。

7.2.5. コマンドターミネータ

リモートコマンドを送る際には、コマンド文字列に続いて、ターミネータとして <LF>を送らなければなりません。IEEE-4888のEOIも、改行文字として使われ ます。<CR>+<LF>の場合 CR は無視されます。

コマンドのパスは、ターミネータを送られることで、常にルートレベルに戻ります。 問い合わせに対する戻り値は、<LF>で終了します。

7.3. コマンド一覧

7.3.1. 測定コマンド

コマンド名	概要	ページ
:MEASure[1 2 3 4] : <current voltage POWEr>?</current voltage 	特定チャンネル電流・電圧・電力 のいずれかの測定値を問い合わ せ	129
:MEASure[1 2 3 4]:ALL?	特定チャンネル電流・電圧・電力 測定値の問い合わせ	129
:MEASure : <current voltage POWEr>:ALL?</current voltage 	全チャンネル電流・電圧・電力の いずれかの測定値を問い合わせ	129
VOUT<1 2 3 4>?	出力電圧の問い合わせ	130
IOUT<1 2 3 4>?	出力電流の問い合わせ	130

7.3.2. ディスプレイ表示関連コマンド

コマンド名	概要	ページ
:DISPlay:ENABle 	LCD 表示の ON/OFF 切替え	130
:DISPlay:ENABle?	LCD 表示状態の問い合わせ	130
:DISPlay:BRIGhtness <low middle high></low middle high>	LCD バックライトの明るさ設定	130
:DISPlay:BRIGhtness?	LCD バックライトの明るさ問い合 わせ	131
:DISPlay :TYPE {1 2 3 4 5 6 7}	LCD 表示タイプの設定	131
:DISPlay:TYPE?	LCD 表示タイプの問い合わせ	131

7.3.3. 出力コマンド

コマンド名	概要	ページ
:OUTPut[1 2 3 4] [:STATe] 	出力 ON/OFF の切替え	131
:OUTPut[1 2 3 4][:STATe]?	出力 ON/OFF 状態の問い合わ せ	131
:ALLOUTON	全チャンネルの出力 ON	132

:ALLOUTOFF	全チャンネルの出力 OFF	132
OUT <boolean></boolean>	全チャンネルの出力 ON/OFF	132
ROUTe :TERMinals {FRONt REAR}	出力端子を選択	132
ROUTe:TERMinals?	選択出力端子の問い合わせ	132
:OUTPut[1 2 3 4] :OVP:STATe 	OVP 動作有効/無効の切替え	132
:OUTPut[1 2 3 4] :OVP:STATe?	OVP 動作有効/無効の問い合わ せ	133
:OUTPut[1 2 3 4] :OVP:TRIGer?	OVP 保護機能がトリガされたか どうかを問い合わせ	133
:OUTPut[1 2 3 4] :OVP <nr2></nr2>	OVP 動作レベルの設定	133
:OUTPut[1 2 3 4]:OVP?	OVP 動作レベルの問い合わせ	133
:OUTPut[1 2 3 4] :OCP:STATe 	OCP 動作有効/無効の設定	134
:OUTPut[1 2 3 4] :OCP:STATe?	OCP 動作有効/無効の問い合わ せ	134
:OUTPut[1 2 3 4] :OCP:TRIGer?	OCP 保護機能がトリガされたか どうかを問い合わせ	134
:OUTPut[1 2 3 4] :OCP <nr2></nr2>	OCP 動作レベルの設定	134
:OUTPut[1 2 3 4]:OCP?	OCP 動作レベルの問い合わせ	134
7.3.4. 電源・電子負荷制御	即コマンド	
コマンド名	概要	ページ
:SOURce[1 2 3 4] :CURRent <nr2></nr2>	出力電流値の設定	135
ISET<1 2 3 4>: <nr2></nr2>	出力電流値の設定	135
:SOURce[1 2 3 4] :CURRent?	出力電流設定値の問い合わせ	135
ISET<1 2 3 4>?	出力電流設定値の問い合わせ	135
:SOURce[1 2 3 4] :CURRent[:LIMit]:STATe?	電流制限値に対する状態の問い 合わせ	136

:SOURce[1 2 3 4] :VOLTage <nr2></nr2>	出力電圧値の設定	136
VSET <x>:<nr2></nr2></x>	出力電圧値の設定	136
:SOURce[1 2 3 4] :VOLTage?	出力電圧設定値の問い合わせ	137
VSET<1 2 3 4>?	出力電圧設定値の問い合わせ	137
:SOURce[1 2] :RESistor <nr2></nr2>	電子負荷機能 CR モード抵抗値 の設定	137
:SOURce[1 2]:RESistor?	電子負荷機能 CR モード抵抗設 定値の問い合わせ	137
:SOURce:CURRent:ALL?	全チャンネル電流設定値の問い 合わせ	137
:SOURce:VOLTage:ALL?	全チャンネル電圧設定値の問い 合わせ	138
TRACK<0 1 2>	独立、直列トラッキング、並列トラ ッキングモードの設定	138
:OUTPut:SERies {ON OFF} [,FAST]	直列トラッキング動作の設定	138
:OUTPut:PARallel {ON OFF}[,FAST]	並列トラッキング動作の設定	139
:LOAD[1 2]:CV {ON OFF}[,FAST]	電子負荷機能 CV モードに設定	139
:LOAD[1 2]:CC {ON OFF}[,FAST]	電子負荷機能 CC モードに設定	139
:LOAD[1 2]:CR {ON OFF}[,FAST]	電子負荷機能 CR モードに設定	140
:MODE[1 2]?	動作モードの問い合わせ	140
:LOAD[1 2] :RESistor <nr2></nr2>	電子負荷モード CR 動作抵抗値 の設定	140
:LOAD[1 2]:RESistor?	電子負荷モード CR 動作抵抗値 の問い合わせ	141
:LOAD:DISPlay {Low Middle High}	電子負荷モード表示最小電圧値 の設定	141
:LOAD:DISPlay?	電子負荷モード表示最小電圧値 の問い合わせ	141

7.3.5. ディレイ機能コマンド

概要	ページ
ディレイ機能繰返し回数の設定	141
ディレイ機能繰返し回数の問い 合わせ	141
ディレイ機能動作終了時動作状 態の設定	142
ディレイ機能動作終了時動作状 態設定の問い合わせ	142
ディレイ機能実行 Step 数の設定	142
ディレイ機能実行 Step 数の問い 合わせ	142
ディレイ機能指定 Step 動作パラ メータの設定	143
ディレイ機能指定 Step 設定内容の問い合わせ	143
ディレイ機能初めから再スタート	144
ディレイ機能開始 Step 設定	144
ディレイ機能開始 Step 番号を問い合わせ	144
ディレイ機能 ON/OFF の設定	144
ディレイ機能動作状態の問い合 わせ	145
ディレイ機能出力状態設定を 01P または 10P に設定	145
ディレイ機能出力状態設定の問 い合わせ(01P または 10P)	145
ディレイ機能出力停止条件の設 定	145
ディレイ機能停止条件の問い合 わせ	146
	ディレイ機能繰返し回数の問い合わせ ディレイ機能動作終了時動作状態の設定 ディレイ機能動作終了時動作状態の設定 ディレイ機能動作をである。 ディレイ機能動作ができる。 ディレイ機能実行 Step 数の問い合うがです。 ディレイ機能実行 Step 数の問い合うがである。 ディレイ機能をできる。 ディレイ機能をできる。 ディレイ機能をできる。 ディレイ機能開始 Step 番号を問い合うがです。 ディレイ機能の形でである。 ディレイ機能の形でである。 ディレイ機能の形でである。 ディレイ機能の形でである。 ディレイ機能の形でである。 ディレイ機能のできる。 ディレイを、 ディを、 ディレイを、 ディを、 ディを、 ディレイを、 ディレイを、 ディレイを、 ディを、 ディを、 ディを ディンを ディを ディンを ディンを ディンを ディを ディンを ディン

:DELAy:SYNChronize {ON OFF}	CH1 と CH2 ディレイ機能動作同時再スタート	146
:DELAy[1 2]:TIME :GENErate {FIX INC DEC} [, <value0>[,<value1>]]</value1></value0>	ディレイ機能の各 Step 継続時間 の自動設定	147
:DELAy[1 2]:TIME :GENErate?	:DELAy[1 2]:TIME:GENErate で設定したパラメータの問い合わ せ	148
:DELAy:MEMory :SAVE {0 1 2 3 4 5 6 7 8 9}	ディレイ機能設定を、内部メモリ の指定番号に保存	148
:DELAy:MEMory :LOAD {0 1 2 3 4 5 6 7 8 9}	ディレイ機能設定を、内部メモリ の指定番号から呼び出し	148
:DELAy[1 2]:USB :SAVE <dest></dest>	ディレイ機能の設定を、USBメモ リ内の指定したファイルに保存	148
:DELAy[1 2]:USB :LOAD <dest></dest>	ディレイ機能の設定を、USB メモ リ内の指定したファイルから呼び 出し	149

7.3.6. モニタ機能コマンド

コマンド名	概要	ページ
:MONItor[1 2 3 4] :CURRent:CONDition { <c >C =C NONE}, {AND OR NONE}</c >	出力電流に対する監視条件の設 定	150
:MONItor[1 2 3 4] :CURRent:CONDition?	出力電流に対する監視条件の問 い合わせ	150
:MONItor[1 2 3 4] :CURRent[:VALue] { <nr2> MINImum MAXimum}</nr2>	出力電流の監視条件となる電流 値の設定	150
:MONItor[1 2 3 4] :CURRent[:VALue]?	出力電流に対する監視条件とな る電流値の問い合わせ	151
:MONItor[1 2 3 4] :POWER:CONDition { <p >P =P NONE}</p >	出力電力に対する監視条件の設 定	151
:MONItor[1 2 3 4] :POWER:CONDition?	出力電力に対する監視条件の問 い合わせ	151

:MONItor[1 2 3 4] :POWER[:VALue] { <nr1> MINimum MAXimum}</nr1>	出力電力の監視条件となる電力 値の設定	152
:MONItor[1 2 3 4] :POWER[:VALue]?	出力電力に対する監視条件とな る電力値の問い合わせ	152
:MONItor[1 2 3 4] [:STATe] {ON OFF}	出力監視機能有効/無効の切替 え	152
:MONItor[1 2 3 4][:STATe]?	出力監視機能有効/無効の問い 合わせ	152
:MONItor[1 2 3 4] :STOPway {OUTOFF ALARM BEEPER}, {ON OFF}	監視条件を満たした際に発生させる動作の設定	153
:MONItor[1 2 3 4]: STOPway?	監視条件を満たした際に発生す る動作の問い合わせ	153
:MONItor[1 2 3 4] :VOLTage:CONDition { <v >V =V NONE}, {AND OR NONE}</v >	出力電圧に対する監視条件の設 定	153
:MONItor[1 2 3 4] :VOLTage:CONDition?	出力電圧に対する監視条件の問 い合わせ	154
:MONItor[1 2 3 4] :VOLTage[:VALue] { <nr1> MINimum MAXimum}</nr1>	出力電圧の監視条件となる電圧 値の設定	154
:MONItor[1 2 3 4] :VOLTage[:VALue]?	出力電圧に対する監視条件とな る電圧値の問い合わせ	154
7.3.7. 外部 I/O 機能コマン	, F	
コマンド名	概要	ページ

119

合わせ

:TRIGger:IN[:ENABle]

:TRIGger:IN[:ENABle]?

{D0|D1|D2|D3|D4}

{D0|D1|D2|D3|D4},

{ON|OFF}

トリガ入力機能有効/無効の設定

トリガ入力機能有効/無効の問い

155

155

:TRIGger:IN:RESPonse {D0 D1 D2 D3 D4}, {ON OFF TOGGLE POWER CV CC CR IND SER PAR}	トリガ入力時応答の設定	155
:TRIGger:IN:RESPonse? {D0 D1 D2 D3 D4}	トリガ入力時応答の問い合わせ	156
:TRIGger:IN:SENSitivity {D0 D1 D2 D3 D4}, {LOW MID HIGH}	トリガ入力感度の設定	157
:TRIGger:IN:SENSitivity? {D0 D1 D2 D3 D4}	トリガ入力感度の問い合わせ	157
:TRIGger:IN:SOURce {D0 D1 D2 D3 D4}, {CH1 CH2 CH3 CH4}, {ON OFF}	トリガ入力動作チャンネルの設 定	157
:TRIGger:IN:SOURce? {D0 D1 D2 D3 D4}	トリガ入力動作チャンネルの問い 合わせ	158
:TRIGger:IN :TYPE {D0 D1 D2 D3 D4}, {RISE FALL HIGH LOW STATE }	トリガ入力種類の設定	158
:TRIGger:IN:TYPE? {D0 D1 D2 D3 D4}	入力トリガ種類の問い合わせ	158
:TRIGger:OUT :CONDition {D0 D1 D2 D3 D4}, {OUTOFF OUTON >V <v =v >C <c =c >P <p =p auto},<nr2></p =p auto},<nr2></c =c </v =v >	トリガ出力条件の設定	158
:TRIGger:OUT:CONDition? {D0 D1 D2 D3 D4}	トリガ出力条件の問い合わせ	159
:TRIGger:OUT[:ENABle] {D0 D1 D2 D3 D4}, {ON OFF}	トリガ出力機能有効/無効の設定	160
:TRIGger:OUT[:ENABle]? {D0 D1 D2 D3 D4}	トリガ出力機能有効/無効の問い 合わせ	160

:TRIGger:OUT:POLArity {D0 D1 D2 D3 D4}, POSItive NEGAtive}	トリガ出力信号極性の設定	160
:TRIGger:OUT:POLArity? {D0 D1 D2 D3 D4}	トリガ出力信号極性の問い合わ せ	161
:TRIGger:OUT:SOURce {D0 D1 D2 D3 D4}, {CH1 CH2 CH3 CH4}	トリガ出力機能とチャンネルの関 連付設定	161
:TRIGger:OUT:SOURce? {D0 D1 D2 D3 D4}	トリガ出力機能とチャンネルの関 連付問い合わせ	161
:TRIGger:OUT :STATe {D0 D1 D2 D3 D4}, {ON OFF}	トリガ出力状態の設定	161
:TRIGger:OUT:STATe? {D0 D1 D2 D3 D4}	トリガ出力状態の問い合わせ	162

7.3.8. レコーダ機能コマンド

- 10101 D - 7 MW II D - 1 P I		
コマンド名	概要	ページ
:RECOrder:PATH?	記録データの保存場所の問い 合わせ	162
:RECOrder :MEMory {0 1 2 3 4 5 6 7 8 9}	記録データの内部メモリ保存先 を指定	162
:RECOrder:USB <dest></dest>	記録データを、外部 USB メモリ に保存	163
:RECOrder:PERIod <nr1></nr1>	レコーダ機能記録周期の設定	163
:RECOrder:PERIod?	レコーダ機能記録周期の問い 合わせ	163
:RECOrder [:STATe] {ON OFF}	レコーダ動作 ON/OFF の設定	163
:RECOrder[:STATe]?	レコーダ動作 ON/OFF の問い 合わせ	164
:RECOrder :GROUPs <nr1></nr1>	レコーダ機能で記録させるデー タ数を設定	164
:RECOrder:GROUPs?	レコーダ機能で記録させるデー タ数の問い合わせ	164

:RECOrder[1 2 3 4] :ENABle {ON OFF}	レコーダ機能 ON/OFF の設定	165
:RECOrder[1 2 3 4]:ENABle?	レコーダ機能 ON/OFF の問い 合わせ	165

7.3.9. シーケンス機能コマンド

コマンド名	概要	ページ
:SEQUence[1 2] :CYCLEs {N I}[, <nr1>]</nr1>	シーケンス機能繰返し回数の設 定	165
:SEQUence[1 2]:CYCLEs?	シーケンス機能繰返し回数の問 い合わせ	165
:SEQUence[1 2] :ENDState {OFF LAST}	シーケンス機能終了時動作状態 の設定	166
:SEQUence[1 2] :ENDState?	シーケンス機能終了時動作状態 設定の問い合わせ	166
:SEQUence[1 2] :GROUPs <nr1></nr1>	シーケンス機能実行 Step 数の 設定	166
:SEQUence[1 2]:GROUPs?	シーケンス機能実行 Step 数の 問い合わせ	167
:SEQUence[1 2] :PARAmeter <no>,<volt>, <curr>,<time></time></curr></volt></no>	シーケンス機能パラメータの設 定	167
:SEQUence[1 2] :PARAmeter? <no>,<count></count></no>	シーケンス機能パラメータの問い 合わせ	167
:SEQUence[1 2]:RESTart	シーケンス機能最初から再スタ ート	168
:SEQUence[1 2] :STARt <nr1></nr1>	シーケンス機能最初に実行する Step 番号の設定	168
:SEQUence[1 2]:STARt?	シーケンス機能最初に実行する Step の番号の問い合わせ	169
:SEQUence[1 2] [:STATe] {ON OFF}	シーケンス機能 ON/OFF の切替 え	169
:SEQUence[1 2][:STATe]?	シーケンス機能 ON/OFF の問い 合わせ	169

:SEQUence :SYNChronize {ON OFF}	CH1 と CH2 のシーケンス機能を 同期して再スタート	170
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :CONSTruct	シーケンス波形機能パラメータ の確定	170
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :FALLRate <nr1></nr1>	シーケンス波形機能 ExpFall の 立下りパラメータの設定	170
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :FALLRate?	シーケンス波形機能 ExpFall の 立下りパラメータの問い合わせ	170
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :INTErval <nr1></nr1>	シーケンス波形機能で 1Step あたりの時間の設定	171
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :INTErval?	シーケンス波形機能で 1Step あ たりの時間の問い合わせ	171
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :INVErt {ON OFF}	シーケンス波形機能で波形反転 ON/OFF の設定	171
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :INVErt?	シーケンス波形機能で波形反転 ON/OFF の問い合わせ	172
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :MAXValue { <nr2> MINimum MAXimum}</nr2>	シーケンス波形機能で最大電圧/ 電流値の設定	172
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :MAXValue?	シーケンス波形機能で最大電圧/ 電流値の問い合わせ	172
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :MINValue { <nr2> MINimum MAXimum}</nr2>	シーケンス波形機能で最小電圧/ 電流値の設定	173
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :MINValue?	シーケンス波形機能で最小電圧/ 電流値の問い合わせ	173
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :OBJect {V C}	シーケンス波形機能で電圧/電流 編集の選択	173
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :OBJect?	シーケンス波形機能で電圧/電流 編集の問い合わせ	174
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :POINTs <nr1></nr1>	シーケンス波形機能で何 Step に て変化させるかの設定	174
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :POINTs?	シーケンス波形機能で何 Step に て変化させるかの問い合わせ	174

:SEQUence[1 2]:TEMPlet :RISERate <nr1></nr1>	シーケンス波形機能 ExpRise で 立ち上がり方の設定	174
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :RISERate?	シーケンス波形機能 ExpRise で 立ち上がり方の問い合わせ	175
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :SELect {SINE PULSE RAMP UP DN UPDN RISE FALL}	シーケンス波形機能で使用する 波形の選択	175
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :SELect?	シーケンス波形機能で選択波形 の問い合わせ	175
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :SYMMetry <nr1></nr1>	シーケンス波形機能 RAMP でシ ンメトリの設定	176
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :SYMMetry?	シーケンス波形機能 RAMP でシ ンメトリの問い合わせ	176
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :WIDTh <nr1></nr1>	シーケンス波形機能 Pulse でパ ルス幅の設定	176
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :WIDTh?	シーケンス波形機能 Pulse でパ ルス幅の問い合わせ	176
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :STARt <value></value>	シーケンス波形機能開始 Step 番号の設定	177
:SEQUence[1 2]:TEMPlet :STARt?	シーケンス波形機能開始 Step 番号の問い合わせ	177
:SEQUence:MEMory :SAVE {0 1 2 3 4 5 6 7 8 9}	シーケンス機能設定を内部メモリ に保存	177
:SEQUence:MEMory :LOAD {0 1 2 3 4 5 6 7 8 9}	シーケンス機能設定を内部メモリ から呼び出し	177
:SEQUence[1 2]:USB :SAVE <dest></dest>	シーケンス機能設定を USB メモ リに指定した名前で保存	177
:SEQUence[1 2]:USB :LOAD <dest></dest>	シーケンス機能設定を USB メモ リから呼び出し	178

7.3.10. ステータスコマンド

コマンド名	概要	ページ
STATus?	動作ステータスの問い合わせ	179
:STATus:PRESet	各 Event Enable レジスタをクリア	179

:STATus:OPERation [:EVENt]?	Operation Event レジスタの問い 合わせ	179
:STATus:OPERation :CONDition?	Operation Condition Status レジスタの問い合わせ	180
:STATus:OPERation :ENABle <nr1></nr1>	Operation Enable Status レジス タの設定	180
:STATus:OPERation :ENABle?	Operation Status Enable レジス タの問い合わせ	180
:STATus:MEASurement :ENABle <nr1></nr1>	Measurement Status Enable レ ジスタの設定	180
:STATus:MEASurement [:EVENt]?	Measurement Event Status レジスタの問い合わせ	180
:STATus:MEASurement :ENABle?	Measurement Status Enable レ ジスタの問い合わせ	181
:STATus:MEASurement :CONDition?	Measurement Condition Status レジスタの問い合わせ	181
:STATus:QUEStionable [:EVENt]?	Questionable Event Status レジ スタを問い合わせ	181
:STATus:QUEStionable :CONDition?	Questionable Condition Status レジスタの問い合わせ	181
:STATus:QUEStionable :ENABle <nr1></nr1>	Questionable Enable Status レ ジスタの設定	181
:STATus:QUEStionable :ENABle?	Questionable Enable Status レ ジスタの問い合わせ	182
:STATus:QUEue[:NEXT]?	エラーキューに格納されているメ ッセージの読み取り	182
:STATus:QUEue :ENABle <list></list>	エラーキューに出力させる物の 設定	182
:STATus:QUEue:ENABle?	エラーキューに出力させる物の 問い合わせ	182
:STATus:QUEue :DISable <list></list>	エラーキューに出力させない物の 設定	183
:STATus:QUEue:DISable?	エラーキューに出力させない物の 問い合わせ	183

エラーキューに蓄えられているエ ラーメッセージの削除	183
概要	ページ
ファームウエアバージョンの問い 合わせ	183
最後のエラーを読み取り	184
エラーステータスを確認し、最後 のエラーメッセージを返信	184
エラーキューのクリア	184
電源 ON 直後に設定される状態 の選択	185
電源 ON 直後に設定される状態 の問い合わせ	185
DHCP 有効/無効の設定	185
DHCP 有効/無効の問い合わせ	185
IP アドレスの設定	185
IP アドレスの問い合わせ	186
サブネットマスクの設定	186
サブネットマスクの問い合わせ	186
ゲートウェイアドレスの設定	186
ゲートウェイアドレスの問い合わ せ	187
IP アドレス手動設定有効/無効の 設定	187
	世界では、

:SYSTem:COMMunicate: LAN:MANualip[:STATe]?	IP アドレス手動設定有効/無効の 問い合わせ	187
:SYSTem:COMMunicate :LAN:APPLy	他のコマンドで設定された LAN に関わる全設定を適用	187
:SYSTem:REMote	本器をリモート状態に設定	188
REMOTE	本器をリモート状態に設定	188
:SYSTem:BEEPer :STATe 	ブザー音 ON/OFF の設定	188
BEEP <boolean></boolean>	ブザー音 ON/OFF の設定	188
:SYSTem:BEEPer:STATe?	ブザー音 ON/OFF の問い合わ せ	188
:SYSTem:LOCal	本器リモート状態からローカル状 態に設定	188
LOCAL	本器リモート状態からローカル状 態に設定	189
:SYSTem:INTerface [USB RS232 GPIB LAN]	使用するインターフェースの選択	189
:SYSTem:BAUDrate :USB {9600 19200 38400 57600 115200}	USB 通信におけるボーレートの 選択	189
:SYSTem:BAUDrate:USB?	USB 通信におけるボーレートの 問い合わせ	189
:SYSTem:BAUDrate :RS232 {9600 19200 38400 57600 115200}	RS-232C 通信におけるボーレー トの選択	189
:SYSTem:BAUDrate :RS232?	RS-232C 通信におけるボーレー トの問い合わせ	189
BAUD <nr1></nr1>	RS232 または USB 通信ボーレ ートの選択	190
:SYSTem:LANGuage [CHINese ENGlish]	表示言語英語(ENGlish)/中国語 (CHINese)の選択	190
:SYSTem:LANGuage?	表示言語の問い合わせ	190
HELP?	簡易コマンド一覧の返信	190

7.3.12. IEEE488.2 共通コマンド

	· = •	
コマンド名	概要	ページ
*IDN?	機器情報の問い合わせ	191
*RST	本機リセット、工場出荷時設定	191
*SAV <nr1></nr1>	現在の設定を選択した保存場所 に保存	191
*RCL <nr1></nr1>	メモリに保存されている設定状態 の呼び出し	191
*SRE <nr1></nr1>	Service Request Enable レジス タの設定	192
*SRE?	Status Byte Enable レジスタ設 定内容の問い合わせ	192
*STB?	Status Byte レジスタの問い合わせ	192
*ESE <nr1></nr1>	Standard Event Enable レジスタ の設定	192
*ESE?	Standard Event Enable レジスタ 設定内容の問い合わせ	193
*ESR?	Standard Event レジスタの問い 合わせ	193
*CLS	Status Byte レジスタのサマリ、 全ての Event レジスタ、各バッフ ァをクリア	193
*OPC	全ての実行待ちの操作が完了 後、Standard Event レジスタの OPC ビットをセット	193
*OPC?	全ての実行待ちの操作が完了している場合、出力キューに1を返送	193

7.4. コマンドの詳細

特定のチャンネル選択する際、[1]は CH1 を表します。 同様に、[2]は CH2 を[3] は CH3 を、[4]は CH4 を表します。

特例として、CH1を表す[1]は省略することができます。CH2, CH3, CH4を指定する場合には、[2], [3], [4]を必ず入力する必要があります。

7.4.1. 測定コマンド

コマンド	:MEASure[1 2 3 4]: <current voltage power>?</current voltage power>
機能	特定チャンネルに対して、電流・電圧・電力の、いずれかの測定値を問い合わせます。
パラメータ	CURRent: 電流測定値を返します。 VOLTage: 電圧測定値を返します。 POWEr: 電力測定値を返します。
例	:MEASure2: CURRent? CH2 の電流測定値を返します。
注意	3 出力モデル CH3 の電流・電力の測定値は 0A となります。
コマンド	:MEASure[1 2 3 4]:ALL?
機能	指定チャンネルの電流・電圧・電力を一括で問い合わせます。
例	:MEASure1:ALL? CH1 の全測定値を問い合わせ。 0.5005,0.0009,0.00 CH1 測定値は、電圧: 0.5005V、電流: 0.0009A、電力: 0.00W。
コマンド	:MEASure: <current voltage power>:ALL?</current voltage power>
機能	全チャンネルに対して、指定した項目を問い合わせます。
パラメータ	CURRent: 電流測定値を返します。 VOLTage: 電圧測定値を返します。 POWEr: 電力測定値を返します。
例	:MEASure:VOLTage:ALL? 全チャンネルの電圧測定値を問い合わせ。 0.5004,1.0014 電圧測定値は、CH1: 0.5004V、CH2: 1.0014V。

コマンド	VOUT<1 2 3 4>?
機能	指定チャンネルの出力電圧を問い合わせます。
例	VOUT1? CH1 の出力電圧を問い合わせ。 00.501V 電圧測定値は、0.501V。
コマンド	IOUT<1 2 3 4>?
機能	指定チャンネルの出力電流を問い合わせます。
例	IOUT1? CH1 の出力電流を問い合わせ。 0.0009A 電流測定値は、0.0009A。
/!注意	3 出カモデル CH3 の電流測定値は 0A となります。

7.4.2. ディスプレイ表示関連コマンド

コマンド	:DISPlay:ENABle
機能	LCD 表示の ON/OFF を切替えます。
パラメータ	b 0/OFF: LCD 表示を OFF します。 1/ON: LCD 表示を ON します。
例	:DISPlay:ENABle ON LCD 表示を ON とします。
コマンド	:DISPlay:ENABle?
機能	LCD の表示状態を問い合わせます。
例	:DISPlay:ENABle? LCD の表示状態を問い合わせ。 ON LCD の表示状態は ON。
	このの数本状態はのれ。
コマンド	:DISPlay:BRIGhtness <low middle high></low middle high>
機能	LCD のバックライトの明るさを、Low / Middle / High の 3 段階で設定します。
パラメータ	Low→Middle→High の順序で明るくなります。

例	:DISPlay:BRIGhtness Low バックライトの明るさを「Low」に設定します。
コマンド	:DISPlay:BRIGhtness?
機能	LCD のバックライトの明るさの設定を問い合わせます。
例	:DISPlay:BRIGhtness? LCD バックライトの明るさを問い合わせ。 High LCD バックライトの明るさは、High。
コマンド	:DISPlay:TYPE {1 2 3 4 5 6 7}
機能	ディスプレイの表示タイプを設定します。 詳細は、23 ページを参照してください。
パラメータ	1: TYPE 1, 2: TYPE 2, ···6: TYPE 6, 7: TYPE 7
	:DISPlay:TYPE 4 ディスプレイの表示タイプを、Type 4 に設定します。
コマンド	:DISPlay:TYPE?
機能	LCD の表示タイプを問い合わせます。
例	:DISPlay:TYPE? LCD の表示タイプを問い合わせ。 1 ディスプレイの表示タイプは、Type 1。
7.4.3. 出力	コマンド
コマンド	:OUTPut[1 2 3 4][:STATe]
機能	指定チャンネルの出力 ON/OFF を切替えます。

コマンド:OUTPut[1|2|3|4][:STATe] 機能指定チャンネルの出力 ON/OFF を切替えます。パラメータ
(b)> 0/OFF: 出力 OFF させます。
1/ON: 出力 ON させます。例:OUTPut1:STATe ON
CH1 を出力 ON させます。コマンド:OUTPut[1|2|3|4][:STATe]?機能指定チャンネルの出力 ON/OFF の状態を問い合わせます。

例	:OUTPut1:STATe?
	CH1 の出力 ON/OFF を問い合わせ。 ON
	CH1 は出力 ON。
コマンド	:ALLOUTON
機能	すべてのチャンネルを出力 ON します。
1成 月已	りへとのデヤンネルを出力ONUより。
コマンド	:ALLOUTOFF
機能	すべてのチャンネルを出力 OFF します。
コマンド	OUT <boolean></boolean>
機能	全チャンネルの出力を ON/OFF します。
パラメータ	<boolean> 0= OFF, 1=ON</boolean>
例	OUT0
	すべてのチャンネルを出力 OFF します。
コマンド	ROUTe:TERMinals {FRONt REAR}
機能	出力端子を選択します。
パラメータ	FRONt: 前面出力端子を選択します。 REAR: 背面出力端子を選択します。
例	ROUTe:TERMinals REAR
נילו	背面出力端子を選択します。
コマンド	ROUTe:TERMinals?
機能	選択中の出力端子を返信します。
クエリ	FRONT: 前面出力端子を選択中
	REAR: 背面出力端子を選択中
例	ROUTe:TERMinals?
	選択中の出力端子を問い合わせ。 FRONT
	H力端子は前面を選択中。
コマンド	:OUTPut[1 2 3 4]:OVP:STATe
機能	指定チャンネルの OVP 動作の有効無効を選択します。

パラメータ	 0/OFF: OVP 動作を無効にする。 1/ON: OVP 動作を有効にする。
例	:OUTPut2:OVP:STATe ON CH2 の OVP 動作を有効とします。
コマンド	:OUTPut[1 2 3 4]:OVP:STATe?
機能	指定チャンネルの OVP 動作の有効無効を問い合わせます。
例	:OUTPut2:OVP:STATe? CH2 の OVP 動作が、有効/無効を問い合わせ。 OFF
	CH2 の OVP 動作は無効。
コマンド	:OUTPut[1 2 3 4]:OVP:TRIGer?
機能	指定チャンネルに OVP 動作の有無を問い合わせます。
クエリ	0: OVP 発生なし 1: OVP 発生
例	:OUTPut2:OVP:TRIGer? CH2 の OVP 動作の有無を問い合わせ。 1
	CH2 に OVP 動作が発生していた。
コマンド	:OUTPut[1 2 3 4]:OVP <nr2></nr2>
機能	指定チャンネルの OVP の動作レベルを設定します。
パラメータ	<nr2> OVP 值</nr2>
例	:OUTPut2:OVP 10.5 CH2 の OVP 動作レベルを、10.5V に設定します。
注意	3 出力モデル CH3 の OVP 値は、5.5V 固定です。 設定はできません。
コマンド	:OUTPut[1 2 3 4]:OVP?
機能	指定チャンネルの OVP の動作レベルを問い合わせます。
例	:OUTPut2:OVP? CH2 の OVP 動作レベルの問い合わせ。 10.0 CH2 の OVP 動作レベルは 10.0V。

コマンド	:OUTPut[1 2 3 4]:OCP:STATe
機能	指定チャンネルの OCP 動作の有効無効を選択します。
パラメータ	 0/OFF: OCP 動作を無効にします。 1/ON: OCP 動作を有効にします。
例	:OUTPut2:OCP:STATe ON CH2 の OCP 動作を有効にします。
コマンド	:OUTPut[1 2 3 4]:OCP:STATe?
機能	指定チャンネルの OCP 動作の有効/無効を問い合わせます。
例	:OUTPut2:OCP:STATe? CH2 の OCP 動作の有効/無効を問い合わせ。 ON CH2 の OCP 動作は有効。
コマンド	:OUTPut[1 2 3 4]:OCP:TRIGer?
機能	指定チャンネルにOCP動作発生の有無を問い合わせます。
クエリ	0: OCP 発生なし 1: OCP 発生
例	:OUTPut2:OCP:TRIGer? CH2 の OCP 動作の有無を問い合わせ。 1 CH2 に OCP 動作が発生していた。
コマンド	:OUTPut[1 2 3 4]:OCP <nr2></nr2>
機能	指定チャンネルの OCP の動作レベルを設定します。
パラメータ	<nr2> OCP 值</nr2>
例	:OUTPut2:OCP 1.5 CH2 の OCP 動作レベルを 1.5A に設定します。
注意	3 出力モデルの CH3 の OCP 値は、3.1A 固定です。 設定できません。また機能は USB 給電端子側のみです。
コマンド	:OUTPut[1 2 3 4]:OCP?
機能	指定チャンネルの OCP の動作レベルを問い合わせます。

例	:OUTPut2:OCP?	
	CH2 の OCP 動作レベルの問い合わせ。	
	3.00	
	CH2 の OCP 動作レベルは 3.00A。	

	CH2 の OCP 動作レベルは 3.00A。
7.4.4. 電源	原・電子負荷制御コマンド
コマンド	:SOURce[1 2 3 4]:CURRent <nr2></nr2>
機能	指定チャンネルの電流値を設定します。
パラメータ	<nr2> 電流値</nr2>
例	:SOURce2:CURRent 1.0005 CH2 の電流を、1.0005A に設定します。
/! 注意	3 出力モデルの CH3 は、電流設定できません。
コマンド	ISET<1 2 3 4>: <nr2></nr2>
機能	指定チャンネルの電流値を設定します。
パラメータ	1=CH1, 2=CH2, 3=CH3, 4=CH4
	<nr2> 電流値</nr2>
例	ISET1:2.2345 CH1 の出力電流を 2.2345A に設定します。
/! 注意	3 出力モデルの CH3 は、電流設定できません。
コマンド	:SOURce[1 2 3 4]:CURRent?
機能	指定チャンネルの電流設定値を問い合わせます。
例	:SOURce2:CURRent? CH2 の出力電流設定値の問い合わせ。 1.5000 CH2 の出力電流設定値は 1.500A。
コマンド	ISET<1 2 3 4>?
機能	指定チャンネルの電流設定値を問い合わせます。
パラメータ	1=CH1. 2=CH2. 3=CH3. 4=CH4

例	ISET1? CH1 の出力電流設定値の問い合わせ。 1.5000 CH1 の出力電流設定値は 1.500A。
注意	3 出力モデルの CH3 は、電流設定問い合わせはできません。
コマンド	:SOURce[1 2 3 4]:CURRent[:LIMit]:STATe?
機能	指定チャンネルの電流が、設定電流値に達しているかを問い合わせます。指定チャンネルの電流が設定電流値に達している場合、そのチャンネルはCCモードで動作しています。
クエリ	0: 電流設定値に達していません。 1: 電流設定値に達しています。
例	:SOURce2:CURRent:STATe? CH2 が電流制限値に対する状態かの問い合わせ。 1 CH2 が電流制限値で動作中。
備考	出力 OFF 時および電子負荷機能では、パラメータ 0 が返信 されます。
コマンド	:SOURce[1 2 3 4]:VOLTage <nr2></nr2>
機能	指定チャンネルの電圧値を設定します。
パラメータ	<nr2> 電圧値</nr2>
例	:SOURce2:VOLTage 5.321 CH2 の出力電圧を、5.321V に設定します。
注意	3 出力モデルの CH3 の電圧設定は、規定値のみです。
コマンド	VSET<1 2 3 4>: <nr2></nr2>
機能	指定チャンネルの電圧値を設定します。
パラメータ	1=CH1, 2=CH2, 3=CH3, 4=CH4
	<nr2> 電圧値</nr2>
例	VSET1:20.345 CH1 の出力電圧を、20.345V に設定します。

コマンド	:SOURce[1 2 3 4]:VOLTage?		
機能	指定チャンネルの電圧設定値を、問い合わせます。		
例	:SOURce2:VOLTage? CH2 の電圧設定値の問い合わせ。 8.000 CH2 の出力電圧設定値は 8.000V。		
コマンド	VSET<1 2 3 4>?		
機能	指定チャンネルの電圧設定値を、問い合わせます。		
パラメータ	1=CH1, 2=CH2, 3=CH3, 4=CH4		
例	VSET2? CH2 の電圧設定値の問い合わせ。 08.000 CH2 の出力電圧設定値は 8.000V。		
コマンド	:SOURce[1 2]:RESistor <nr2></nr2>		
機能	電子負荷機能 CR モードで、指定チャンネルの抵抗値を設定 します。		
パラメータ	<nr2> 抵抗值</nr2>		
例	:SOURce2: RESistor 1000 CH2 の抵抗値を、1000Ωに設定します。		
コマンド	:SOURce[1 2]:RESistor?		
機能	電子負荷機能 CR モードで指定チャンネルの抵抗設定値を 問い合わせます。		
例	:SOURce2: RESistor? CH2 の CR モード抵抗設定値の問い合わせ。 1000 CH2 の CR モード抵抗設定値は 1000 Ω。		
コマンド	:SOURce:CURRent:ALL?		
機能	全てのチャンネルの電流設定値を問い合わせます。		

例	:SOURce:CURRent:ALL? 全てのチャンネルの電流設定値を問い合わせ。 1.5000,1.0000 電流設定値は、CH1: 1.5000A、CH2: 1.0000A。
コマンド	:SOURce:VOLTage:ALL?
機能	全てのチャンネルの電圧設定値を問い合わせます。
例	:SOURce:VOLTage:ALL? 全てのチャンネルの電圧設定値を問い合わせ。 8.000,1.200 電圧設定値は、CH1: 8.000V、CH2: 1.200V。
コマンド	TRACK<0 1 2>
機能	電源機能の動作モードを設定します。
パラメータ	0: 独立出力モード1: 直列トラッキングモード2: 並列トラッキングモード
例	TRACK0 独立出力モードに設定します。
/! 注意	1 出力モデルと電子負荷機能では、このコマンドは動作しま せん。
コマンド	:OUTPut:SERies {ON OFF}[,FAST]
機能	CH1 と CH2 を直列トラッキングモードに設定をします。
	FAST オプションは端子に 1V 以上の電圧がかかっていても強制的にモードの切替えを可能とします。 端子電圧によっては、本器内部回路がダメージを受けます のでご注意ください。
例	:OUTPut:SERies ON CH1 と CH2 を直列トラッキングモードに設定します。
注意	1 出力モデルと電子負荷機能では、このコマンドは動作しません。

コマンド	:OUTPut:PARallel {ON OFF}[,FAST]
機能	CH1 と CH2 を並列トラッキングモードに設定をします。
	FAST オプションは端子に 1V 以上の電圧がかかっていても強制的にモードの切替えを可能とします。 端子電圧によっては内部回路がダメージを受けますのでご注意ください。
例	:OUTPut:PARallel ON CH1 と CH2 を並列トラッキングモードに設定します。
注意	1 出力モデルと電子負荷機能では、このコマンドは動作しません。
コマンド	:LOAD[1 2]:CV {ON OFF}[,FAST]
機能	パラメータ"ON"で、指定チャンネルを電子負荷機能 CV モードにします。 パラメータ"OFF"でコマンドを実行した場合、電子負荷機能から電源機能に戻ります。
	FAST オプションは端子に 1V 以上の電圧がかかっていても強制的にモードの切替えを可能とします。 端子電圧によっては内部回路がダメージを受けますのでご注意ください。
例	:LOAD2:CV ON CH2 を電子負荷機能 CV モードに設定します。 :LOAD2:CV OFF CH2 を電源機能に設定します。
コマンド	:LOAD[1 2]:CC {ON OFF}[,FAST]
機能	パラメータ"ON"で、指定チャンネルを電子負荷機能CCモードにします。 パラメータ"OFF"でコマンドを実行した場合、電子負荷機能から電源機能に戻ります。
	FAST オプションは端子に 1V 以上の電圧がかかっていても強制的にモードの切替えを可能とします。 端子電圧によっては内部回路がダメージを受けますのでご注意ください。

例	:LOAD2:CC ON CH2 を電子負荷機能 CC モードに設定します。 :LOAD2:CC OFF CH2 を電源機能に設定します。		
コマンド	:LOAD[1 2]:CR {ON OFF}		
機能	パラメータ"ON"で、指定チャンネルを電子負荷機能CRモードにします。 パラメータ O"FF"でコマンドを実行した場合、電子負荷機能から電源機能に戻ります。		
例	:LOAD2:CR ON CH2 を電子負荷機能 CR モードに設定します。 :LOAD2:CR OFF CH2 を電源機能に設定します。		
コマンド	:MODE[1 2]?		
機能	指定チャンネルの動作モードを問い合わせます。		
クエリ	SER: 電源機能直列トラッキングモード PAR: 電源機能並列トラッキングモード IND: 電源機能独立出力モード CV: 電子負荷機能 CV モード CC: 電子負荷機能 CC モード CR: 電子負荷機能 CR モード		
例	:MODE1? CH1 の動作モードの問い合わせ。 IND CH1 の動作モードは、電源機能独立出力モード。		
コマンド	:LOAD[1 2]:RESistor <nr2></nr2>		
機能	電子負荷機能CRモードで、指定チャンネルの抵抗値を設定します。		
パラメータ	<nr2> 抵抗值</nr2>		
例	:LOAD2:RESistor 100 CH2の電子負荷機能 CR モードの抵抗値を、100Ωに設定し ます。		

コマンド	:LOAD[1 2]:RESistor?
機能	電子負荷機能CRモードで、指定チャンネルの設定抵抗値を 問い合わせます。
例	:LOAD2:RESistor? CH2 の CR モードの設定抵抗値を問い合わせ。 2 CH2 の CR モード設定抵抗値は、2Ω。
コマンド	:LOAD:DISPlay {Low Middle High}
機能	電子負荷機能で、表示できる最小電圧値を設定します。 デフォルト値は High になっています。この値を下回ると、電 圧表示が、""と表示されます。
パラメータ	Low: 0.5V, Middle: 0.75V, High:1V
例	:LOAD:DISPlay Low 電子負荷機能の最低表示電圧を 0.5V にします。
コマンド	:LOAD:DISPlay?
機能	電子負荷機能の最低表示電圧設定を問い合せます。
例	:LOAD:DISPlay? 電子負荷機能の最低表示電圧設定の問い合わせ。 Middle 電子負荷機能の最低表示電圧設定は、0.75V。

7.4.5. ディレイ機能コマンド

コマンド	:DELAy[1 2]:CYCLEs {N I}[, <nr1>]</nr1>	
機能	指定チャンネルのディレイ機能の繰返し回数を設定します。	
パラメータ	I: 無限ループ設定, N: 繰返し回数に設定	
	<nr1> 繰返し回数: 1~99999</nr1>	
例	:DELAy2:CYCLEs N,100	
	CH2 のディレイ機能の繰返し回数を、100 回に設定します。	
コマンド	:DELAy[1 2]:CYCLEs?	
機能	指定チャンネルのディレイ機能の繰返し回数を問い合わせ ます。	

パラメータ	I: 無限ループ N, <nr1>: 繰返し回数</nr1>
例	:DELAy2:CYCLEs? CH2 のディレイ機能の繰返し回数の問い合わせ。
	N,10 CH2 のディレイ機能の繰返し回数は、10 回。
コマンド	:DELAy[1 2]:ENDState {ON OFF LAST}
機能	指定チャンネルのディレイ機能動作終了時の動作状態を設 定します。
パラメータ	ON: 出力 ON 状態にします。 OFF: 出力 OFF 状態にします。 LAST: 最後の Step の出力状態になります。
例	:DELAy2:ENDState OFF CH2 ディレイ機能動作終了時の動作状態を、出力 OFF にし ます。
コマンド	:DELAy[1 2]:ENDState?
機能	指定チャンネルのディレイ機能動作終了時の動作状態設定 を、問い合わせます。
例	:DELAy2: ENDState? CH2 ディレイ機能動作終了時の動作状態設定を問い合わせ。 LAST CH2 ディレイ機能動作終了時動作状態は、LAST。
コマンド	:DELAy[1 2]:GROUPs <nr1></nr1>
機能	指定チャンネルのディレイ機能の実行 Step 数を設定します。
パラメータ	<nr1> Step 数: 1 - 2048</nr1>
例	:DELAy2:GROUPs 100 CH2 ディレイ機能の実行 Step 数を、100 に設定します。
コマンド	:DELAy[1 2]:GROUPs?
機能	指定チャンネルのディレイ機能の実行 Step 数を問い合わせます。

例	:DELAy2:GROUPs? CH2 のディレイ機能の実行 Step 数を問い合わせ。 10		
	CH2 のディ	レイ機能の実行 Step 数は、10。	
コマンド	:DELAy[1 2	P]:PARAmeter <no>,{ON OFF},<time></time></no>	
機能		指定チャンネルのディレイ機能の指定した Step の動作パラ メータを設定します。	
パラメータ	<no></no>	設定する Step 番号を指定します。 設定範囲は、0~2047	
	{ON OFF}	指定した Step の出力 ON/OFF を設定します。	
	<time></time>	指定した Step の継続時間を設定します。 設定範囲は、1s~300s	
例	:DELAy2:PARAmeter 1,ON,10 CH2 について、ディレイ機能の Step1 を、出力 ON、継続時間 10 秒に設定します。		
コマンド	:DELAy[1 2	2]:PARAmeter? <no>[,<count>]</count></no>	
機能		指定チャンネルのディレイ機能の指定した Step の設定内容を問い合わせます。	
パラメータ	<no></no>	0~2047 設定内容を問い合わせる Step 番号を設定しま す。	
	[<count>]</count>	1~2048 上記 <no>で指定する Step 番号から、いくつ分 の Step について問い合わせるかを設定しま す。</no>	
返信内容		から始まる以下の様なブロックデータとなります。 1241,OFF,2;2,ON,2;3,OFF,2;	
	ています。9 指定した St ます。文字 文字として記	9"は、返信内容の文字数の桁数が 9 桁を意味し 桁の"000000024"は、黒文字のディレイ機能の ep の設定内容が 24 文字である事を意味してい 数には","や";"も含まれ、表示さえないデリミタも 1 含まれています。 ディレイ機能の指定した Step の設定内容です。	

	各 Step の設定内容は";"にて区切られています。 各 Step の設定内容は"Step No.,OUTPUT ON/OFF,Step 継続時間"で、","で区切られています。 "1,OFF,2"は、Step No.1 は OUTPUT OFF で継続時間 2 秒になります。	
例	:DELAy2:PARAmeter? 1,3 CH2 について、Step No.1 から Step No.3 のパラメータの問い合わせ。 #90000000241,OFF,2;2,ON,2;3,OFF,2; CH2 ディレイ機能の設定内容を返信。 Step No.1: OUTPUT OFF, 継続時間 2 秒 Step No.2: OUTPUT ON, 継続時間 2 秒 Step No.3: OUTPUT OFF, 継続時間 2 秒	
コマンド	:DELAy[1 2]:RESTart	
機能	指定チャンネルのディレイ機能を、初めから再スタートさせます。	
例	:DELAy2:RESTart CH2 のディレイ機能を、初めから再スタートさせます。	
コマンド	:DELAy[1 2]:STARt <nr1></nr1>	
機能	指定チャンネルのディレイ機能の開始 Step 番号を設定します。	
パラメータ	<nr1> 1~2047</nr1>	
例	:DELAy2:STARt 10 CH2 について、ディレイ機能開始を Step 10 に設定をします。	
コマンド	:DELAy[1 2]:STARt?	
機能	指定チャンネルのディレイ機能開始 Step 番号を問い合わせます。	
例	:DELAy2:STARt? CH2 について、ディレイ機能開始 Step 番号の問い合わせ。 1	
	ディレイ機能開始 Step 番号は 1。	
コマンド	:DELAy[1 2][:STATe] {ON OFF}	
機能	指定チャンネルのディレイ機能 ON/OFF 設定します。	

パラメータ	ON	ディレイ機能を開始します。	
	OFF	ディレイ機能 ON 中から、ディレイ動作を OFF します。	
例	:DELAy2 ON CH2 について、ディレイ機能を開始します。		
コマンド	:DELA	:DELAy[1 2][:STATe]?	
機能	指定チャンネルのディレイ機能の動作状態を問い合わせま す。		
例	:DELAy2:STATe? CH2 について、ディレイ機能動作状態の問い合わせ。 ON CH2 について、ディレイ機能動作状態は ON。		
コマンド	:DELA	y[1 2]:STATe:GENErate {01P 10P}	
機能	指定チャンネルのディレイ機能の出力状態設定について、 Step ごとに ON/OFF を繰り返す形の設定を、自動的に設定 します。自動設定されるのは、"Start"と"Groups"で指定され る範囲内の Step です。		
パラメータ	01P	"OFF, ON, OFF, ON,"を繰り返す設定をします。	
	10P	"ON, OFF, ON, OFF,"を繰り返す設定をします。	
例	:DELAy2:STATe:GENE 01P CH2 のディレイ機能について、Step ごとの出力設定を、01F 仕様で設定します。		
コマンド	:DELA	.y[1 2]:STATe:GENErate?	
機能	指定チャンネルのディレイ機能の出力状態設定について、 01P または 10P で設定されているかを問い合わせます。		
例	:DELAy2:STATe:GENE? CH2 の出力状態設定状態の問い合わせ。 01P CH2 の出力状態設定状態は、01P。		
コマンド		.y[1 2]:STOP NE <v >V =V <c >C =C <p >P =P}[,<nr2>]</nr2></p ></c ></v >	
機能		ヤンネルのディレイ機能停止条件を設定します。	

パラメータ	NONE 電圧・電流・電力による停止条件は設けず、設定された通りに動作します。 停止条件を、以下のいずれかに設定します。 <v: 設定電圧値より小さくなった場合<br="">>V: 設定電圧値よりも大きくなった場合 =V: 設定電圧値と等しくなった場合 <c: 設定電流値よりも小さくなった場合<br="">>C: 設定電流値よりも大きくなった場合 =C: 設定電流値と等しくなった場合 =P: 設定電力値よりも小さくなった場合 >P: 設定電力値よりも大きくなった場合 >P: 設定電力値よりも大きくなった場合 >P: 設定電力値よりも大きくなった場合 >R2> 停止条件となる、電圧、電流、電力の値を設定します。設定範囲は、設定するチャンネルの 0~最</c:></v:>	
例	大値です。 :DELAy2:STOP >V,8 CH2 について、ディレイ機能の停止条件を、"8V より大きくなった場合"に設定します。	
コマンド	:DELAy[1 2]:STOP?	
機能	指定チャンネルのディレイ機能の停止条件を問い合わせま す。	
例	:DELAy2:STOP? CH2 のディレイ機能停止条件の問い合わせ。 <v,10.000 ディレイ機能停止条件は、出力電圧が 10V 以下。</v,10.000 	
コマンド	:DELAy:SYNChronize {ON OFF}	
機能	CH1 と CH2 の両チャンネルがディレイ機能 ON となっている場合、両方のチャンネルの同期を取った状態で、最初から再スタートします。	
パラメータ	ON 同期ディレイ機能開始 LCD に"Sync"文字を表示 OFF 同期ディレイ機能終了	

例	:DELAy:SYNChronize ON CH1 と CH2 のディレイ動作の同期を取って再スタートさせご す。	ま
コマンド	:DELAy[1 2]:TIME :GENErate {FIX INC DEC}[, <value0>[,<value1>]]</value1></value0>	
機能	指定チャンネルのディレイ機能の設定において、各 Step の継続時間を、入力する条件に従って自動設定します。 自動設定されるのは、Start と Groups 設定で指定される範囲内のすべての Step です。 このコマンドによる設定内容は、56 ページの"ディレイ機能の Step 編集方法"手順8をご覧ください。	į
パラメータ	FIX, FIX 設定では、指定範囲に対して一定の ON <pre> <value0>, 時間、OFF 時間を設定します。 <value1> <value0>は出力 ON 設定の Step に対しての継続時間、<value1>は出力 OFF 設定の Step に対しての継続時間となります。 <value0>, <value1>の設定範囲は、1~300 秒です。</value1></value0></value1></value0></value1></value0></pre>	か
	INC, spec では、指定範囲の最初の Step の名 <value0>,</value0>	
	DEC, <pre>value0>, </pre> <pre>value1></pre> <pre>Step ごとに、<pre>value1>の値が減算された時間が設定されます。</pre> <pre>初めの Step: <value0></value0></pre> <pre>2 番目の Step: <value0> - <value1></value1></value0></pre> <pre>3 番目の Step: <value0> - 2x</value0></pre> <pre>value1></pre></pre>	
例	:DELAy2:TIME:GENE INC,3,5 CH2 について、ディレイ動作の各 Step の継続時間を、指定 範囲の最初の Step については 3 秒に設定し、以降は Step ごとに 5 秒ずつ加算した時間に設定します。	

コマンド	:DELAy[1 2]:TIME:GENErate?		
機能	指定チャンネルの":DELAy[1 2]:TIME:GENErate"コマンドで 設定された内容を問い合わせます。		
例	:DELAy2:TIME:GENE? CH2 で":DELAy2:TIME:GENErate"コマンドで設定された 内容の問い合わせ。 FIX,1,2 CH2 の設定された内容は、"FIX,1,2"。		
コマンド	:DELAy:MEMory:SAVE {0 1 2 3 4 5 6 7 8 9}		
機能	全チャンネルのディレイ機能設定を、内部メモリの指定番号 に保存します。		
パラメータ	{0 1 2 3 4 5 6 7 8 9} 内部メモリの指定番号		
例	:DELAy2:MEMory:SAVE 1 CH2 のディレイ機能設定を、内部メモリ 1(DELAY01)に保存 します。		
注意	全チャンネルのディレイ機能設定保存先を、同じ内部メモリ 番号に指定して下さい。		
コマンド	:DELAy:MEMory:LOAD {0 1 2 3 4 5 6 7 8 9}		
機能	全チャンネルのディレイ機能設定を、内部メモリの指定番号 から呼び出します。		
パラメータ	{0 1 2 3 4 5 6 7 8 9} 内部メモリの指定番号		
例	:DELAy2:MEMory:SAVE 1 CH2 のディレイ機能設定を、内部メモリ 1(DELAY01)から呼 び出します。		
コマンド	:DELAy[1 2]:USB:SAVE <dest></dest>		
機能	指定チャンネルのディレイ機能設定を、USB メモリ内の指定したファイルに保存します。		
パラメータ	<dest> USB:\name.拡張子 name: 8 文字以下の英数字 拡張子: CSV または DLY</dest>		

	保存されるファイルが"CSV"形式の場合、チャンネルを指定します。ファイルには、指定チャンネルの設定が保存されます。 保存されるファイルが"DLY"形式の場合、チャンネルを指定する必要がありません。ファイルには、全チャンネルの設定が保存されます。	
例	:DELAy2:USB:SAVE USB:\R001.CSV CH2 のディレイ動作の設定を、USB メモリの"R001.CSV"に 保存します。 外部 USB メモリに"R001.CSV"ファイルが無い場合、" R001.CSV"ファイルが作られます。	
注意	USB メモリのフォルダ内に在るファイルには、このコマンドによる操作はできません。 ディレイ動作中には、設定の保存はできません。	
コマンド	:DELAy[1 2]:USB:LOAD <dest></dest>	
機能	ディレイ動作の設定を、USBメモリ内の指定したファイルから 呼び出します。	
パラメータ	<dest> USB:∖name.拡張子 name: 8 文字以下の英数字 拡張子: CSV または DLY</dest>	
	設定を呼び出すファイルが"CSV"形式の場合、チャンネルを指定します。ファイルから呼び出された設定が、指定チャンネルの設定になります。 設定を呼び出すファイルが"DLY"形式の場合、チャンネルを指定する必要がありません。ファイルから呼び出された設定が、全チャンネルの設定になります。	
例	:DELAy2:USB:LOAD USB:\R001.CSV CH2 のディレイ機能設定として、USB メモリ内 の"R001.CSV"を呼び出します。	
注意	USB メモリのフォルダ内に在るファイルには、このコマンドに よる操作はできません。	

7.4.6. モニタ機能コマンド

7.4.0. L—	アルズルコマンド	
コマンド	:MONItor[1 2 3 4]:CURRent :CONDition { <c >C =C NONE},{AND OR NONE}</c >	
機能	指定チャンネルの出力電流監視機能について、監視条件を 設定します。	
パラメータ	監視条件を、以下から選択します。 <c: 設定電流よりも小さい。="">C: 設定電流よりも大きい。 =C: 設定電流と等しい。 NONE: 電流条件を無効にする。 追加監視条件を、以下から選択します。 AND, OR, NONE NONE 設定では、論理演算の変更はしません。</c:>	
例	:MONItor2:CURRent:CONDition <c,and and="" ch2="" td="" で判定する"に設定します。<="" の出力電流監視機能について監視条件を、"設定電流よりも小さい"と"出力電力の監視条件と=""></c,and>	
コマンド	:MONItor[1 2 3 4]:CURRent:CONDition?	
機能	指定チャンネルの出力電流監視機能について、監視条件を 問い合わせます。	
例	:MONItor2:CURRent:CONDition? CH2の出力電流監視機能について、監視条件の問い合わせ。 <c,and 出力電流監視機能の監視条件は"設定電流値より出力電流値が小さい"と"出力電流監視機能と出力電力監視機能はANDの関係にある"。</c,and 	
コマンド	:MONItor[1 2 3 4] :CURRent[:VALue] { <nr2> MINimum MAXimum}</nr2>	
機能	指定チャンネルの出力電流監視機能について、監視条件と なる電流値を設定します。	
パラメータ	<nr2> 0A~設定チャンネルの最大値</nr2>	
	MINimum チャンネルの最小値	
	MAXimum チャンネルの最大値	

例	:MONItor2:CURRent 2 CH2 の出力電流監視機能について、監視条件を 2A に設定 します。	
コマンド	:MONItor[1 2 3 4]:CURRent[:VALue]?	
機能	指定チャンネルの出力電流監視機能について、監視条件値 を問い合わせます。	
例	:MONItor2:CURRent? CH2 の出力電流監視機能について、監視条件値を問い合わせ。 1.5000 CH2 出力電流監視機能の監視条件値は、1.5A。	
コマンド	:MONItor[1 2 3 4]:POWER:CONDition { <p >P =P NONE}</p >	
機能	指定チャンネルの出力電力監視機能について、監視条件を 設定します。	
パラメータ	監視条件を、以下から選択します。 <p: 設定電力よりも小さい。<br="">>P: 設定電力よりも大きい。 =P: 設定電力と等しい。 NONE: 電力条件を無効にする。</p:>	
例	:MONItor2:POWER:CONDition <p CH2 の出力電力監視機能について、監視条件を"設定電力 よりも小さい"に設定します。</p 	
コマンド	:MONItor[1 2 3 4]:POWER:CONDition?	
機能	指定チャンネルの出力電力監視機能について、監視条件を 問い合わせます。	
例	:MONItor2:POWER:COND? CH2 の出力電力監視機能について、監視条件の問い合わせ。 >P 出力電力監視機能の監視条件は、"設定電力値より出力電力値が大きい"。	

コマンド	:MONItor[1 2 3 4] :POWER[:VALue] { <nr2> MINimum MAXimum}</nr2>	
機能	指定チャンネルの出力電力監視機能について、監視条件値 を設定します。	
パラメータ	<nr2> 0W~設定チャンネルの最大値</nr2>	
	MINimum チャンネルの最小値	
	MAXimum チャンネルの最大値	
例	:MONItor2:POWER 20 CH2 の出力電力監視機能について、監視条件値を 20W に 設定します。	
コマンド	:MONItor[1 2 3 4]:POWER[:VALue]?	
機能	指定チャンネルの出力電力監視機能について、監視条件となる電力値を問い合わせます。	
例	:MONItor2:POWER? CH2 出力電力監視機能について、監視条件値の問い合わせ。 55.00 CH2 出力電力監視機能の監視条件値は、55W。	
コマンド	:MONItor[1 2 3 4][:STATe] {ON OFF}	
機能	指定チャンネルの出力監視機能の有効/無効を切替えます。	
パラメータ	ON: 機能有効, OFF: 機能無効	
例	:MONItor2 ON CH2 の出力監視機能を有効にします。	
コマンド	:MONItor[1 2 3 4][:STATe]?	
機能	指定チャンネルの出力監視機能の有効/無効を問い合わせます。	
例	:MONItor2? CH2 出力監視機能の有効/無効を問い合わせ。 ON CH2 出力監視機能は有効。	

コマンド	:MONItor[1 2 3 4] :STOPway {OUTOFF ALARM BEEPER},{ON OFF}
機能	指定チャンネルの出力監視機能について、監視条件を満たした際に発生させる動作を設定します。複数の動作を設定する場合には、OUTOFF、ALARM、BEEPER の各動作についてコマンドを設定してください。
パラメータ	OUTOFF ON 設定とした場合、監視条件を満たすと出力 OFF します。
	ALARM ON 設定とした場合、監視条件を満たすと LCD に警告メッセージを表示します。
	BEEPER ON 設定とした場合、監視条件を満たすと、ブザー音を発生します。
例	:MONItor2:STOPway ALARM,ON CH2 の出力監視機能について、監視条件を満たした場合に は、LCD に警告メッセージを表示させます。
コマンド	:MONItor[1 2 3 4]:STOPway?
機能	指定チャンネルの出力監視機能について、監視条件を満た した際に発生する動作を問い合わせます。
例	:MONItor2:STOPway? CH2 の出力監視機能について、動作の問い合わせ。 OutputOff:ON, Alarm:OFF, Beep:OFF CH2 出力監視機能の動作は、"OUTOFF"。
コマンド	:MONItor[1 2 3 4]:VOLTage :CONDition { <v >V =V NONE},{AND OR NONE}</v >
機能	指定チャンネルの出力電圧監視機能について、監視条件を 設定します。
パラメータ	監視条件を、以下から選択します。 <v: 設定電圧よりも小さい。="">V: 設定電圧よりも大きい。 =V: 設定電圧と等しい。 NONE: 電圧条件を無効にする。 追加監視条件を、以下から選択します。 AND, OR, NONE NONE 設定では、論理演算の変更はしません。</v:>

例	:MONItor2:VOLTage:CONDition <v,and CH2 の出力電圧監視機能について、監視条件を"設定電圧 よりも小さい"と"出力電流の監視条件と AND で判定する"に 設定します。</v,and 	
コマンド	:MONItor[1 2 3 4]:VOLTage:CONDition?	
機能	指定チャンネルの出力電圧監視機能について、監視条件を 問い合わせます。	
例	:MONItor2:VOLTage:CONDition? CH2 の出力電圧監視機能について、監視条件の問い合わせ。 <v,or 出力電圧監視機能の監視条件は、"設定電圧より出力電圧が小さい"と"出力電圧監視機能と出力電流または電力監視機能と出力電流または電力監視機能とは OR の関係にある"。</v,or 	
コマンド	:MONItor[1 2 3 4] :VOLTage[:VALue] { <nr2> MINimum MAXimum}</nr2>	
機能	指定チャンネルの出力電圧監視機能について、監視条件となる電圧値を設定します。	
パラメータ	<nr2> 0V~設定チャンネルの最大値</nr2>	
	MINimum チャンネルの最小値	
	MAXimum チャンネルの最大値	
例	:MONItor2:VOLTage 5 CH2 の出力電圧監視機能について、監視条件値を 5V に設 定します。	
コマンド	:MONItor[1 2 3 4]:VOLTage[:VALue]?	
機能	指定チャンネルの出力電圧監視機能について、監視条件値 を問い合わせます。	
例	:MONItor2:VOLTage? CH2 の出力電圧監視機能について、監視条件値の問い合わせ。 10.100 CH2 出力電力監視機能の監視条件値は、10.1V。	

7.4.7. 外部 I/O 機能コマンド

コマンド	:TRIGger:	IN[:ENABle] {D0 D1 D2 D3 D4},{ON OFF}	
機能		指定したデータラインに対して、トリガ入力機能の有効/無効 を設定します。	
例		:TRIGger:IN D0,ON データライン D0 に対して、トリガ入力機能を有効にします。	
コマンド	:TRIGger:	:TRIGger:IN[:ENABle]? {D0 D1 D2 D3 D4}	
機能		指定したデータラインに対して、トリガ入力機能の有効/無効 を問い合わせます。	
例	い合わせ。 ON	IN? D0 ン D0 に対して、トリガ入力機能の有効/無効を問 ン D0 のトリガ入力機能は、有効。	
コマンド		IN:RESPonse {D0 D1 D2 D3 D4}, TOGGLE POWER CV CC CR IND SER PAR}	
機能	指定したデ ます。	ータラインにトリガ入力された際の応答を設定し	
パラメータ	ON	出力 ON 設定 指定したデータラインにトリガ信号が入力される と、選択されたチャンネルの出力が ON します。	
	OFF	出力 OFF 設定 指定したデータラインにトリガ信号が入力される と、選択されたチャンネルの出力が OFF します。	
	TOGGLE	出力 ON/OFF の状態が反転 指定したデータラインにトリガ信号が入力される と、選択されたチャンネルの出力状態が反転(出 カ ON ならば出力 OFF に変化、出力 OFF なら ば出力 ON に変化)します。	
	POWER	電源モードへの切替え 指定されたデータラインにトリガ信号が入力され ると、制御しているチャンネルが電源モードに切 替わります。	

	CV	電子負荷モード CV モードへの切替え 指定されたデータラインにトリガ信号が入力され ると、制御しているチャンネルが、電子負荷モー ドの CV 動作に切替わります。
	CC	電子負荷モード CC モードへの切替え 指定されたデータラインにトリガ信号が入力され ると、制御しているチャンネルが、電子負荷モー ドの CC 動作に切替わります。
	CR	電子負荷モード CR モードへの切替え 指定されたデータラインにトリガ信号が入力され ると、制御しているチャンネルが、電子負荷モー ドの CR 動作に切替わります。
	IND	独立動作モードへの切替え 指定されたデータラインにトリガ信号が入力される と、CH1, CH2 は電源モードの独立動作に切替わ ります。
	SER	直列トラッキングモードへの切替え 指定されたデータラインにトリガ信号が入力されると、CH1, CH2 は直列トラッキング動作に切替わります。
	PER	並列トラッキングモードへの切替え 指定されたデータラインにトリガ信号が入力されると、CH1, CH2 は並列トラッキング動作に切替わります。
!注意	IND/SER/PAR のパラメータを設定する場合、"Controled Source:"の CH1 と CH2 が共に選択され、両 CH 共に電源モード設定されている必要があります。	
例	:TRIGger:IN:RESPonse D0,ON データライン D0 にトリガ信号が入力された場合、選択チャン ネルを出力 ON に設定します。	
コマンド	:TRIGger:	:IN:RESPonse? {D0 D1 D2 D3 D4}
機能		ーータラインについて、トリガ入力された場合の動 合わせます。

例	:TRIGger:IN:RESPonse? D0 データライン D0 について、トリガ入力された場合の動作を問い合わせ。 POWER D0 へのトリガ入力にて、選択されているチャンネルは電源モード動作。		
コマンド	:TRIGger:IN :SENSitivity {D0 D1 D2 D3 D4},{LOW MID HIGH}		
機能	指定したデータラインについて、トリガ入力の感度を設定します。入力動作の設定がされていない場合はコマンドを受け付けません。		
パラメータ	LOW トリガ入力感度を低くすることで、ノイズの多い環MID 境での誤動作を抑えることができます。 HIGH		
例	:TRIGger:IN:SENSitivity D0,LOW データライン D0 のトリガ入力感度を"LOW"に設定します。		
コマンド	:TRIGger:IN:SENSitivity? {D0 D1 D2 D3 D4}		
機能	指定したデータラインについて、トリガ入力の感度を問い合わせます。		
例	:TRIGger:IN:SENSitivity? D0 データライン D0 について、トリガ入力感度を問い合わせ。 MID トリガ入力感度の設定は、MID。		
コマンド	:TRIGger:IN:SOURce {D0 D1 D2 D3 D4}, {CH1 CH2 CH3 CH4},{ON OFF}		
機能	指定したデータラインに対するトリガ入力によって動作させる チャンネルを設定します。同じデータラインに複数のチャンネ ルをしてすることができます。		
	動作内容は:TRIGger:IN:RESPonse で指定します。		
パラメータ	CH1, CH2, CH3, CH4 全てのチャンネルを制御すること ができます。		
例	:TRIGger:IN:SOURce D0,CH1,ON データライン D0 にトリガ入力された場合、CH1 が動作するように設定します。		

コマンド	:TRIGger:IN:SOURce? {D0 D1 D2 D3 D4}
機能	指定したデータラインにトリガ信号が入力された場合に、動 作するチャンネルを問い合わせます。
例	:TRIGger:IN:SOURce? D0 データライン D0 にトリガ入力された場合、動作するチャンネルを問い合わせ。 CH1,CH2 データライン D0 にトリガ入力された場合、動作するチャンネルは、CH1 と CH2。
コマンド	:TRIGger:IN:TYPE {D0 D1 D2 D3 D4}, {RISE FALL HIGH LOW STATE}
機能	指定したデータラインに対して、トリガ入力の種類を設定します。
パラメータ	RISE 立ち上がりエッジ
	FALL 立下りエッジ
	HIGH High レベル信号
	LOW LOW レベル信号
	STATE 立ち上がり、立下りの両エッジ
例	:TRIGger:IN:TYPE D0,RISE データライン D0 について、入力トリガの RISE(立ち上がりエッジ)に設定します。
注意	このコマンドで"STATE"を設定すると、Response は"Output Off"に設定されます。
コマンド	:TRIGger:IN:TYPE? {D0 D1 D2 D3 D4}
機能	指定したデータラインについて、入力トリガの種類を問い合わせます。
例	:TRIGger:IN:TYPE? D0 データライン D0 について、入カトリガタイプを問い合わせ。 RISE データライン D0 の入カトリガタイプは、RISE。
コマンド	:TRIGger:OUT :CONDition {D0 D1 D2 D3 D4}, {OUTOFF OUTON >V <v =v >C <c =c >P <p =p auto},<nr2></p =p auto},<nr2></c =c </v =v >

機能	指定したデータラインについて、トリガ出力する条件を設定し ます。		
パラメータ	入力トリガ:指定チャンネルが、以下の条件でトリガ出力します。 OUTOFF: 出力 OFF した場合 OUTON: 出力 ON した場合 電圧トリガ: 指定チャンネルが、以下の条件でトリガ出力します。 >V: 出力電圧が基準値より大きい。 <v: 出力電圧と基準値が等しい。="" 指定チャンネルが、以下の条件でトリガ出力します。="" 電流トリガ:="">C: 出力電流が基準値より大きい。 <c: td="" 出力電流が基準値よりかさい。="C:" 出力電流と基準値が等しい。<=""></c:></v:>		
	相定アヤフホルが、以下の米件で下が出力しより。 >P: 出力電力が基準値より大きい。 <p: 出力電力が基準値より小さい。<br="">=P: 出力電力と基準値が等しい。</p:>		
	AUTO: 自動トリガ 予め設定した電圧、電流または電力トリガのいずれかが条 件を満たした場合、トリガ出力します。		
	<nr2> 電圧トリガ、電流トリガ、電力トリガのいずれかを 設定する場合、トリガ動作の判定基準となる電 圧値、電流値、電力値を入力する必要がありま す。 OUTOFF, OUTON, AUTOを選択する場合、トリ ガ動作の判定基準値を省略します。</nr2>		
例	:TRIGger:OUT:CONDition D0,>V,10 データライン D0 のトリガ出力条件を、"出力電圧が 10V を超 えた場合"に設定します。		
コマンド	:TRIGger:OUT:CONDition? {D0 D1 D2 D3 D4}		

わせます。

機能

指定したデータラインに対して、トリガ出力の条件を問い合

例	:TRIGger:OUT:CONDition? D0 データライン D0 に対して、トリガ出力条件の問い合わせ。 >P,50.00		
	トリガ出力条件は、出力電力が 50W より大きい。		
コマンド	:TRIGger:OUT[:ENABle] {D0 D1 D2 D3 D4},{ON OFF}		
機能	指定したデータラインに対して、トリガ出力機能の有効/無効を設定します。 トリガ出力機能を有効にすると、指定チャンネルがトリガ条件 を満たすと、指定されたデータラインからレベル信号が設定 に従って出力します。		
例	:TRIGger:OUT D0,ON データライン D0 について、トリガ出カ機能を有効にします。		
コマンド	:TRIGger:OUT[:ENABle]? {D0 D1 D2 D3 D4}		
機能	指定したデータラインに対して、トリガ出力機能が有効か、無 効かを問い合わせます。		
例	:TRIGger:OUT? D0 データライン D0 に対して、トリガ出力機能の有効/無効を問い合わせ。 OFF トリガ出力機能は、無効。		
コマンド	:TRIGger:OUT :POLArity {D0 D1 D2 D3 D4},POSItive NEGAtive}		
機能	指定したデータラインに対して、トリガ出力信号の極性を設 定します。		
パラメータ	POSITIVE 正極性出力: トリガ出力条件に合致すると、トリガ出力信号 を出力します。		
	NEGATIVE 負極性出力: トリガ出力条件に合致すると、トリガ出力信号 (反転状態の信号)を出力します。		
例	:TRIGger:OUT:POLArity D0,POSItive データライン D0 について、トリガ出力信号の極性を正極性 (POSitive)に設定します。		

コマンド	:TRIGger:OUT:POLArity? {D0 D1 D2 D3 D4}		
機能	指定したデータラインに対して、トリガ出力信号の極性を問い合わせます。		
例	:TRIGger:OUT:POLArity? D0 データライン D0 に対して、トリガ出力信号極性を問い合わ せ。 NEGATIVE トリガ出力信号極性は、負極性出力。		
コマンド	:TRIGger:OUT :SOURce {D0 D1 D2 D3 D4},{CH1 CH2 CH3 CH4}		
機能	指定したデータラインのトリガ出力機能について、どのチャン ネルと関連付けさせるかを設定します。		
パラメータ	CH1, CH2, CH3, CH4 全チャンネルの何れか一つのチャンネルが設定できます。 3 出力モデルの CH3 は、設定できません。		
例	:TRIGger:OUT:SOURce D0,CH1 データライン D0 のトリガ出力機能を、CH1 と関連付けさせます。		
コマンド	:TRIGger:OUT:SOURce? {D0 D1 D2 D3 D4}		
機能	指定したデータラインについて、トリガ出力機能がどのチャン ネルと関連付けされているかを問い合わせます。		
例	:TRIGger:OUT:SOURce? D0 データライン D0 について、トリガ出力機能がどのチャンネル と関連付けされているのかを問い合わせ。 CH2 トリガ出力機能と関連付けされたチャンネルは、CH2。		
コマンド	:TRIGger:OUT:STATe {D0 D1 D2 D3 D4},{ON OFF}		
機能	指定したデータラインについて、トリガ出力機能の OUT ポートステータス出力の有効/無効を設定します。		
パラメータ	ON: OUT ポートステータス出力を有効にします。 OFF: OUT ポートステータス出力を無効にします。		
例	:TRIGger:OUT:STATe D0,ON データライン D0 のトリガ出力機能 OUT ポートステータス出 力を有効にします。		

コマンド	:TRIGger:OUT:STATe? {D0 D1 D2 D3 D4}		
機能	指定したデータラインについて、トリガ出力機能の OUT ポートステータス出力の有効/無効を問い合わせます。		
例	:TRIGger:OUT:STATe? D0 データライン D0 のトリガ出力機能 OUT ポートステータス出 力状態を問い合わせ。 OFF OUT ポートステータス出力状態は、無効。		

7.4.8. レコー	ーダ機能コマンド
コマンド	:RECOrder:PATH?
機能	レコーダ機能で記録データの保存先を問い合わせます。 3 出力モデルの CH3 は、記録データの保存先を問い合わせ ができません。
例	:RECOrder:PATH? レコーダ機能で記録データ保存先の問い合わせ。 MEM:RECODER00 記録データの保存先は、内部メモリ番号 0。 USB:\REC00.REC 記録データの保存先は、内部 USB メモリの" REC00.REC" ファイル。 USB:\\ABC\REC00.REC 記録データの保存先は、内部 USB メモリ ABC フォルダ内の"REC00.REC"ファイル。
コマンド	:RECOrder:MEMory {0 1 2 3 4 5 6 7 8 9}
機能	レコーダ機能の記録データを保存するセット内部メモリ番号を選択します。
パラメータ	{0 1 2 3 4 5 6 7 8 9} 内部メモリ番号
例	:RECOrder:MEMory 5 レコーダ機能記録データの保存場所を、内部メモリ 5 にしま す。

コマンド	:RECOrder:USB <dest></dest>		
機能	レコーダ機能の記録データを保存する外部 USB メモリのファイルを選択します。また、外部 USB メモリに、記録データを保存するファイルを作成する事もできます。		
パラメータ	<dest> USB:\name.拡張子 name: 8 文字以下の英数字 拡張子: CSV または REC</dest>		
例	:RECOrder:USB USB:\R001.CSV レコーダ機能の記録データを保存するファイルとして、外部 USB メモリの"R001.CSV"ファイルを選択します。 外部 USB メモリに"R001.CSV"ファイルが無い場合、" R001.CSV"ファイルが作られます。		
注意	USB メモリのフォルダ内には、このコマンドによるファイル操作はできません。		
コマンド	:RECOrder:PERIod <nr1></nr1>		
機能	レコーダ機能による記録周期を設定します。 レコーダ機能が ON すると、全チャンネルのレコード機能記録データは記録周期間隔で記録されます。		
パラメータ	<nr1> 1~300、単位:秒</nr1>		
例	:RECOrder:PERIod 5 レコーダ機能による記録周期を 5 秒に設定します。		
コマンド	:RECOrder:PERIod?		
機能	レコーダ機能による記録周期を問い合わせます。		
例	:RECOrder:PERIod? レコーダ機能による記録周期の問い合わせ。 10 記録周期は、10 秒。		
コマンド	:RECOrder[:STATe] {ON OFF}		
機能	レコーダ機能の開始/停止を設定します。 レコーダ機能が終了すると、レコード機能の記録データが保 存先に記録されます。		
パラメータ	ON: レコーダ機能開始、OFF: レコーダ機能停止		

例	:RECOrder ON レコーダ機能を開始します。		
注意	レコーダ機能を開始します。 レコーダ機能が ON のとき、記録時間と保存先を指定することはできません。 レコーダ機能が終了前にレコーダ機能停止させた場合、記録データが保存先に記録されません。 記録データの保存先が USB メモリのファイルの場合、新規ファイルのみに記録データが保存できます。ファイルの上書きはできません。		
コマンド	:RECOrder[:STATe]?		
機能	レコーダ機能の動作状態を問い合わせます。		
例	:RECOrder? レコーダ機能の動作状態を問い合わせ。 ON レコーダ機能は動作中。		
コマンド	:RECOrder:GROUPs <nr1></nr1>		
機能	レコーダ機能について、記録させるデータ数を設定します。 本機のレコーダ機能は、設定された周期ごとに、設定された データ数分のデータを記録する動作をします。		
パラメータ	<nr1> 内部メモリへの保存: 1~2048 USB メモリへの保存: 1~204800</nr1>		
例	:RECOrder:GROUPs 100 記録させるデータ数を 100 に設定します。		
コマンド	:RECOrder:GROUPs?		
機能	レコーダ機能について、記録させるデータ数を問い合わせま す。		
例	す。 :RECOrder:GROUPs? レコード機能で記録させるデータ数の問い合わせ。 1000 レコード機能で記録させるデータ数は、1000。		

:RECOrder[1 2 3 4]:ENABle {ON OFF}				
指定チャンネルのレコーダ機能の有効/無効を設定します。 レコーダ機能が有効なチャンネルのみ、レコーダ動作 ON 時 にデータ記録をします。				
ON: レコーダ機能有効 OFF: レコーダ機能無効				
:RECOrder2:ENABle ON レコード動作 ON 時、CH2 のデータの記録を有効にします。				
:RECOrder[1 2 3 4]:ENABle?				
指定チャンネルのレコーダ機能が、有効/無効かを問い合わ せます。				
:RECOrder2:ENABle? CH2 のレコーダ機能の有効/無効を問い合わせ。 OFF CH2 のレコーダ機能は、無効。				

7.4.9. シーケンス機能コマンド

コマンド	:SEQUence[1 2]:CYCLEs {N I}[, <nr1>]</nr1>		
機能	指定チャンネルのシーケンス機能の繰返し回数を設定します。		
パラメータ	{N I}	I: 無限回数、N: 有限回数	
	<nr1></nr1>	繰返し回数: 1 - 99999	
例	:SEQUence2:CYCLEs N,20 CH2 のシーケンス機能の繰返し回数を、20 回に設定しま す。		
コマンド	:SEQUence[1 2]:CYCLEs?		
機能	指定チャンネルのシーケンス機能の繰返し回数を問い合わ せます。		

]数。		
:SEQUence2:CYCLEs? CH2 のシーケンス機能繰返し回数の問い合わせ。 I シーケンス機能繰返し回数は、無限回数。 N,100 シーケンス機能繰返し回数は、100 回。		
:SEQUence[1 2]:ENDState {OFF LAST}		
指定チャンネルのシーケンス機能の終了時の動作状態を設 定します。		
、自動的に出力 OFF		
、最終 Step の動作状		
:SEQUence2:ENDState LAST CH2 のシーケンス機能終了時の動作状態を、"LAST"に設 定します。		
:SEQUence[1 2]:ENDState?		
指定チャンネルのシーケンス機能終了時の動作状態設定を 問い合わせます。		
:SEQUence2:ENDState? CH2 のシーケンス機能終了時動作状態設定の問い合わせ。 LAST シーケンス機能終了時動作状態設定は、LAST。		
:SEQUence[1 2]:GROUPs <nr1></nr1>		
行する Step 数を設定 で設定された Step か だけ実行されます。		

例	:SEQUence2:GROUPs 25 CH2 について、シーケンス機能で実行する Step 数を 25 に 設定します。			
コマンド	:SEQUe	:SEQUence[1 2]:GROUPs?		
機能		指定チャンネルでシーケンス機能を実行させる Step 数を問い合わせます。		
例	CH2 (= 1	:SEQUence2:GROUPs? CH2について、シーケンス機能実行 Step 数の問い合わせ。 100 シーケンス機能実行 Step 数は、100。		
コマンド	:SEQUe	:SEQUence[1 2]:PARAmeter <no>,<volt>,<curr>,<time></time></curr></volt></no>		
機能		指定チャンネルでシーケンス機能の指定 Step に対して、パラメータの設定をします。		
パラメータ	<no></no>	パラメータを設定する Step 番号を指定します。		
	<volt></volt>	指定 Step の、出力電圧を設定します。 単位は[V]で、設定範囲は指定チャンネルの出力 設定範囲と同じです。		
	<curr></curr>	指定 Step の、出力電流を設定します。 単位は[A]で、設定範囲は指定チャンネルの出力 設定範囲と同じです。		
	<time></time>	指定 Step の、継続時間を設定します。 単位は[秒]で、1 秒~300 秒の範囲で設定します。		
例	CH2 (5.5	:SEQUence2:PARAmeter 1,8,1,10 CH2 について、シーケンス機能の Step 1 を、8V/1A/10 秒に 設定します。		
コマンド	:SEQUe	:SEQUence[1 2]:PARAmeter? <no>,<count></count></no>		
機能		指定チャンネルのシーケンス機能の指定した Step の設定内容を問い合わせます。		
パラメータ	<no></no>	0~2047 設定内容を問い合わせる Step 番号を設定しま す。		

		1~2048 上記 <no>で指定する Step 番号から、いくつ分 の Step について問い合わせるかを設定しま す。</no>	
返信内容	返信は"#"から始まる以下の様なブロックデータとなります。#90000000360,10.000,1.0000,3;1,0.100,1.0000,1; 青文字の"#9"は、返信内容の文字数の桁数が 9 桁を意味しています。9 桁の"000000036"は、黒文字のシーケンス機能の指定した Step の設定内容が 36 文字である事を意味しています。文字数には","や";"も含まれ、表示さえないデリミタも1 文字として含まれています。 黒文字は、シーケンス機能の指定した Step の設定内容です。各 Step の設定内容は";"にて区切られています。各 Step の設定内容は";"にて区切られています。各 Step の設定内容は"Step No.,設定電圧値,設定電流値Step 継続時間"で、","で区切られています。		
例	:SEQUence2:PARAmeter? 0,2 CH2 の、Step 番号 0 から 2 つの Step(Step 0 と Step 1)に ついて、シーケンス機能の設定パラメータを問い合わせ。 #9000000360,10.000,1.0000,3;1,0.100,1.0000,1; Step 番号 0 は、10V1A 設定で継続時間 3 秒。 Step 番号 1 は、0.1V1A 設定で継続時間 1 秒。		
コマンド	:SEQUence[1 2]:RESTart	
機能	指定チャンネルのシーケンス機能を最初から再スタートさせ ます。		
例	:SEQUence2:RESTart CH2 について、シーケンス機能を最初から再スタートさせま す。		
コマンド	:SEQUence[1 2]:STARt <nr1></nr1>		
機能	指定チャンネルでシーケンス機能を実行する際に、最初に実 行する Step の番号を設定します。		
パラメータ	<value> 0</value>	~2047	

例:SEQUence2:STARt 10

CH2 について、シーケンス機能を Step 10 から開始するように

設定します。

コマンド :SEQUence[1|2]:STARt?

機能 指定チャンネルでシーケンス機能を実行する際に、最初に実

行する Step の番号を問い合わせます。

例:SEQUence2:STARt?

CH2 について、シーケンス機能で最初に実行する Step 番号

を問い合わせ。

0

シーケンス機能で最初に実行する Step 番号は、0。

コマンド :SEQUence[1|2][:STATe] {ON|OFF}

機能 指定チャンネルのシーケンス機能の開始と停止を設定しま

す。

パラメータ ON: シーケンス機能動作開始

OFF: シーケンス機能動作停止

例 :SEQUence2:STATe ON

CH2 について、シーケンス機能を動作開始します。

/ シーケンス機能が ON することによって出力状態が変化する 注意 ため、シーケンス機能を ON させる前に、接続されている負

荷に影響を与えないことを確認してください。シーケンス出力は、シーケンス機能のパラメータを設定し、かつ、シーケンス機能を ON 設定した時に限り動作します。シーケンス機能動作中は、シーケンス機能に関わる設定の変更はできません。また、複数のチャンネルを持つモデルでは、指定チャンネルについてのみ、シーケンス機能が ON/OFF します。な

お、シーケンス機能とディレイ機能を同時に使用することは

できません。

コマンド :SEQUence[1|2][:STATe]?

機能 指定チャンネルのシーケンス機能の動作状態を問い合わせ

ます。

例	:SEQUence2:STATe? CH2 について、シーケンス機能動作状態を問い合わせ。 ON
	CH2 のシーケンス機能は、動作中。
コマンド	:SEQUence:SYNChronize {ON OFF}
機能	CH1 と CH2 両方のチャンネルのシーケンス機能が動作中に、2 つのチャンネルの同期を取って再スタートさせます。
パラメータ	ON 同期シーケンス機能動作開始 LCD に"Sync"文字を表示
	OFF 同期シーケンス機能動作終了
例	:SEQUence:SYNChronize ON CH1 と CH2 の両方のチャンネルの同期を取ってシーケンス 機能動作を再スタートさせます。
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:CONSTruct
機能	このコマンドを実行すると、シーケンス波形機能で編集中の シーケンス波形が、編集内容に従って、指定チャンネルの各 Step のパラメータとして実際に設定されます。
例	:SEQUence2:TEMPlet:CONSTruct シーケンス波形機能で選択テンプレートが、CH2 のシーケン ス出力パラメータに設定されます。
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:FALLRate <nr1></nr1>
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能 ExpFall による立下り パラメータを設定します。
パラメータ	<nr1> 0~10</nr1>
例	:SEQUence2:TEMPlet:FALLR 5 CH2 について、ExpFall での立下りパラメータを 5 に設定します。
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:FALLRate?
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能 ExpFall による立下り パラメータを問い合わせます。

例	:SEQUence2:TEMPlet:FALLRate? CH2 について、ExpFall による立下りパラメータを問い合わせ。 5
	ExpFall の立下りパラメータは、5。
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:INTErval <nr1></nr1>
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能による設定の際に適用される、1 Step あたりの時間を設定します。
パラメータ	<nr1> 1~300: 単位秒 この値は、シーケンス波形機能によって波形を生成する際に、各 Step の継続時間として設定されます。</nr1>
例	:SEQUence2:TEMPlet:INTErval 15 CH2 でシーケンス波形機能によって各 Step の設定を行う 際、各 Step の継続時間を 15 秒に設定します。ただし、Pulse 設定については、この設定が反映されません。
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:INTErval?
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能による設定の際に各 Step に適用される、継続時間の設定値を問い合わせます。
例	:SEQUence2:TEMPlet:INTErval? CH2 でシーケンス波形機能によって各 Step の設定の際、各 Step に適用される継続時間の設定値を問い合わせ。 2
	各 Step に適用される継続時間は、2 秒。
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:INVErt {ON OFF}
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能に編集する波形を、 反転させるかどうかを設定します。
	選択されている波形を反転させる場合、初めに選択されている波形を反転させ、その後で時間の設定をします。対応波形は Sine, Pulse, Ramp のみです。
例	:SEQUence2:TEMPlet:INVErt ON CH2 のシーケンス波形機能によって選択している波形を反 転させます。

コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:INVErt?
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能で選択されている波 形について、出力の反転設定を問い合わせます。
例	:SEQUence2:TEMPlet:INVErt? CH2 のシーケンス波形機能について、選択されている波形 の反転設定を問い合わせ。 OFF シーケンス波形機能の選択波形は、反転設定 OFF。
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet :MAXValue { <nr2> MINimum MAXimum}</nr2>
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能で選択されている波 形に対して、最大電圧値/最大電流値を設定します。
パラメータ	<nr2> 0~設定チャンネルの最大値</nr2>
	MINimum チャンネルの最小値
	MAXimum チャンネルの最大値
	出力電圧の編集をしている場合は最大電圧値、出力電流を編集している場合は、最大電流値が設定されます。波形として Pulse を選択している場合には、パルスの High レベルの値を設定します。
例	:SEQUence2:TEMPlet:MAXValue 5 出力電圧の設定をしている場合: CH2 のシーケンス波形機能で選択している波形に対して、 最大電圧を 5V に設定します。
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:MAXValue?
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能で選択されている波 形に対して、最大電圧/電流設定値を問い合わせます。
例	:SEQUence2:TEMPlet:MAXValue? CH2 のシーケンス波形機能で選択されている波形に対し て、最大電圧/電流値を問い合わせ。 33.000 最大電圧設定は、33V。: 電圧編集選択の場合

コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet :MINValue { <nr2> MINimum MAXimum}</nr2>
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能で選択されている波 形に対して、最小電圧/電流値を設定します。
パラメータ	<nr2> 0~設定チャンネルの最大値</nr2>
	MINimum チャンネルの最小値
	MAXimum チャンネルの最大値
パラメータ	出力電圧の編集をしている場合は、最小電圧値が設定され、出力電流を編集している場合には、最小電流値が設定されます。 波形として Pulse を選択している場合には、パルスの Low レベルの値を設定します。
例	:SEQUence2:TEMPlet:MINValue 0.5 出力電圧の設定をしている場合: CH2 のシーケンス波形機能で選択している波形に対して、 最小電圧を 0.5V に設定します。
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:MINValue?
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能で選択されている波 形に対して、最小電圧/電流設定値を問い合わせます。
例	:SEQUence2:TEMPlet:MINValue? CH2 のシーケンス波形機能で選択されている波形に対して、最小電圧/電流値を問い合わせ。 10.000 最小電圧設定は、10V。: 電圧編集選択の場合
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:OBJect {V C}
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能で選択している波形に対して、電圧の編集をするか、電流の編集をするかの選択をします。
パラメータ	V: 電圧編集選択 C: 電流編集選択
例	:SEQUence2:TEMPlet:OBJect V CH2 のシーケンス波形機能で選択している波形に対して、 電圧編集を設定します。

コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:OBJect?
機能	指定チャンネルのシーケンス波形モードで選択している波形に対して、電圧または電流のどちらを編集しているかを問い合わせます。
例	:SEQUence2:TEMPlet:OBJect? CH2 のシーケンス波形機能で選択されている波形に対して、編集項目の問い合わせ。 V
	シーケンス波形機能で選択波形は、電圧編集選択。
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:POINTs <nr1></nr1>
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能で選択している波形に対して、何 Step を使って変化させるのかを設定します。ただし、Pulse 設定には使用できません。
パラメータ	<nr1> 10~2048</nr1>
例	:SEQUence2:TEMPlet:POINTs 10 CH2 のシーケンス波形機能で選択している波形に対して、 10 Step を使って変化させるように設定します。
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:POINTs?
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能で選択している波形に対して、何 Step を使って変化させる設定となっているかを問い合わせます。
例	:SEQUence2:TEMPlet: POINTs? CH2 のシーケンス波形機能で選択されている波形に対して、何 Step を使って変化かの問い合わせ。 200 シーケンス波形機能で選択波形は、200Step で変化。
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:RISERate <nr1></nr1>
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能 ExpRise に立ち上が りパラメータを設定します。
パラメータ	<nr1> 0~10</nr1>
例	:SEQUence2:TEMPlet:RISERate 10 CH2 で選択しているシーケンス波形機能 ExpRise につい て、立ち上がりパラメータを 10 に設定します。

コマンド	:SEQUenc	ce[1 2]:TEMPlet:RISERate?		
機能		指定チャンネルのシーケンス波形機能 ExpRise で設定されている立ち上がりパラメータを問い合わせます。		
例	CH2 につい 合わせ。 5	ce2:TEMPlet:RISERate? いて、ExpRise による立ち上がりパラメータを問い D立ち上がりパラメータは、5。		
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet :SELect {SINE PULSE RAMP UP DN UPDN RISE FALL}			
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能で使用する波形を選択します。			
パラメータ	SINE	正弦波		
	PULSE	パルス波		
	RAMP	のこぎり波		
	UP	単調増加波形		
	DN	単調減少波形		
	UPDN	単調増加→単調減少する波形		
	RISE	立ち上がり波形		
	FALL	立ち下がり波形		
例	:SEQUence2:TEMPlet:SELect SINE CH2 について、シーケンス波形機能で使用する波形を、正 弦波に設定します。			
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:SELect?			
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能で選択されている波 形を問い合わせます。			
例	形を問い合わせます。 :SEQUence2:TEMPlet:SELect? CH2 について、シーケンス波形機能で選択波形を問い合わせ。 SINE シーケンス波形機能で選択波形は、正弦波。			

コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:SYMMetry <nr1></nr1>			
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能の RAMP について、 対象比率を設定します。			
パラメータ	<nr1> 0~100、単位: %</nr1>			
例	:SEQUence2:TEMPlet:SYMMetry 50 CH2 について、シーケンス波形機能による RAMP 出力の対 象比率を 50%に設定します。			
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:SYMMetry?			
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能の RAMP 出力について、設定されている対象比率を問い合わせます。			
例	:SEQUence2:TEMPlet:SYMMetry? CH2 について、シーケンス波形機能の RAMP 出力で設定されている対象比率設定値を問い合わせ。 60 RAMP 出力の対象比率は、60%。			
	17.1011 田月677] 承担于18、0070。			
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:WIDTh <nr1></nr1>			
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能の Pulse について、パルス幅を設定します。			
パラメータ	<nr1> 単位秒 1~(シーケンス波形機能の「Points」設定-1)</nr1>			
例	:SEQUence2:TEMPlet:WIDTh 5			
	CH2 について、シーケンス波形機能による Pulse のパルス幅を、5 秒に設定します。			
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:WIDTh?			
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能のPulseについて、設定されているパルス幅を問い合わせます。			
例	:SEQUence2:TEMPlet:WIDTh? CH2 について、シーケンス波形機能の Pulse 出力のパルス 幅を問い合わせ。 20			
	シーケンス波形機能の Pulse 出力パルス幅は、20 秒。			

コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:STARt <nr1></nr1>
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能について、編集する 波形開始 Step 番号を設定します。
パラメータ	<nr1> 0~2037</nr1>
例	:SEQUence2:TEMPlet:STARt 100 CH2 のシーケンス波形機能について、編集中の波形開始 Step 番号を 100 に設定します。
コマンド	:SEQUence[1 2]:TEMPlet:STARt?
機能	指定チャンネルのシーケンス波形機能について、編集中の 波形開始 Step 番号を問い合わせます。
例	:SEQUence2:TEMPlet:STARt? CH2 のシーケンス波形機能について、編集中の波形開始 Step 番号を問い合わせ。 50 編集中の波形開始 Step 番号は、50。
コマンド	:SEQUence:MEMory:SAVE {0 1 2 3 4 5 6 7 8 9}
機能	全チャンネルのシーケンス機能設定を、内部メモリに保存し ます。
パラメータ	{0 1 2 3 4 5 6 7 8 9} 内部メモリの"SEQUENCE00~09"
例	:SEQUence:MEMory:SAVE 1 全チャンネルのシーケンス機能設定を、内部メモリ SEQUENCE01 に保存します。
コマンド	:SEQUence[1 2]:MEMory:LOAD {0 1 2 3 4 5 6 7 8 9}
機能	全チャンネルのシーケンス機能設定を、内部メモリから呼び 出します。
パラメータ	{0 1 2 3 4 5 6 7 8 9} 内部メモリの"SEQUENCE00~09"
例	:SEQUence:MEMory:LOAD 1 全チャンネルのシーケンス機能設定を、内部メモリ SEQUENCE01 から呼び出します。
コマンド	:SEQUence[1 2]:USB:SAVE <dest></dest>
機能	指定チャンネルのシーケンス機能設定を、USB メモリの指定 したファイルに保存します。

パラメータ	されまレを指定の設定
します。ファイルには、指定チャンネルの設定が保存す。 保存されるファイルが"SEQ"形式の場合、チャンネルである必要がありません。ファイルには、全チャンネルでが保存されます。 SEQUence1:USB:SAVE USB:/R001.CSV CH1 のシーケンス機能設定を、USBメモリの"R001.保存します。 外部 USBメモリに"R001.CSV"ファイルが無い場合	されまレを指定の設定
する必要がありません。ファイルには、全チャンネルのが保存されます。 (例 :SEQUence1:USB:SAVE USB:/R001.CSV CH1 のシーケンス機能設定を、USB メモリの"R001. 保存します。 外部 USB メモリに"R001.CSV"ファイルが無い場合	の設定
CH1 のシーケンス機能設定を、USB メモリの"R001. 保存します。 外部 USB メモリに"R001.CSV"ファイルが無い場合	CC\/"!-
1001.00V 2777001F5464 9 °	
USB メモリのフォルダ内に在るファイルには、このコー よる操作はできません。 シーケンス機能動作中には、設定の保存はできませ	
コマンド :SEQUence[1 2]:USB:LOAD <dest></dest>	
機能 指定チャンネルのシーケンス機能設定を、USB メモリび出します。	Jから呼
パラメータ <dest> USB:\name.拡張子 name: 8 文字以下の英数字 拡張子: CSV また SEQ</dest>	
設定を呼び出すファイルが"CSV"形式の場合、チャンを指定します。ファイルから呼び出された設定が、指えいの設定になります。 設定を呼び出すファイルが"SEQ"形式の場合、チャンを指定する必要がありません。ファイルから呼び出さ定が、全チャンネルの設定になります。	定チャン ンネル
例:SEQUence1:USB:LOAD USB:/R001.CSV CH1 のシーケンス機能設定を、USBメモリの"R001.	.CSV"か
ら呼び出します。	

7.4.10. ステータスコマンド

7.4.10. 7	-	\ - \->		
コマンド	STA	TUS?		
機能			問い合わせます。	
	下の	表に従った	8 ビットの値が 10 進数で返されます。	
戻り値	Bit	内容	説明	
	0	CH1	0: CC, 1: CV	
	1	CH2	0: CC、1: CV	
	2,3	Tracking	01: 独立, 10: 並列, 10:直列	
	4	Веер	0: OFF, 1: ON	
	5	Output	メインアウトプット 0: OFF, 1 ON	
	6,7	Baud	00: 115200bps, RS-232C/USB 01: 57600bps, RS-232C/USB 10: 9600bps, RS-232C/USB	
			き、他の状態 (19200bps、38400bps、 まBit 6 と 7 は 11 です。	
例	動作 戻り CH1	STATUS? 動作ステータスを問い合わせます。 戻り値: 01010111 CH1:CC、CH2:CV、ch1/ch2 独立出力、ブザー:オフ、 メイン:ON、IF:GPIB/LAN		
コマンド	:STA	Tus:PRESe	et	
機能	Enal	Operation Event Enable レジスタ、Mesurement Event Enable レジスタと、Questionable Event Enable レジスタをクリアします。これにより、これらの Event Enable レジスタはデフォルトの設定状態に戻ります。		
例	:STATus:PRESet Event Enable レジスタをクリアします。			
コマンド	:STA	Tus:OPERa	ation[:EVENt]?	
機能	Ope	ration Event	t レジスタを問い合わせます。	
例		Tus:OPERa	ation? t レジスタを返します。	

:STATus:OPERation:CONDition?		
Operation Condition Status レジスタを問い合わせます。		
:STATus:OPERation:CONDition? Operation Condition Status レジスタを返します。		
:STATus:OPERation:ENABle <nr1></nr1>		
Operation Enable Status レジスタを設定します。		
<nr1> 8: CL (Current enable bit) 16: CLT (Current limit tripped enable bit) 64: PSS (Power supply shutdown enable bit)</nr1>		
:STATus:OPERation:ENABle 64 Operation Enable Status レジスタを PSS に設定します。		
:STATus:OPERation:ENABle?		
Operation Status Enable レジスタを問い合わせます。		
:STATus:OPERation:ENABle? Operation Status Enable レジスタを返します。		
:STATus:MEASurement:ENABle <nr1></nr1>		
:STATus:MEASurement:ENABle <nr1></nr1>		
:STATus:MEASurement:ENABle <nr1> Measurement Status Enable レジスタを設定します。</nr1>		
Measurement Status Enable レジスタを設定します。 <nr1> 8: ROF (reading overflow enable bit)</nr1>		
Measurement Status Enable レジスタを設定します。 <nr1> 8: ROF (reading overflow enable bit)</nr1>		
Measurement Status Enable レジスタを設定します。 <nr1> 8: ROF (reading overflow enable bit)</nr1>		
Measurement Status Enable レジスタを設定します。 <nr1> 8: ROF (reading overflow enable bit)</nr1>		
Measurement Status Enable レジスタを設定します。 <nr1> 8: ROF (reading overflow enable bit)</nr1>		

例	:STATus:MEASurement? Measurement Event Status レジスタを返します。			
コマンド	:STATus:MEASurement:ENABle?			
機能	Measurement Status Enable レジスタを問い合わせます。			
例	:STATus:MEASurement:ENABle? Measurement Status Enable レジスタを返します。			
コマンド	:STATus:MEASurement:CONDition?			
機能	Measurement Condition Status レジスタを問い合わせます。			
例	:STATus:MEASurement:CONDition? Measurement Condition Status レジスタを返します。			
コマンド	:STATus:QUEStionable[:EVENt]?			
機能	Questionable Event Status レジスタを問い合わせます。			
例	:STATus:QUEStionable? Questionable Event Status レジスタを返します。			
コマンド	:STATus:QUEStionable:CONDition?			
機能	Questionable Condition Status レジスタを問い合わせます。			
例	:STATus:QUEStionable:CONDition? Questionable Condition Status レジスタを返します。			
コマンド	:STATus:QUEStionable:ENABle <nr1></nr1>			
機能	Questionable Enable Status レジスタを設定します。			
パラメータ	<nr1> 256: CAL (Calibration summary enable bit)</nr1>			
	このレジスタは 16bit 構成です。 レジスタ設定が 256~511 の間の数値であれば、その数値 が設定されます。 レジスタ設定が 512~65535 の間の数値の場合、ビット 8 の Cal が設定されます。			
例	:STATus:QUEStionable:ENABle 512 Questionable Enable Status レジスタのビット8(CAL)を有効にします。			

コマンド	:STATus:QUEStionable:ENABle?		
機能	Questionable Enable Status レジスタを問い合わせます。		
例	:STATus:QUEStionable:ENABle? Questionable Enable Status レジスタを返します。		
コマンド	:STATus:QUEue[:NEXT]?		
機能	エラーキューに格納されているメッセージを読み取ります。		
例	:STATus:QUEue? エラーキュー内のエラーメッセージを返します。		
コマンド	:STATus:QUEue:ENABle <list></list>		
機能	特定のエラーメッセージやステータスメッセージについて、エ ラーキューに出力させるものの設定をします。		
パラメータ	(-440:+900): すべてのエラーメッセージを出力させます。 (-110): エラーコード-110 のエラーのみ出力させます。 (-110:-222): エラーコード-110~-222 の間のエラーのみ出力させます。 (-110:-222, -220): エラーコード-110~-220 の間のエラーおよびエラーコード-220 のエラーを出力させます。		
例	:STATus:QUEue:ENABle (-110:-222) エラーコードが-110~-222の間のエラーのみ、出力キューに 出力させます。		
コマンド	:STATus:QUEue:ENABle?		
機能	エラーメッセージについて、出力キューに出力させる設定と なっているものを問い合わせます。		
例	:STATus:QUEue:ENABle? エラーメッセージについて、出カキューに出力させる設定となっているものを返します。		

コマンド	:STATus:QUEue:DISable <list></list>		
機能	特定のエラーメッセージやステータスメッセージについて、エ ラーキューに出力させないものの設定をします。		
パラメータ	(-440:+900) すべてのエラーを出力させないようにします。 (-110) エラーコード-110 のエラーのみ出力させないようにします。 (-110:-222) エラーコード-110~-222 の間のエラーのみ出力させないようにします。 (-110:-222, -220) エラーコード-110~-220 の間のエラーおよびエラーコード-220 のエラーを出力させないようにします。		
例	:STATus:QUEue:DISable (-110:-222) エラーコード-110~-222 の間のエラーを、エラーキューに出 力しないようにします。		
コマンド	:STATus:QUEue:DISable?		
機能	エラーキューに出力されない設定となっているエラーを問い 合わせます。		
例	:STATus:QUEue:DISable? エラーキューに出力されない設定となっているエラーを返し ます。		
コマンド	:STATus:QUEue:CLEar		
機能	エラーキューに蓄えられているエラーメッセージを、すべて削 除します。		
例	:STATus:QUEue:CLEar エラーキューに蓄えられているエラーメッセージを、すべて削 除します。		

183

ファームウエアのバージョンを問い合わせます。

:SYSTem:VERSion?

コマンド

機能

例	:SYSTem:VERSion? バージョンを問い合わせます。	
コマンド	:SYSTem:ERRor?	
機能	エラーキューに蓄えられているエラーメッセージを応答し、キューから削除します。	
例	:SYSTem:ERRor? エラーを応答します。	
コマンド	ERR?	
機能	エラーステータスをチェックし、最後のエラーメッセージを返し ます。	
応答エラー メッセージ	説明	
а	コマンドが長い コマンドの長さは 15 文字以下にする必要があります。	
b	無効な文字 記号などの無効な文字が入力されています。例: VOUT#	
С	パラメータ間違い コマンドにパラメータがありません。例: VSET:(数字が必要)	
d	範囲外のデータ 入力値が仕様を超えています。 例: VSET:33(≦32V である必要があります。)	
е	使用禁止コマンド 入力されたコマンドは許可されません。 例:トラッキングモード中に CH2 出力を設定しようとする。	
f	未定義へッダ 入力したコマンドが終了しないか、構文が間違っています。	
コマンド	:SYSTem:CLEar	
機能	エラーキューをクリアします。	
例	:SYSTem:CLEar エラーキューをクリアします。	

コマンド	:SYSTem:POSetup <rst last></rst last>	
機能	電源 ON 直後に設定される状態を選択します。	
パラメータ	RST: 本機のデフ	オルト設定でセットが起動します。
	Last: 前回の電源	FOFF 時の設定でセットが起動します。
例	:SYSTem:POSetup RST 電源 ON 直後に設定される状態を、本機のデフォルト設定と します。	
コマンド	:SYSTem:POSet	tup?
機能	電源 ON 直後に	设定される状態を問い合わせます。
例 ————————————————————————————————————	:SYSTem:POSet 電源 ON 直後に	tup? 设定される状態を返します。。
コマンド	:SYSTem:COMMunicate:LAN:DHCP[:STATe] 	
機能	DHCP を有効にするか、無効にするかの設定をします。	
パラメータ	 o/OFF: DHCP を無効設定 1/ON: DHCP を有効設定	
注意	このコマンドによる DHCP の設定を有効にするためには、":SYSTem:COMMunicate:LAN:APPLy"コマンドを実行する必要があります。	
例	:SYSTem:COMMunicate:LAN:DHCP ON DHCP を有効にします。	
コマンド	:SYSTem:COMMunicate:LAN:DHCP[:STATe]?	
機能	DHCP が有効/無効を問い合わせます。	
例	:SYSTem:COMMunicate:LAN:DHCP? DHCP の有効/無効を返します。。	
コマンド	:SYSTem:COMMunicate:LAN:IPADdress <ip address=""></ip>	
機能	IP アドレスを設定	します。
パラメータ	5	1.0.0.0~223.255.255.255 の範囲内で設 定します。 ただし、127.nnn.nnn.nnn は除きます。

は、":SYSTem:COMMunicate:LAN:APPLy"コマンドを実行する必要があります。 例 :SYSTem:COMM:LAN:SMAS 255.255.255.0 サブネットマスクを、255.255.255.0 に設定します。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? 機能 サブネットマスクを問い合わせます。 例 :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? サブネットマスクを返します。。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:GATEway <ip address="">機能 ゲートウェイアドレスを設定します。 パラメータ <ip address=""> 1.0.0.0~223.255.255.255 の範囲で設定します。</ip></ip>		
:IPADdress 172.131.161.152 IP アドレスを、172.131.161.152 に設定します。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:IPADdress? 機能 IP アドレスを問い合わせます。 例 :SYSTem:COMMunicate:LAN:IPADdress? IP アドレスを返します。。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk <mask>機能 サブネットマスクを設定します。 パラメータ <mask> 1.0.0.0~255.255.255.255 の範囲で設定します。 このコマンドで設定するサブネットマスクを有効にするためには、":SYSTem:COMMunicate:LAN:APPLy"コマンドを実行する必要があります。 例 :SYSTem:COMM:LAN:SMAS 255.255.255.0 サブネットマスクを、255.255.255.0 に設定します。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? 機能 サブネットマスクを問い合わせます。 例 :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? せブネットマスクを返します。。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? サブネットマスクを返します。。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? サブネットマスクを返します。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:GATEway <ip address=""> 機能 ゲートウェイアドレスを設定します。 パラメータ <ip address=""> 1.0.0.0~223.255.255.255 の範囲で設定します。</ip></ip></mask></mask>	注意	です。 また、このコマンドで設定する IP アドレスを有効にするため には、:SYSTem:COMMunicate:LAN:APPLy コマンドを実
 機能 IP アドレスを問い合わせます。 例 :SYSTem:COMMunicate:LAN:IPADdress? IP アドレスを返します。。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk <mask>機能 サブネットマスクを設定します。</mask> パラメータ <mask> 1.0.0.0~255.255.255.255 の範囲で設定します。</mask> (本) :SYSTem:COMMunicate:LAN:APPLy"コマンドを実行する必要があります。 例 :SYSTem:COMM:LAN:SMAS 255.255.255.0 けブネットマスクを、255.255.255.0 に設定します。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? 機能 サブネットマスクを問い合わせます。 例 :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? 機能 サブネットマスクを返します。。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:GATEway <ip address="">機能 ゲートウェイアドレスを設定します。</ip> ペラメータ <ip address=""> 1.0.0.0~223.255.255.255 の範囲で設定します。</ip> 	例	:IPADdress 172.131.161.152
SYSTem:COMMunicate:LAN:IPADdress? IP アドレスを返します。。 コマンド	コマンド	:SYSTem:COMMunicate:LAN:IPADdress?
IP アドレスを返します。。 コマンド	機能	IP アドレスを問い合わせます。
 機能 サブネットマスクを設定します。 パラメータ	例	
パラメータ	コマンド	:SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk <mask></mask>
す。 このコマンドで設定するサブネットマスクを有効にするためには、":SYSTem:COMMunicate:LAN:APPLy"コマンドを実行する必要があります。 例 :SYSTem:COMM:LAN:SMAS 255.255.255.0 サブネットマスクを、255.255.255.0 に設定します。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? 機能 サブネットマスクを問い合わせます。 例 :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? サブネットマスクを問い合わせます。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:GATEway <ip address="">機能 ゲートウェイアドレスを設定します。 パラメータ <ip address=""> 1.0.0.0~223.255.255.255 の範囲で設定します。</ip></ip>	機能	サブネットマスクを設定します。
は、":SYSTem:COMMunicate:LAN:APPLy"コマンドを実行する必要があります。 例 :SYSTem:COMM:LAN:SMAS 255.255.255.0 サブネットマスクを、255.255.255.0 に設定します。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? 機能 サブネットマスクを問い合わせます。 例 :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? サブネットマスクを返します。。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:GATEway <ip address="">機能 ゲートウェイアドレスを設定します。 パラメータ <ip address=""> 1.0.0.0~223.255.255.255 の範囲で設定します。</ip></ip>	パラメータ	
サブネットマスクを、255.255.255.0 に設定します。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? 機能 サブネットマスクを問い合わせます。 例 :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? サブネットマスクを返します。。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:GATEway <ip address="">機能 ゲートウェイアドレスを設定します。 ペラメータ <ip address=""> 1.0.0.0~223.255.255.255 の範囲で設定します。 ます。</ip></ip>	/!注意	•
機能 サブネットマスクを問い合わせます。 例 :SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk? サブネットマスクを返します。。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:GATEway <ip address=""> 機能 ゲートウェイアドレスを設定します。 <ip address=""> 1.0.0.0~223.255.255.255 の範囲で設定します。 ます。</ip></ip>	例	
例:SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk?サブネットマスクを返します。。 コマンド:SYSTem:COMMunicate:LAN:GATEway <ip address="">機能 ゲートウェイアドレスを設定します。 パラメータ:IP address> 1.0.0.0~223.255.255.255 の範囲で設定します。</ip>	コマンド	:SYSTem:COMMunicate:LAN:SMASk?
サブネットマスクを返します。。 コマンド :SYSTem:COMMunicate:LAN:GATEway <ip address=""> 機能 ゲートウェイアドレスを設定します。 パラメータ <ip address=""> 1.0.0.0~223.255.255.255 の範囲で設定します。</ip></ip>	機能	サブネットマスクを問い合わせます。
機能 ゲートウェイアドレスを設定します。 パラメータ <ip address=""> 1.0.0.0~223.255.255.255 の範囲で設定します。</ip>	例	
パラメータ <ip address=""> 1.0.0.0~223.255.255.255 の範囲で設定します。</ip>	コマンド	:SYSTem:COMMunicate:LAN:GATEway <ip address=""></ip>
ます。	機能	ゲートウェイアドレスを設定します。
/こ/こし、12/は除さより。	パラメータ	

このコマンドで設定するゲートウェイアドレスを有効にするためには、":SYSTem:COMMunicate:LAN:APPLy"コマンドを実行する必要があります。	
:SYSTem:COMMunicate:LAN:GATEway 172.16.3.1 ゲートウェイアドレスを、172.16.3.1 に設定します。	
:SYSTem:COMMunicate:LAN:GATEway?	
ゲートウェイアドレスを問い合わせます。	
:SYSTem:COMMunicate:LAN:GATEway? ゲートウェイアドレスを返します。	
:SYSTem:COMMunicate:LAN:MANualip[:STATe] 	
IP アドレスの手動設定を有効にするか、無効とするかを設定します。	
 0/OFF: IP アドレスの手動設定を無効にします。 1/ON: IP アドレスの手動設定を有効にします。	
このコマンドで設定値を有効にするためには、 "SYSTem:COMMunicate:LAN:APPLy"コマンドを実行する 必要があります。	
:SYSTem:COMMunicate:LAN:MANualip ON IP アドレスの手動設定を有効にします。	
:SYSTem:COMMunicate:LAN:MANualip[:STATe]?	
IP アドレスの手動設定が有効か、無効かを問い合わせます。	
:SYSTem:COMMunicate:LAN:MANualip? IP アドレスの手動設定が有効か、無効かを返します。。	
:SYSTem:COMMunicate:LAN:APPLy	
このコマンドが実行されると、他のコマンドによって設定された LAN に関わる設定が、実際に適用されます。LAN で通信をおこなっている場合は切断されるので注意が必要です。	
:SYSTem:COMMunicate:LAN:APPLy 他のコマンドで設定された LAN に関わる設定のすべてを、 実際に適用します。	

コマンド	:SYSTem:REMote
機能	 本器をリモート状態にします。
例	REMOTE 本器をリモート状態にします。
コマンド	REMOTE
機能	本器をリモート状態にします。
例	REMOTE 本器をリモート状態にします。
コマンド	:SYSTem:BEEPer:STATe
機能	ブザー音の ON/OFF を設定します。
パラメータ	 0/OFF: ブザー音を OFF します。 1/ON: ブザー音を ON します。
例	:SYSTem:BEEPer:STATe OFF ブザー音を OFF します。
コマンド	BEEP <boolean></boolean>
世代	BEEP <boolean> ブザー音の ON/OFF を設定します。</boolean>
機能	ブザー音の ON/OFF を設定します。 <boolean> 0: ブザー音 OFF</boolean>
機能パラメータ	ブザー音の ON/OFF を設定します。 <boolean> 0: ブザー音 OFF 1: ブザー音 ON BEEP1</boolean>
機能 パラメータ 例	ブザー音の ON/OFF を設定します。 <boolean> 0: ブザー音 OFF 1: ブザー音 ON BEEP1 ブザー音を ON します。</boolean>
機能 パラメータ 例 コマンド	ブザー音の ON/OFF を設定します。 <boolean> 0: ブザー音 OFF 1: ブザー音 ON BEEP1 ブザー音を ON します。 :SYSTem:BEEPer:STATe?</boolean>
機能 パラメータ 例 コマンド 機能	ブザー音の ON/OFF を設定します。 <boolean> 0: ブザー音 OFF 1: ブザー音 ON BEEP1 ブザー音を ON します。 :SYSTem:BEEPer:STATe? ブザー音の設定状態を問い合わせます。 :SYSTem:BEEPer:STATe?</boolean>
機能 パラメータ 例 コマンド 機能 例	ブザー音の ON/OFF を設定します。 <boolean> 0: ブザー音 OFF 1: ブザー音 ON BEEP1 ブザー音を ON します。 :SYSTem:BEEPer:STATe? ブザー音の設定状態を問い合わせます。 :SYSTem:BEEPer:STATe? ブザー音の設定状態を返します。。</boolean>

コマンド	LOCAL
機能	リモート制御状態を解除し、ローカル状態とします。
例	LOCAL リモート制御状態を解除し、ローカル状態とします。
コマンド	:SYSTem:INTerface {USB RS232 GPIB LAN}
機能	使用するインターフェースを選択します。
例	:SYSTem:INTerface USB 使用するインターフェースを、USB とします。
コマンド	:SYSTem:BAUDrate :USB {9600 19200 38400 57600 115200}
機能	USB 通信におけるボーレートを選択します。
例	:SYSTem:BAUDrate:USB 115200 USB 通信におけるボーレートを 115200bps に設定します。
コマンド	:SYSTem:BAUDrate:USB?
機能	USB 通信におけるボーレートを問い合わせます。
例	:SYSTem:BAUDrate:USB? USB 通信におけるボーレートを返します。。
コマンド	:SYSTem:BAUDrate :RS232 {9600 19200 38400 57600 115200}
機能	RS-232C 通信におけるボーレートを選択します。
例	:SYSTem:BAUDrate:RS232 9600 RS-232C 通信におけるボーレートを 9600bps に設定しま す。
コマンド	:SYSTem:BAUDrate:RS232?
機能	RS-232C 通信におけるボーレートを問い合わせます。
例	:SYSTem:BAUDrate:RS232? RS-232C 通信におけるボーレートを返します。

コマンド	BAUD <nr1></nr1>		
機能	ボーレートを、9600bps/57600bps/115200bps の中から選択します。本コマンドは互換性のためのもので選択項目が制限されています。		
パラメータ	<nr1> 0: 115200bps, 1</nr1>	: 57600bps, 2: 9600bps	
注意	このコマンドは RS-232C a 能です。問合せコマンドはる	たは USB で通信時のみ実行可 ありません。	
例	BAUD0 通信ボーレートを、115200	bps に設定します。	
コマンド	:SYSTem:LANGuage {CH	HINese ENGlish}	
機能	表示言語を英語(ENGlish) す。	表示言語を英語(ENGlish)/中国語(CHINese)に切替えます。	
例	:SYSTem:LANGuage EN 表示言語を英語とします。	Glish	
コマンド	:SYSTem:LANGuage?		
機能	表示言語を問い合わせます	表示言語を問い合わせます。	
例	:SYSTem:LANGuage? 表示言語を返します。。		
コマンド	HELP?		
機能	以下の簡易コマンド一覧が	 返信されます。	
	 ISET<x>:<nr2></nr2></x> VSET<x>:<nr2></nr2></x> ISET<x>?</x> VSET<x>?</x> IOUT<x>?</x> VOUT<x>?</x> TRACK<nr1></nr1> BAUD RCL<nr1></nr1> 	 SAV<nr1></nr1> BEEP<boolean></boolean> OUT<boolean></boolean> LOCAL REMOTE *IDN? ERR? STATUS? 	

7.4.12. IEEE488.2 共通コマンド

コマンド	*IDN?	
機能	機器情報を問い合わせます。	
パラメータ	<string> 製造メーカー、機種名、シリアルナンバー、バージョンの4項目からなり、各々の項目はカンマで区切られます。</string>	
例	*IDN?	
	本機の情報が返されます。	
	(応答例)	
	TEXIO,PDW32-3Q,XXXXXXXXX,V1.00	
	TEXIO: 製造メーカー	
	PDW32-3Q: 機種名	
	XXXXXXXXX: シリアルナンバー	
	V1.00: バージョン	
コマンド	*RST	
機能	本機をリセットし、工場出荷時設定にします。	
例	*RST 本機をリセットします。	
コマンド	*SAV <nr1></nr1>	
機能	現状の設定状態を、指定した番号の内部メモリに保存しま す。	
パラメータ	<nr1> 0 - 9: STATE00 - STATE09</nr1>	
例	*SAV 3 現状の設定状態を、内部メモリの STATE03 に保存します。	
コマンド	*RCL <nr1></nr1>	
機能	内部メモリに保存されている設定状態を呼び出します。	
パラメータ	<nr1> 0 - 9: STATE00 - STATE09</nr1>	
例	*RCL 2 内部メモリの STATE02 に保存されている設定状態を呼び出 します。	

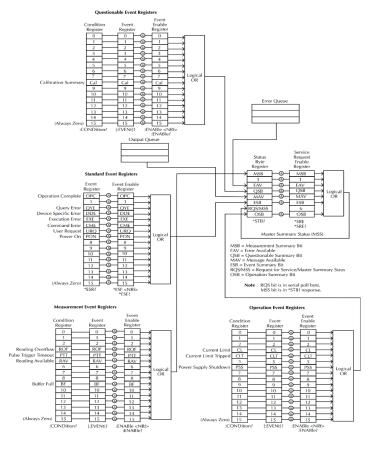
コマンド	*SRE <nr1></nr1>	
機能	Service Request Enable レジスタを制御します。 Status Byte レジスタ内のイベントのどれを有効にするかを、 ビットの持つ重みを合算した値を送ることで設定します。	
パラメータ	<nr1> 10 進数で、0~255</nr1>	
例	*SRE 7 Service Request Enable レジスタを、10 進数で「7」(→0000 0111)に設定します。	
コマンド	*SRE?	
機能	Status Byte Enable レジスタの設定内容を問い合わせます。戻り値は、 Status Byte Enable レジスタ内でセットされている各ビットが持つ重みを合算した 10 進数で、戻り値の範囲は 0~255 です。	
例	*SRE? Service Request Enable レジスタの設定内容を問い合わ せます。	
コマンド	*STB?	
機能	Status Byte レジスタを問い合わせます。 シリアルポールの動作と同じですが、マスターサマリビット (MSS, bit6)は*STB コマンドではクリアされません。戻り値 の範囲は、0~255 です。	
例	*STB? Status Byte レジスタを問い合わせます。 Status Byte レジスタが「0101 0001」にセットされている場合には、「81」が戻り値となります。	
コマンド	*ESE <nr1></nr1>	
機能	Standard Event Enable レジスタを設定します。 設定範囲は、0~255 です。	
パラメータ	<nr1> 10 進数で、0~255</nr1>	
例	*ESE 65 Standard Event Enable レジスタを、65(=0100 0001)に設 定します。	

コマンド	*ESE?	
機能	Standard Event Enable レジスタの設定内容を問い合わせます。戻り値は、Standard Event Enable レジスタ内でセットされている各ビットが持つ重みを合算した 10 進数で、戻り値の範囲は 0~255 です。	
例	*ESE? Standard Event Enableレジスタの設定内容を問い合わせます。 レジスタが「0100 0001」に設定されている場合、戻り値は 65 となります。	
コマンド	*ESR?	
機能	Standard Event レジスタを問い合わせます。 戻り値は 0~255 の範囲で、セットされているビットの重み を合算した 10 進数です。	
例	*ESR? Standard Event レジスタを問い合わせます。 レジスタが「0100 0001」に設定されている場合、戻り値は 65 となります。	
コマンド	*CLS	
機能	Status Byte レジスタのサマリ、すべての Event レジスタ、 各バッファをクリアします。	
例	*CLS Standard Event レジスタ、Operation Event レジスタ、 Measurement Event レジスタ、Questionable Event レジスタ、各バッファをクリアします。	
コマンド	*OPC	
機能	すべての実行待ちの操作が完了すると、Standard Event レジスタの OPC ビットをセットします。	
例	*OPC	
コマンド	*OPC?	
機能	すべての実行待ちの操作が完了している場合、出力キュ 一に 1 を返します。	

例	*OPC? 最後のコマンドが実行されると、出力キューに 1 を返しま
	ब ै.

7.5. SCPI ステータス レジスタ

SCPI 対応機器の設定は、ステータスレジスタによって制御されます。ステータスシステムにより、機器の動作状態は、 Status Byte レジスタグループ・ Standard Event レジスタグループ・Questionable データレジスタグループの、3つのレジスタグループに記録されます。 Status Byte レジスタには、他の2つのレジスタグループの記録内容の概略が記録されます。次の図は、SCPI のステータスシステムの構造を表しています。



※URQ は、前面パネルの Lock キーが使われていることを表します。 (アンロック状態からロック状態への移行、または、ロック状態からアンロック状態への移行)

7.5.1. Event レジスタ

Operation、Measurement、Questionable の各ステータスレジスタグループには、すべてに Event レジスタがあります。 Event レジスタは読み出し専用で、セットの動作状態を表します。 Event レジスタ内の個々のビットは、そのビットに対応するイベントが生じるとセットされてラッチされ、原因となったイベントの状態が変化しても、ラッチされたままとなります。レジスタに対するクエリ(*ESR)や*CLS コマンドが実行されると、 Event レジスタ内のラッチされていたビットは自動的にクリアされます。 Event レジスタに対するクエリに対する応答は、 Event レジスタ内でセットされている各ビットの重みを合算した 10 進数で返され、これはレジスタ内のすべてのビットの状態を表します。

7.5.2. Enable レジスタ

Enable レジスタは、対応する Event レジスタ内のどのビットをセット(ラッチ)できるようにするかを設定します。 Enable レジスタは設定することも読み出すことも可能です。 Enable レジスタに対するクエリによって、 Enable レジスタの設定が変更されることはありません。*CLS コマンドを実行しても Enable レジスタはクリアされませんが、 Event レジスタはクリアされます。 Event レジスタの個々のビットをセットできるようにするには、対応する Enable レジスタのビットをセットする必要があります。この際、各々のビットは2進数で表されます。

7.5.3. Status Byte レジスタ

Status Byte レジスタは、他のステータスレジスタの状態を伝えます。 MAV(Message Available)ビット(bit4)は、出力バッファに何らかのメッセージがあることを示します。 Event レジスタをクリアすることで、対応する Status Byte コンディションレジスタのビットがクリアされます。出力バッファ内のすべてのメッセージを読み取ることで、MAV ビットはクリアされます。 Enable レジスタを設定して Status Byte レジスタをマスクしたり、SRQ(Service Request)を発生せたりするためには、*SREコマンドを使って適切な 10 進数をレジスタに書き込む必要があります。

Status Byte レジスタのビット定義

tatalo Eyro F F V V V V V E F V V V V V V V V V V V		
ビット番号	10 進数	定義
0 未使用	1	未使用で、「0」が返されます。
1 未使用	2	未使用で、「0」が返されます。
2 エラーキュー	4	エラーキューに、1 つ以上のエラーがあることを示します。
3 Questionable サマリビット	8	Questionable データレジスタ内の1つ以上

		のビットがセットされていることを示します。
4 MAV(Message Available)ビット	16	出力キューのメッセージが利用可能なこと を示します。
5 Standard イベントビット	32	Standard Eventレジスタ内の1つ以上のビットがセットされていることを示します。
6 マスターサマリ ビット	64	Status Byte レジスタのサマリビットがセットされていることを示します。
7 未使用	128	未使用で、「0」が返されます。

Status Byte コンディションレジスタは、次の操作によりクリアされます。

- ●*CLS コマンドを使って、 Status Byte レジスタをクリアする場合。
- ●他のレジスタグループから、Event レジスタを読み取った場合。 この場合は、コンディションレジスタ内の対応するビットのみクリアされます。 Status Byte Enable レジスタは、次の操作によりクリアされます。
- ●*SRE 0 コマンドが実行された場合

Status Byte レジスタを読むためには、*STB?クエリを使用します。 Status Byte レジスタの MSS ビット(bit6)がクリアされている限り、STB?クエリは Status Byte レジスタの内容を返します。

*OPC クエリにより、出力バッファに"1"を出力します。

一般的に、Standard Event レジスタ内の Operation Complete(OPC)ビット (bit0)を使って、動作・コマンドが終了したことを確認します。 *OPC コマンドを実行すると、OPC ビットは 1 にセットされます。 *OPC コマンドが送られる前に、コマンドやクエリが出力バッファに入ると、OPC ビットにより情報が出力されるタイミングを決定することができます。

ただし、*OPC コマンドの実行前に実行されるコマンド/クエリが多すぎると、出力バッファが飽和状態になり、ユニットが読み取りを停止する可能性があります。

7.5.4. Standard Event レジスタ

Standard Event レジスタは、次のタイプのイベントを記録します。

電源 ON 状態の検出、コマンドの文法エラー、コマンド実行時のエラー、セルフテストのエラー、クエリエラー、*OPC コマンドの実行

これらの中の 1 つ以上のイベントが生じた場合、 Status Byte レジスタの Standard イベントサマリビットがセットされます。 Enable レジスタをマスクする ためには、マスクするビットの持つ重みを合算した 10 進数を*ESE コマンドで送る必要があります。

Standard Event レジスタのビット定義

ビット番号	10 進数	定義
0 動作完了ビット	1	*OPC コマンドでセットされます。複数のコマンドの実行時には、*OPC コマンドを含めたすべてのコマンドが完了した時点でこのビットがセットされます。
1 未使用	2	未使用で、「0」が返されます。
2 クエリエラー	4	キューが空の時にキューを読み取る場合、もしくは、入力バッファ・出力バッファがいっぱいの場合に、このビットがセットされます。
3 デバイスエ ラー	8	セルフテスト、キャリブレーション、またはその 他のデバイス固有のエラーの場合、このビッ トがセットされます。
4 実行エラー	16	実行エラーの場合、このビットがセットされます。
5 コマンドエラ	32	コマンドの文法エラーの場合、このビットがセットされます。
6 未使用	64	未使用で、「0」を返します。
7 電源 ON	128	イベントレジスタを最後に読み取ってから電源がリセットされている場合、このビットがセットされます。

以下の操作により、Standard Event レジスタはクリアされます。

- ●*CLS コマンドが実行された場合
- Event レジスタの問い合わせのために、*ESR コマンドが実行された場合次の操作により、Standard Event Enable レジスタはクリアされます。
- ●*ESE コマンドが実行された場合

7.6. エラー

7.6.1. エラーメッセージ

- 発生したエラーは、先入れ先出し(FIFO)で格納されます。最初に読み出されるエラーは、最初に発生したエラーとなります。エラーが読み取られると同時に、キューからクリアされます。
- 10 以上のエラーが生じた場合、キューの中の最後のエラーは「Queue Over Flow」に置き換えられます。エラーキュークリアされない限り、エラーキューには新たなエラーは出力されません。エラーキューにエラーが無い場合には、「No error」を返します。
- エラーキューをクリアするには、:SYSTem:CLEar コマンドを使用するか、電源の再投入をします。エラーキューからメッセージを読み取ると、そのメッセージはエラーキューからクリアされます。本機をリセットする*RST コマンドでは、エラーキューはクリアされません。
- リモート制御コマンドにより、エラーキューをクリアすることができます。詳細については、前章をご参照ください。

7.6.2. コマンドエラー

● -440 不明確なクエリで紀	終端無し
------------------	------

● -430 レスポンス

● -420 クエリのデッドロック

● -410 クエリが終端無し

◆ -363 クエリが中断された

● -350 入力バッファが超過

◆ -330 キューのオーバーフロー

● -314 セルフテストに失敗

● -315 保存/呼び出しメモリが失われた

● -260 設定メモリが失われた

● -241 式のエラー

● -230 ハードウェアの不足

● -225 データの異常またはデータが古い

● -224 メモリの不足

● -223 違法なパラメータ値

● -222 データが多すぎる

● -221 パラメータが範囲外

● -220 設定の衝突

● -200 パラメータのエラー

● -178 実効エラー

-171 許可されていないデータ表現 無効な表現 -170 -161 式のエラー -160 無効なブロックデータ ブロックデータのエラー -158 許可されていない文字列データ • -154 文字列が長過ぎる -151 -150 無効な文字列データのエラー 許可されていない文字データ -148 文字データが長過ぎる -144 無効な文字データ -141 -140 文字データエラー -124 桁数が多過ぎる -123 指数が大き過ぎる 数値中の無効な文字 -121 -120 数値データエラー • -114 ヘッダのサフィックスが範囲外 -113 定義されていないヘッダ -112 プログラムのニーモニックが長過ぎる -111 ヘッダセパレータのエラー • -110 コマンドヘッダのエラー パラメータの不足 -109 許可されていないパラメータ -108 許可されていない -105 • -104 データ型のエラー • -103 無効なセパレータ • -102 構文エラー -101 無効な文字 コマンドエラー -100 +000 エラー無し +101 動作の完了 +301 読み取りがオーバーフロー パルストリガ検出がタイムアウト +302 +306 読み取り可能 バッファが満杯 +310 +320 電流リミットイベント 電流リミットによるトリップイベント +321

過温度エラー

過雷圧エラー

+409

+410

lacktriangle

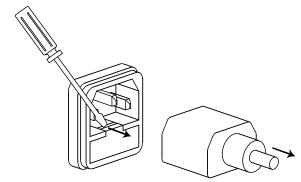
校正日が設定されていない +438 +440 ゲインアパーチャーの補正エラー 校正データが無効 +500 +510 読み出しバッファのデータが失われた GP-IB アドレスが失われた +511 +512 電源 ON 状態が失われた +514 DC 校正データが失われた 校正日データが失われた +515 GP-IB 通信のデータが失われた +522 +610 Questionable 校正 +900 内部システムのエラー

8. 付録

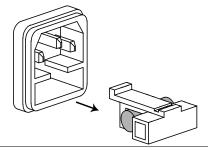
手順

8.1. ヒューズの交換方法

電源ケーブルを取り外し、小型のマイナスドライバー等を使用 して下図のようにヒューズボックスを取り外します。



ヒューズはハウジング内に取り付けられています。



PDW32-6SG, PDW32-3DG, PDW32-3TG, PDW32-3QG モデル名

ヒューズ定格 T6.30A/250V(100V/120V)/T3.15A/250V(220V/230V)

モデル名 PDW36-10SG, PDW72-5SG

PDW30-6TG, PDW36-5TG, PDW60-3TG

ヒューズ定格 T12A/250V(100V/120V) / T6.3A/250V(220V/230V)

8.2. 製品仕様

仕様は次の条件下で適用されます。

- 電源投入から少なくとも30分が経過すること
- 周囲温度が+20℃~+30℃の範囲内

8.2.1. PDW32-6SG

雷	源	継	船	

出力定格	CH1 動作	0 - 32.000V, 0 - 6.0000A
電圧特性	入力変動	≤ 0.01% + 3mV
	負荷変動	≤ 0.02% + 5mV
	リップル・ノイズ	≤0.5mVrms, (5Hz-1MHz)
	過渡応答	≤100us, (50%の負荷変動、最小負荷 0.5A)
	温度係数	≤ 300ppm/°C
電流特性	入力変動	≤ 0.2% + 3mA
	負荷変動	≤ 0.2% + 3mA
	リップル・ノイズ	≤4mArms
分解能	電圧	設定: 1mV, リードバック: 0.1mV
	電流	設定: 0.2mA, リードバック: 0.2mA
確度	電圧計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 6 桁
	電流計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 5 桁
	電圧設定確度	± (0.03% of reading + 10mV)
	電流設定確度	± (0.3% of reading + 10mA)
	電圧表示確度	± (0.03% of reading + 10mV)
	電流表示確度	± (0.3% of reading + 10mA)
電子負荷機	幾能	
負荷モード	定電圧(CV)モー	-ド、定電流(CC)モード、定抵抗(CR)モード
表示	電圧	1 - 33.00V
	電流	0 – 6.200A
	電力	0 – 100.00W
CV モード	設定	1.500V - 33.00V
	設定表示確度	≤0.1% + 30mV
	分解能	10mV

CC モード	設定	0 - 6.200A
	設定表示確度	≤±0.3% + 10mA
	分解能	1mA
CR モード	設定	1Ω - 1kΩ
	設定表示確度	≤±(3% + 1Ω), (電圧≥0.1V、かつ、電流≥0.1A)
	分解能	1Ω
その他の仕	:様	
保護機能		過電流、過電力(負荷時)、逆接(負荷時) と出力/LOAD がオフになります。
OVP 機能	電源機能	OFF, ON (0.5V - 35.0V)
	電子負荷機能	OFF, ON (1.5V - 35.0V)
	設定確度	±100mV
	分解能	100mV
OCP 機能		OFF, ON (0.05A - 7.00A)
	設定確度	±20mA
	分解能	10mA
OPP 機能	電子負荷機能	100W 以上
過熱保護	内部温度異常時	
寸法	213 (W) x 145 (H) x 311.2 (D) mm	
重量	約 7.5kg	
入力電圧	AC100V/120V/	220V/230V±10%, 50Hz/60Hz、切換式
消費電力	360W	

8.2.2. PDW36-10SG 電源機能

电源機能		
出力定格	CH1 動作	0 - 36.000V, 0 - 10.0000A
電圧特性	入力変動	≤ 0.01% + 3mV
	負荷変動	≤ 0.01% + 5mV
	リップル・ノイズ	≤2mVrms, (5Hz-1MHz)
	過渡応答	≤100us, (50%の負荷変動、最小負荷 0.5A)
	温度係数	≤ 300ppm/°C
雷流特性	入力変動	≤ 0.01% + 3mA

	負荷変動	≤ 0.01% + 3mA
	リップル・ノイズ	≤2mArms
分解能	電圧	設定: 1mV, リードバック: 0.1mV
	電流	設定: 0.2mA, リードバック: 0.2mA
確度	電圧計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 6 桁
	電流計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 5 桁
	電圧設定確度	± (0.03% of reading + 10mV)
	電流設定確度	± (0.3% of reading + 10mA)
	電圧表示確度	± (0.03% of reading + 10mV)
	電流表示確度	± (0.3% of reading + 10mA)
電子負荷機	· · · ·	
負荷モード	定電圧(CV)モー	-ド、定電流(CC)モード、定抵抗(CR)モード
表示	電圧	1-36.50V
	電流	0-10.200A
	電力	0 – 100.00W
CV モード	設定	1.500V-36.50V
	設定表示確度	≤0.1% + 30mV
	分解能	10mV
CC モード	設定	0 - 10.200A
	設定表示確度	\leq ± (0.3% + 10mA)
	分解能	1mA
CR モード	設定	1Ω - 1kΩ
	設定表示確度	≤±(3% + 1Ω), (電圧≥0.1V、かつ、電流≥0.1A)
	分解能	1Ω
その他の仕	:様	
保護機能		過電流、過電力(負荷時)、逆接(負荷時) と出力/LOAD がオフになります。
OVP 機能	電源機能	OFF, ON (0.5V - 38.0V)
	電子負荷機能	OFF, ON (1.5V - 38.0V)
	設定確度	±100mV
	分解能	100mV

OCP 機能		OFF, ON (0.05A - 10.50A)
	設定確度	±20mA
	分解能	10mA
OPP 機能	電子負荷機能	100W 以上
過熱保護	内部温度異常時	
寸法	213 (W) x 145 (H) x 362 (D) mm	
重量	約 10kg	
入力電圧	AC100V/120V/220V/230V±10%, 50Hz/60Hz、切換式	
消費電力	900VA、680W	

8.2.3. PDW72-5SG

毒	·II	機	4
'語'	110	X44	FIL
电	끼亦	אנו	нь

出力定格	CH1 動作	0 - 72.000V, 0 - 5.0000A
電圧特性	入力変動	≤ 0.01% + 3mV
	負荷変動	≤ 0.01% + 5mV
	リップル・ノイズ	≤2mVrms, (5Hz-1MHz)
	過渡応答	≤100us, (50%の負荷変動、最小負荷 0.5A)
	温度係数	≤ 300ppm/°C
電流特性	入力変動	≤ 0.01% + 3mA
	負荷変動	≤ 0.01% + 3mA
	リップル・ノイズ	≤2mArms
分解能	電圧	設定: 2mV, リードバック: 0.1mV
	電流	設定: 0.1mA, リードバック: 0.1mA
確度	電圧計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 6 桁
	電流計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 5 桁
	電圧設定確度	± (0.03% of reading + 10mV)
	電流設定確度	± (0.3% of reading + 10mA)
	電圧表示確度	± (0.03% of reading + 10mV)
	電流表示確度	± (0.3% of reading + 10mA)
あったサギ	طد نانا مادا نانا	

電子負荷機能

負荷モード 定電圧(CV)モード、定電流(CC)モード、定抵抗(CR)モード

表示 電圧 1-72.50V

	電流	0 – 5.200A
	電力	0 – 100.00W
CV モード	設定	1.500V – 72.50V
	設定表示確度	≤0.1% + 30mV
	分解能	10mV
CC モード	設定	0 - 5.200A
	設定表示確度	\leq ± (0.3% + 10mA)
	分解能	1mA
CR モード	設定	1Ω - 1kΩ
	設定表示確度	≤±(3% + 1Ω), (電圧≥0.1V、かつ、電流≥0.1A)
	分解能	1Ω
その他の仕	 上様	
保護機能	過熱、過電圧、過電流、過電力(負荷時)、逆接(負荷時) 保護状態に入ると出力/LOAD がオフになります。	
OVP 機能	電源機能	OFF, ON (0.5V - 75.0V)
	電子負荷機能	OFF, ON (1.5V - 75.0V)
	設定確度	±100mV
	分解能	100mV
OCP 機能		OFF, ON (0.05A – 5.50A)
	設定確度	±20mA
	分解能	10mA
OPP 機能	電子負荷機能	100W 以上
過熱保護	内部温度異常問	
寸法	213 (W) x 145 (H) x 362 (D) mm	
重量	約 10kg	
入力電圧	AC100V/120V/	/220V/230V±10%, 50Hz/60Hz、切換式
消費電力	900VA、680W	
-		

8.2.4. PDW32-3DG

電源機能

出力定格CH1/CH2 独立出力モード0 - 32.000V, 0 - 3.0000ACH1/CH2 並列トラッキングモード0 - 32.000V, 0 - 6.0000A

CH1/CH2 直列トラッキングモード 0 - 64.000V, 0 - 3.0000A

	OITI/OITZ ED)	1777777 1 0 0 1100001, 0 0.000001
CH1/CH2	独立出力モード	
電圧特性	入力変動	≤ 0.01% + 3mV
	負荷変動	≤ 0.01% + 3mV
	リップル・ノイズ	≤0.35mVrms, (5Hz-1MHz)
	過渡応答	≤50us, (50%の負荷変動、最小負荷 0.5A)
	温度係数	≤ 300ppm/°C
電流特性	入力変動	≤ 0.2% + 3mA
	負荷変動	≤ 0.2% + 3mA
	リップル・ノイズ	≤2mArms
CH1/CH2	トラッキングモー	r e
	トラッキング 誤差	≤ 0.1% +10mV of Master: 無負荷時 負荷がある場合は、負荷変動≤100mV を加算
並列	入力変動	≤ 0.01% + 3mV
	負荷変動	≤ 0.02% + 5mV
直列	入力変動	≤ 0.01% + 5mV
	負荷変動	≤ 100mV
	リップル・ノイズ	≤1mVrms, (5Hz-1MHz)
分解能	電圧	設定: 1mV, リードバック: 0.1mV
	電流	設定: 0.1mA, リードバック: 0.1mA
確度	電圧計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 6 桁
	電流計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 5 桁
	電圧設定確度	± (0.03% of reading + 10mV)
	電流設定確度	± (0.3% of reading + 10mA)
	電圧表示確度	± (0.03% of reading + 10mV)
	電流表示確度	± (0.3% of reading + 10mA)
電子負荷板	幾能(CH1, CH2)	
負荷モード	定電圧(CV)モー	-ド、定電流(CC)モード、定抵抗(CR)モード
表示	電圧	1 - 33.00V
	電流	0 – 3.200A
	電力	0 – 50.00W

CV モード	設定	1.500V - 33.00V
	設定表示確度	≤0.1% + 30mV
	分解能	10mV
CC モード	設定	0 - 3.200A
	設定表示確度	≤±0.3% + 10mA
	分解能	1mA
CR モード	設定	1Ω - 1kΩ
	設定表示確度	≤±(3% + 1Ω), (電圧≥0.1V、かつ、電流≥0.1A)
	分解能	1Ω
その他の仕	:様	
保護機能		過電流、過電力(負荷時)、逆接(負荷時) と出力/LOAD がオフになります。
OVP 機能	電源機能	OFF, ON (0.5V - 35.0V)
	電子負荷機能	OFF, ON (1.5V - 35.0V)
	設定確度	±100mV
	分解能	100mV
OCP 機能		OFF, ON (0.05A – 3.50A)
	設定確度	±20mA
	分解能	10mA
OPP 機能	電子負荷機能	50W 以上
過熱保護	内部温度異常時	
寸法	213 (W) x 145 (H) x 311.2 (D) mm	
重量	約 7.5kg	
入力電圧	AC100V/120V/	220V/230V±10%, 50Hz/60Hz、切換式
消費電力	360W	

8.2.5. PDW30-6TG

電源機能

出力定格	CH1/CH2 独立出力モード	0 - 30.000V, 0 - 6.0000A
	CH1/CH2 並列トラッキングモード	0 - 30.000V, 0 - 12.0000A
	CH1/CH2 直列トラッキングモード	0 - 60.000V, 0 - 6.0000A

CH1/CH2	独立出力モード	
電圧特性	入力変動	≤ 0.01% + 3mV
	負荷変動	≤ 0.01% + 5mV
	リップル・ノイズ	≤1mVrms, (5Hz-1MHz)
	過渡応答	≤100us, (50%の負荷変動、最小負荷 0.5A)
	温度係数	≤ 300ppm/°C
電流特性	入力変動	≤ 0.01% + 3mA
	負荷変動	≤ 0.01% + 3mA
	リップル・ノイズ	≤2mArms
CH1/CH2	トラッキングモート	
	トラッキング 誤差	≤ 0.1% +10mV of Master: 無負荷時 負荷がある場合は、負荷変動≤200mV を加算
並列	入力変動	≤ 0.01% + 3mV
	負荷変動	≤ 0.02% + 5mV
直列	入力変動	≤ 0.01% + 5mV
	負荷変動	≤ 200mV
	リップル・ノイズ	≤2mVrms, (5Hz-1MHz)
分解能	電圧	設定: 1mV, リードバック: 0.1mV
	電流	設定: 0.2mA, リードバック: 0.1mA
確度	電圧計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 6 桁
	電流計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 5 桁
	電圧設定確度	± (0.03% of reading + 10mV)
	電流設定確度	± (0.3% of reading + 10mA)
	電圧表示確度	± (0.03% of reading + 10mV)
	電流表示確度	± (0.3% of reading + 10mA)
CH3 バイ:	ンドポスト出力	
	出力電圧	1.8V/2.5V/3.3V/5.0V, ±5%, リードバックなし
	出力電流	5A、リードバックなし
	入力変動	≤ 3mV
	負荷変動	≤5mV
	リップル・ノイズ	≤2mVrms, (5Hz-1MHz)

CH3 USB 給電ポート

出力 1.8V/2.5V/3.3V/5.0V, ±0.35V, 3A

CH3 の 2 つの合計出力電流は、5A 以下で使用してください。

電子負荷機能(CH1, CH2)	
------------------	--

負荷モード	定電圧(CV)モー	・ド、定電流(CC)モード、定抵抗(CR)モード
主ー	東 広	1 - 32 00\/

衣小	电冮	1 - 32.00 V
	電流	0 – 6.200A
	雷力	0 - 50.00W

1.500V - 32.00V CV モード 設定

> ≤0.1% + 30mV 設定表示確度

分解能 10mV

CC モード 設定 0 - 6.200A

> ≤±0.3% + 10mA 設定表示確度

1mA 分解能

1Ω - 1kΩCR モード 設定

分解能

設定表示確度 ≤±(3% + 1Ω), (電圧≥0.1V、かつ、電流≥0.1A)

10

その他の仕様

過熱、過電圧、過電流、過電力(負荷時)、逆接(負荷時) 保護機能

保護状態に入ると出力/LOAD がオフになります。

CH1, 2: OFF, ON (0.5V - 35.0V) OVP 機能 電源機能

CH3: 5.5V 固定

OFF, ON (1.5V - 35.0V) 電子負荷機能

設定確度 ±100mV 分解能 100mV

CH1, 2: OFF, ON (0.05A - 6.50A) OCP 機能

CH3: 3.1A 固定(USB 給電ポート)

設定確度 +20mA 10mA 分解能

OPP 機能 電子負荷機能 50W 以上

過熱保護	内部温度異常時
寸法	213 (W) x 145 (H) x 362 (D) mm
重量	約 10kg
入力電圧	AC100V/120V/220V/230V±10%, 50Hz/60Hz、切換式
消費電力	900VA, 680W

8.2.6. PDW32-3TG

雷	源	檰	啙
æ	加水	אלוו	ΗБ

出力定格	CH1/CH2 独立出力モード	0 - 32.000V, 0 - 3.0000A
	CH1/CH2 並列トラッキングモード	0 - 32.000V, 0 - 6.0000A
	CH1/CH2 直列トラッキングモード	0 - 64.000V, 0 - 3.0000A

CH1/CH2 独立出力モード

電圧特性	入力変動	≤ 0.01% + 3mV
	負荷変動	≤ 0.01% + 3mV
	リップル・ノイズ	≤0.35mVrms, (5Hz-1MHz)
	過渡応答	≤50us, (50%の負荷変動、最小負荷 0.5A)
	温度係数	≤ 300ppm/°C
電流特性	入力変動	≤ 0.2% + 3mA
	負荷変動	≤ 0.2% + 3mA
	リップル・ノイズ	≤2mArms

CH1/CH2トラッキングモード

CITI/CITZ	CITI/CITE I DOTA DO LE IN		
	トラッキング 誤差	≤ 0.1% +10mV of Master: 無負荷時 負荷がある場合は、負荷変動≤100mV を加算	
並列	入力変動	≤ 0.01% + 3mV	
	負荷変動	≤ 0.02% + 5mV	
直列	入力変動	≤ 0.01% + 5mV	
	負荷変動	≤ 100mV	
	リップル・ノイズ	≤1mVrms, (5Hz-1MHz)	
分解能	電圧	設定: 1mV, リードバック: 0.1mV	
	電流	設定: 0.1mA, リードバック: 0.1mA	
確度	電圧計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 6 桁	
	電流計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 5 桁	

 \pm (0.03% of reading + 10mV) 電圧設定確度 ± (0.3% of reading + 10mA) 雷流設定確度 電圧表示確度 \pm (0.03% of reading + 10mV) 電流表示確度 \pm (0.3% of reading + 10mA) CH3 バインドポスト出力 1.8V/2.5V/3.3V/5.0V, ±5%, リードバックなし 出力電圧 出力電流 5A、リードバックなし ≤ 3mV 入力変動 ≤5mV 負荷変動 リップル・ノイズ ≤2mVrms, (5Hz-1MHz) ≤ 100µs (50%の負荷変動、最小負荷 0.5A) 過渡応答 CH3 USB 給電ポート 出力 1.8V/2.5V/3.3V/5.0V, ±0.35V, 3A CH3 の 2 つの合計出力電流は、5A 以下で使用してください。 電子負荷機能(CH1, CH2) 負荷モード 定電圧(CV)モード、定電流(CC)モード、定抵抗(CR)モード 1 - 33.00V 表示 電圧 雷流 0 - 3.200A電力 0 - 50.00W1.500V - 33.00V CV モード 設定 ≤0.1% + 30mV 設定表示確度 分解能 10mV CC モード 設定 0 - 3.200A ≤±0.3% + 10mA 設定表示確度 分解能 1mA CR モード 設定 1Ω - 1kΩ設定表示確度 ≤±(3% + 1Ω), (電圧≥0.1V、かつ、電流≥0.1A) 1Ω 分解能 その他の仕様 保護機能 過熱、過電圧、過電流、過電力(負荷時)、逆接(負荷時)

保護状態に入ると出力/LOAD がオフになります。

OVP 機能	電源機能	CH1, 2: OFF, ON (0.5V - 35.0V) CH3: 5.5V 固定
	電子負荷機能	OFF, ON (1.5V - 35.0V)
	設定確度	±100mV
	分解能	100mV
OCP 機能		CH1, 2: OFF, ON (0.05A – 3.50A) CH3: 3.1A 固定(USB 給電ポート)
	設定確度	±20mA
	分解能	10mA
OPP 機能	電子負荷機能	50W 以上
過熱保護	内部温度異常時	
寸法	213 (W) x 145 (H) x 311.2 (D) mm	
重量	約 7.5kg	
入力電圧	AC100V/120V/220V/230V±10%, 50Hz/60Hz、切換式	
消費電力	420W	

8.2.7. PDW36-5TG

CH1/CH2 独立出力モード		0 - 36.000V, 0 - 5.0000A	
CH1/CH2 並列トラッキングモード		0 - 36.000V, 0 - 10.0000A	
CH1/CH2 直列	トラッキングモード	0 - 72.000V, 0 - 5.0000A	
CH1/CH2 独立出力モード			
入力変動	≤ 0.01% + 3mV		
負荷変動	≤ 0.01% + 5mV		
リップル・ノイズ	≤1mVrms, (5Hz-1l	MHz)	
過渡応答	≤100us, (50%の負	l荷変動、最小負荷 0.5A)	
温度係数	≤ 300ppm/°C		
入力変動	≤ 0.01% + 3mA		
負荷変動	≤ 0.01% + 3mA		
リップル・ノイズ	≤2mArms		
	CH1/CH2 並列 CH1/CH2 直列 独立力モード 入力で動 負荷プル・ノイズ 過度 係変動 はで変動 人荷変動	CH1/CH2 並列トラッキングモード CH1/CH2 直列トラッキングモード 独立出力モード 入力変動 ≤ 0.01% + 3mV 負荷変動 ≤ 0.01% + 5mV リップル・ノイズ ≤1mVrms, (5Hz-1) 過渡応答 ≤100us, (50%の負 温度係数 ≤ 300ppm/°C 入力変動 ≤ 0.01% + 3mA	

CH1/CH2	トラッキングモー	÷	
	トラッキング	≤ 0.1% +10mV of Master: 無負荷時	
	誤差	負荷がある場合は、負荷変動≤200mV を加算	
並列	入力変動	≤ 0.01% + 3mV	
	負荷変動	≤ 0.01% + 5mV-	
直列	入力変動	≤ 0.01% + 5mV	
	負荷変動	≤ 200mV	
	リップル・ノイズ	≤2mVrms, (5Hz-1MHz)	
分解能	電圧	設定: 1mV, リードバック: 0.1mV	
	電流	設定: 0.2mA, リードバック: 0.1mA	
確度	電圧計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 6 桁	
	電流計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 5 桁	
	電圧設定確度	± (0.03% of reading + 10mV)	
	電流設定確度	± (0.3% of reading + 10mA)	
	電圧表示確度	± (0.03% of reading + 10mV)	
	電流表示確度	± (0.3% of reading + 10mA)	
CH3 バイ	ンドポスト出力		
	出力電圧	1.8V/2.5V/3.3V/5.0V, ±5%, リードバックなし	
	出力電流	5A、リードバックなし	
'	入力変動	≤ 3mV	
	負荷変動	≤5mV	
	リップル・ノイズ	≤2mVrms, (5Hz-1MHz)	
	過渡応答	≤ 100µs (50%の負荷変動、最小負荷 0.5A)	
CH3 USB 給電ポート			
	出力	1.8V/2.5V/3.3V/5.0V、±0.35V, 3A	
<u>!</u> 注意	CH3の2つの合計出力電流は、5A以下で使用してください。		
電子負荷板	幾能(CH1, CH2)		
負荷モード	負荷モード 定電圧(CV)モード、定電流(CC)モード、定抵抗(CR)モード		
表示	電圧	1 – 36.50V	
	電流	0 – 5.200A	
	電力	0 – 50.00W	

CVモード	設定	1.500V – 36.50V
	設定表示確度	≤0.1% + 30mV
	分解能	10mV
CC モード	設定	0 - 5.200A
	設定表示確度	≤±0.3% + 10mA
	分解能	1mA
CR モード	設定	1Ω - 1kΩ
	設定表示確度	≤±(3% + 1Ω), (電圧≥0.1V、かつ、電流≥0.1A)
	分解能	1Ω
その他の仕	 :様	
保護機能		過電流、過電力(負荷時)、逆接(負荷時)
	保護状態に入る	と出力/LOAD がオフになります。
OVP 機能	電源機能	CH1, 2: OFF, ON (0.5V - 38.0V) CH3: 5.5V 固定
	電子負荷機能	OFF, ON (1.5V - 38.0V)
	設定確度	±100mV
	分解能	100mV
OCP 機能		CH1, 2: OFF, ON (0.05A – 5.50A)
		CH3: 3.1A 固定(USB 給電ポート)
	設定確度	±20mA
	分解能	10mA
OPP 機能	電子負荷機能	50W 以上
過熱保護	内部温度異常時	
寸法	213 (W) x 145 (H) x 362 (D) mm	
重量	約 10kg	
入力電圧	AC100V/120V/220V/230V±10%, 50Hz/60Hz、切換式	
消費電力	900VA, 680W	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	

8.2.8. PDW60-3TG

出力定格	CH1/CH2 独立	出力モード	0 - 60.000V, 0 - 3.0000A
	CH1/CH2 並列	トラッキングモード	0 - 60.000V, 0 - 6.0000A
	CH1/CH2 直列	トラッキングモード	0 - 120.000V, 0 - 3.0000A
CH1/CH2	独立出力モード		
電圧特性	入力変動	≤ 0.01% + 3mV	
	負荷変動	≤ 0.01% + 5mV	
	リップル・ノイズ	≤1mVrms, (5Hz-1	MHz)
	過渡応答	≤100us, (50%の負	自荷変動、最小負荷 0.5A)
	温度係数	≤ 300ppm/°C	
電流特性	入力変動	≤ 0.01% + 3mA	
	負荷変動	≤ 0.01% + 3mA	
	リップル・ノイズ	≤2mArms	
CH1/CH2	トラッキングモー	· ·	
	トラッキング		Master: 無負荷時
	誤差	負荷がある場合は	、負荷変動≤200mV を加算
並列	入力変動	≤ 0.01% + 3mV	
	負荷変動	≤ 0.01% + 5mV	
直列	入力変動	≤ 0.01% + 5mV	
	負荷変動	≤ 200mV	
	リップル・ノイズ	≤2mVrms, (5Hz-1	MHz)
分解能	電圧	設定: 2mV, リード	バック: 0.1mV
	電流	設定: 0.1mA, リー	ドバック: 0.1mA
確度	電圧計	設定桁数: 5 桁, リ	ードバック桁数: 6 桁
	電流計	設定桁数: 5 桁, リ	ードバック桁数: 5 桁
	電圧設定確度	± (0.03% of reading	ng + 10mV)
	電流設定確度	± (0.3% of reading	g + 10mA)
	電圧表示確度	± (0.03% of reading	ng + 10mV)
	電流表示確度	± (0.3% of reading	g + 10mA)

-		
CH3 バイン	ンドポスト出力	
	出力電圧	1.8V/2.5V/3.3V/5.0V, ±5%, リードバックなし
	出力電流	5A、リードバックなし
	入力変動	≤ 3mV
	負荷変動	≤ 5mV
	リップル・ノイズ	≤2mVrms, (5Hz-1MHz)
	過渡応答	≤ 100µs (50%の負荷変動、最小負荷 0.5A)
CH3 USB	給電ポート	
	出力	1.8V/2.5V/3.3V/5.0V、±0.35V, 3A
<u>!</u> 注意	CH3 の 2 つの台	合計出力電流は、5A 以下で使用してください。
電子負荷機	幾能(CH1, CH2)	
負荷モード	定電圧(CV)モー	-ド、定電流(CC)モード、定抵抗(CR)モード
表示	電圧	1 - 62.00V
	電流	0 – 3.200A
	電力	0 – 50.00W
CV モード	設定	1.500V - 62.00V
	設定表示確度	≤0.1% + 30mV
	分解能	10mV
CC モード	設定	0 - 3.200A
	設定表示確度	≤±0.3% + 10mA
	分解能	1mA
CR モード	設定	1Ω - 1kΩ
	設定表示確度	≤±(3% + 1Ω), (電圧≥0.1V、かつ、電流≥0.1A)
	分解能	1Ω
その他の仕	:様	
保護機能	過熱、過電圧、過電流、過電力(負荷時)、逆接(負荷時) 保護状態に入ると出力/LOAD がオフになります。	
OVP 機能	電源機能	CH1, 2: OFF, ON (0.5V - 65.0V) CH3: 5.5V 固定
	電子負荷機能	OFF, ON (1.5V - 65.0V)
	設定確度	±100mV

	分解能	100mV	
OCP 機能	•		
		CH3: 3.1A 固定(U	SB 給電ポート)
	設定確度	±20mA	
	分解能	10mA	
OPP 機能	電子負荷機能	50W 以上	
過熱保護	内部温度異常時	ŧ	
寸法	213 (W) x 145	(H) x 362 (D) mm	
重量	約 10kg		
入力電圧	AC100V/120V/	220V/230V±10%, 5	50Hz/60Hz、切換式
消費電力	900VA, 680W		
	DW32-3QG		
電源機能			
出力定格	CH1/CH2 独立	出力モード	0 - 32.000V, 0 - 3.0000A
	CH1/CH2 並列	トラッキングモード	0 - 32.000V, 0 - 6.0000A
	CH1/CH2 直列	トラッキングモード	0 - 64.000V, 0 - 3.0000A
	CH3		0 - 5.000V, 0 - 1.0000A
	CH4		0 - 15.000V, 0 - 1.0000A
CH1/CH2	独立出力モード,	CH3, CH4	
電圧特性	入力変動	≤ 0.01% + 3mV	
	負荷変動	≤ 0.01% + 3mV	
	リップル・ノイズ	CH1, 2: ≤0.35mVr CH3, 4: ≤1mVrms	
	過渡応答	≤50us, (50%の負荷	苛変動、最小負荷 0.5A)
	温度係数	≤ 300ppm/°C	
電流特性	入力変動	≤ 0.2% + 3mA	
	負荷変動	≤ 0.2% + 3mA	
	リップル・ノイズ	≤2mArms	
CH1/CH2 トラッキングモード			
_	トラッキング	≤ 0.1% +10mV of	Master: 無負荷時
	誤差	負荷がある場合は、	、負荷変動≤100mV を加算
並列	入力変動	≤ 0.01% + 3mV	

	負荷変動	≤ 0.02% + 5mV
直列	入力変動	≤ 0.01% + 5mV
	負荷変動	≤ 100mV
	リップル・ノイズ	≤1mVrms, (5Hz-1MHz)
分解能	電圧	設定: 1mV, リードバック: 0.1mV
	電流	設定: 0.1mA, リードバック: 0.1mA
確度	電圧計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 6 桁
	電流計	設定桁数: 5 桁, リードバック桁数: 5 桁
	電圧設定確度	± (0.03% of reading + 10mV)
	電流設定確度	± (0.3% of reading + 10mA)
	電圧表示確度	± (0.03% of reading + 10mV)
	電流表示確度	± (0.3% of reading + 10mA)
電子負荷機	幾能(CH1, CH2)	
負荷モード	定電圧(CV)モー	-ド、定電流(CC)モード、定抵抗(CR)モード
表示	電圧	1 - 33.00V
	電流	0 – 3.200A
	電力	0 – 50.00W
CV モード	設定	1.500V - 33.00V
	設定表示確度	≤0.1% + 30mV
	分解能	10mV
CC モード	設定	0 - 3.200A
	設定表示確度	≤±0.3% + 10mA
	分解能	1mA
CR モード	設定	1Ω - 1kΩ
	設定表示確度	≤±(3% + 1Ω), (電圧≥0.1V、かつ、電流≥0.1A)
	分解能	1Ω
その他の仕	 :様	
保護機能	過熱、過電圧、過電流、過電力(負荷時)、逆接(負荷時) 保護状態に入ると出力/LOAD がオフになります。	
OVP 機能	電源機能	CH1, 2: OFF, ON (0.5V - 35.0V) CH3: OFF, ON (0.5V - 5.5V) CH4: OFF, ON (0.5V - 16.5V)

	電子負荷機能	OFF, ON (1.5V - 35.0V)
	設定確度	±100mV
	分解能	100mV
OCP 機能		CH1, 2: OFF, ON (0.05A – 3.50A) CH3, 4: OFF, ON (0.05A – 1.20A)
	設定確度	±20mA
	分解能	10mA
OPP 機能	電子負荷機能	50W 以上
過熱保護	内部温度異常時	
寸法	213 (W) x 145 (H) x 311.2 (D) mm	
重量	約 7.5kg	
入力電圧	AC100V/120V/220V/230V±10%, 50Hz/60Hz、切換式	
消費電力	420W	

8.2.10. 共通仕様

一般機能

シーケンス機能 最大 2048 Step、電圧・電流を可変ディレイ機能 最大 2048 Step、出力・LOAD を可変

モニタ機能 条件範囲を設定し判定

レコーダ機能 モニタ値を一定間隔でメモリに保存

外部 I/O 制御機能 内部状態を設定に合わせた出力、入力による動作状態

切換え

メモリ機能 内部メモリ、USB メモリに設定を保存

インターフェース

RS-232C EIA-232D 準拠、D-Sub9 ピン:メス

USB ホスト USB2.0 Type-A、USB メモリ専用、FAT32、16GByte 以下、

ロングファイルネーム不可

USB デバイス USB2.0 Type-B、仮想 COM(CH341)

GP-IB IEEE488.1 準拠

LAN IEEE802.3 準拠、100Base-TX、IPv4、

DHCP/Auto IP/固定 IP、Auto-MDIX HTTP ポート:80、Socket ポート 1026

通信コマンド IEEE488.2 準拠、SCPI1999 準拠

(一部互換コマンドは適用外)

ブザー モニタ機能判定時、キー操作時、消音可能

外部 I/O 3.3V TTL レベル(保護回路なし)

機能切換付き双方向 5 ポート

MIL 規格準拠 10ピン 2.54mm ピッチ 2 列

EMC 指令 2004/108/EC for Class A test

LVD 指令 2006/95/EC

絶縁抵抗 シャーシ~出力端子間: 20MΩ 以上 (DC 500V)

シャーシ~AC 入力端子間: 30MΩ 以上 (DC 500V)

使用環境 高度: 2000m 以下, 測定カテゴリ: II, 汚染度: 2

温度: 0~40℃, 相対湿度: 80%以下

保存環境 温度: -10℃~70℃, 湿度: 70%以下

8.3. 付属品

ショートバー x 1

電源ケーブル

テストリード

GTL-104A x 1, GTL-105A x 1 PDW32-6SG

GTL-104A x 1 PDW36-10SG, PDW72-5SG

GTL-104A x 2 PDW32-3D

GTL-104A x 3 PDW30-6TG, PDW32-3TG,

PDW36-5TG, PDW60-3TG

GTL-104A x 2, GTL-105A x 2 PDW32-3QG

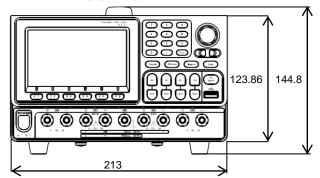
背面出力端子用コネクタ x 1 PDW36-10SG, PDW72-5SG

PDW30-6TG, PDW36-5TG,

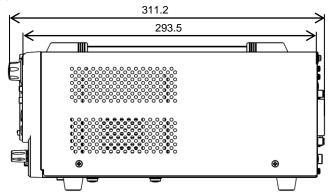
PDW60-3TG

8.4. PDW の寸法

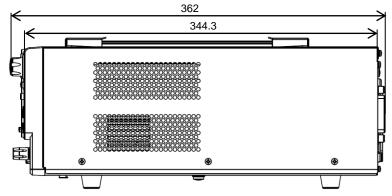
正面寸法 全機種共通



側面寸法 PDW32-6SG, PDW32-3DG, PDW32-3TG, PDW32-3QG



側面寸法 PDW36-10SG, PDW72-5SG, PDW30-6TG, PDW36-5TG, PDW60-3TG





株式会社テクシオ・テクノロジー

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-18-13 藤和不動産新横浜ビル 7F https://www.texio.co.jp/

アフターサービスに関しては下記サービスセンターへ サービスセンター 〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-18-13 藤和不動産新横浜ビル 8F TEL.045-620-2786